

『ラーマナ王物語』研究：修辞法の分析と後半部の訳註

根本裕史・扎布

1 序

本研究は前稿（根本・扎布 2021）の続編であり、シャンシュン・チューワンタクパ（Zhang zhung chos dbang grags pa: 1404–69）の叙事詩『ラーマナ王物語』（*Rā ma ṇa'i gtam rgyud*）の精読を通じてチベット古典詩の世界を紹介し、その文学的特徴を探るものである。以下では同作品に見られる修辞法について考察した後、第 68 詩節から第 217 詩節までの翻訳を提示する。

2 『ラーマナ王物語』に特徴的な修辞法：非明示的隠喩

チューワンタクパは、ダンディン（Daṇḍin: 7 世紀頃）の『詩鏡』（*Kāvyaḍarśa*）に規定される様々な修辞法を自身の『ラーマナ王物語』の中で使用している。『詩鏡』第 2 章に現れる三十五種の「意味の装飾要素」（*arthālaṅkāra*）の内、本質描写（*svabhāvokti*, *rang bzhin brjod pa*）、直喩（*upamā*, *dpe*）、隠喩（*rūpaka*, *gzugs can*）の使用が多く見られることは言うまでもない。また、詩的空想（*utprekṣā*, *rab rtog*）や縮約表現（*samāsokti*, *bsdus brjod*）など実に様々な修辞法の使用が確認される。さらに、他の多くのチベット古典詩と同様、『詩鏡』第 3 章で「言葉の装飾要素」（*śabdālaṅkāra*）として規定される同音節反復（*yamaka*, *zung ldan*）の技法も高い頻度で使用される。

『ラーマナ王物語』に特徴的な技法の一つ挙げるとするならば、それは非明示的隠喩（*sbas pa'i gzugs can*）¹であろう。ある詩の中で何かを喩える要素すなわち比喩基準（*dpe*）のみが文中に示され、それによって喩えられる要素すなわち比喩対象（*dpe can*）が明示されず、後者は文脈から推理して知られるのみである時、そのような比喩表現を非明示的隠喩と呼ぶ。

例えば「あなたの腕という蔓草（*bāhulatā*, *dpung ba 'khri shing*）は…」という隠喩表現がある²。ここである詩人が「あなたの腕という蔓草は…」という代わりに「あなたの蔓草は…」という表現を用いるとしよう。その時、「蔓草」（*latā*, *'khri shing*）という言葉が女性のか細い「腕」（*bāhu*, *dpung ba*）を暗示する隠喩であることが読者によって理解されるならば、非明示的隠喩が成立する。なぜなら、そこでは比喩対象と比喩基準の区別（*bheda*, *tha dad*）が目に見える形では表現されないの、第一に隠喩の定義を十分に満たしており、また第二には、「腕」という比喩対象が明示されない形になっているからである。

この隠喩の名称はトンドゥブギャ（*Don grub rgyal*: 1953–1985）³によって考案されたものである。トンドゥブギャ自身が明言しているように、この技法はダンディンの『詩鏡』第 2 章には規定されないが、『ラーマナ王物語』にしばしば現れる。例えば次の詩節を見てみよう。

¹チベット語の *sbas pa* は「隠れた」「隠された」を意味し、サンスクリットの *gupta*, *gūḍha*, *gopita* などに相当する語ではあるが、そもそもこの名称は 20 世紀のアムド地方出身の作家によって新たに考案されたものである以上、対応するサンスクリットの表現をインドの詩論書に見出そうとするのは無意味であろう。

²KĀ II 66: *upamaiva tirobhūtabhedā rūpakam ucyate | yathā bāhulatā pāṇipadmam caraṇapallavaḥ ||*; KĀ_S 14a2ff.: *tha dad snang min gyur pa yi || dpe nyid dag ni gzugs can 'dod || dpung ba 'khri shing lag pa ni || padma rkang pa yal 'dab bo ||*（「ある比喩表現に関して〔比喩基準と比喩対象の間の〕区別が隠れた状態になっている時、まさにその比喩表現は隠喩と呼ばれる。例：腕という蔓草、手という蓮、足という若葉。」）

³前稿で示したように、青海ラジオ局（*Mtsho sngon rlung 'phrin khang*）で収録されたトンドゥブギャの『ラーマナ王物語』講義の音源が残されている。チベット語アムド方言で行われたこの講義の文字起こしをするに当たって、ラジャブン（*Lha rgyal 'bum*, 拉加本）、パンチェン・トンドゥブ（*Paṅ chen don grub*, 班青東周）、タディンツォ（*Rta mgrin mtsho*, 旦正措）の三氏の協力を得た。ここに感謝の意を表す。

ལག་སོར་ཉི་འོད་ཚོགས་ཀྱིས་ནི། །
 པད་མའི་ཚལ་འདི་མངོན་པར་བྱ། །
 མིག་ཡངས་དེ་ཡིས་ལྷ་བྱེད་གཞན། །
 རི་མོར་བྲིས་པའི་མིག་ཏུ་བྱས། །

lag sor nyi 'od tshogs kyis ni ||
 pad ma'i tshal 'di mngon par phyé ||
 mig yangs de yis lta byed gzhan ||
 ri mor bris pa'i mig tu byas ||

手の指という日の光の束が
 この蓮華の庭園を開花させると
 切れ長の眼を持つその娘は他の眼を
 絵に描いた眼のような状態にした。(44)

物語のヒロインであるシーターが宝の箱に閉じ込められ、河に流された後、農夫達によって救出された場面を描いた詩である。宝で作られた箱の中には、おそらく箱以上に価値のある宝が詰まっているに違いないと考えた農夫達が一斉にその手を箱に伸ばしている様子を「光の束」('od tshogs)という隠喩が効果的に表現している。そして、農夫達が宝の箱を手で開け、中に閉じ込められたシーターを救出したことを「蓮華の庭園の開花」という隠喩が表現している。「蓮華の庭園」(pad ma'i tshal)という隠喩が表している比喩対象はシーターが閉じ込められた箱(sgrom)である。しかし、「箱」という比喩対象は明示されず、「蓮華の庭園」という比喩基準のみが示される。トンドゥプギャはここでの比喩表現を非明示的隠喩と命名する(Track 12, 10:48)。

次の詩節は、鹿を追って旅に出たラーマナがいつまでも帰って来ないために錯乱状態に陥ったシーターを前にして、ラグマナが語る独白の言葉である。

བཞིན་གྱི་ཚར་སྤྲིན་ནག་པོ་ལས། །
 སེར་བ་དྲག་པོ་འབབ་པ་ནིད། །
 དྲག་པོའི་དགའ་མ་ཁྲོས་པ་ཡི། །
 དམོད་པའི་དུག་ཚུ་འདི་ཡིན་ཏེ། །

bzhin gyi char sprin nag po las ||
 ser ba drag po 'bab pa nyid ||
 drag po'i dga' ma khros pa yi ||
 dmod pa'i dug chu 'di yin te ||

(ラグマナ：)

「顔という黒い雨雲から
 強烈な霰が降り注ぐ。
 ルドラ神の愛妻(ウマー)が発した怒りの
 呪いの毒液とはこれのことだ。」(72)

ここで注目するのは詩節の前半部である。ラグマナは、ちょうど黒い雨雲から強烈な霰(あられ)が降り注ぐように、シーターの顔から荒々しい言葉が発せられるさまを語っている。第一詩脚ではシーターの顔が「黒い雨雲」(sprin nag po)という隠喩で表現されている。第二詩脚にある「強烈な霰」(ser ba drag po)は、シーターがラグマナに向かって発した粗暴な言葉(tshig rtsub mo)を表す隠喩である。しかし、その比喩対象は明示されず、文脈から推理して知られるのみであり、この詩の中では「霰」という比喩基準のみが示される。この第二詩脚に見られる比喩表現が、トンドゥプギャによれば非明示的隠喩である(Track 16, 8:33)。

続いて引用するのは、シーターがラーヴァナによって連れ去られた後、森に戻って来たラーマナが妻が誘拐されたことを知って失神する場面を描いた詩である。

རྒྱལ་པོ་དགའ་བའི་རྩ་བ་ནི།
 ཚད་པས་རྒྱང་འབྲུང་ས་ལ་འབྱེལ།
 ཚངས་སྤྱོད་དཔལ་ལྡན་ཡིད་བསྐྱུས་གྱི།
 ཇི་བཟང་བསྐལ་བས་གསོས་པ་ཐོབ།།
 rgyal po dga' ba'i rtsa ba ni ||
 chad pas rkang 'thung sa la 'gyel ||
 tshangs spyod dpal ldan yid bsdus kyi ||
 dri bzang bsil bas gsos pa thob ||

王（ラーマナ）の喜びという根が切られたので
 樹（足で飲む者）は地面に倒れた。
 梵行という美質を具備するラグマナの
 ひんやりとする芳しい水のおかげで正気に返った。(111)

ちょうど樹がその根を切られると倒壊するように、ラーマナはシーターが姿を消すとその精神的衝撃のために意識を失い、地面に倒れてしまったということを前半の二詩脚で表現している。第一詩脚ではラーマナにとっての喜び、すなわちシーターという喜悅対象を「根」という隠喩によって表現している。そして、第二詩脚における「樹」はラーマナの身体 (lus) のことを表している。「身体」という比喩対象が明示されず、「樹」という比喩基準のみが語られるので、トンドゥプギャによればこの表現も非明示的隠喩である (Track 19, 26:40)。

最後にもう一つの例を見ることにしたい。ラーマナが猿の王スグリーヴァに対し、自身の妻シーターの特徴を説明する場面の詩である。

འགྲོ་བློ་སྐྱོང་ས་པའི་འདས་རྩལ་དུ།
 མདོག་ལེགས་དུག་གི་མེ་ཏོག་བྱུང་།།
 མཛེས་སྐྱུག་ལ་ཚགས་སྤྱང་རྩེ་དེ།
 བུང་བའི་རོ་འཛིན་ཉམས་བྱེད་དེ།།
 'gro blo rmongs pa'i 'dam rdzab tu ||
 mdog legs dug gi me tog byung ||
 mdzes sdug la chags sbrang rtsi de ||
 bung ba'i ro 'dzin nyams byed de ||

(ラーマナ:)

「迷える心を持つ人々という泥沼の只中に
 きれいな色をした毒の花が咲いたんだ。
 その美貌に付着した甘い蜜は
 蜂の舌（味を捉えるもの）を麻痺させる。」(122)

詩節の前半部では、シーターという美女の出現が巧みに描かれる。第一詩脚では世間の愚かな人々を「泥沼」('dam rdzab) という隠喩によって表現している。第二詩脚の「毒の花」(dug gi me tog) はシーターを表す隠喩であるが、比喩対象が明示されずに比喩基準のみが言及されるので、非明示的隠喩の構造が成立する。詩節の後半部では、シーターの破滅的な美貌に引き寄せられたラーマナの悲運が描写される。「美貌」(mdzes sdug) とは言うまでもなくシーターのそれであり、「蜂」(bung ba) はラーマナのことを表す。第三詩脚の「美貌」は、「花蕊」(ge sar) という隠喩によ

て示されるべきであろうが、ここでは「美貌」という比喩対象が言及され、それを暗示する「花蕊」という比喩基準が明示されない。次に、第四詩脚では反対に比喩対象が明示されず、比喩基準のみが言及される。すなわち、「蜂」という比喩基準のみが言及され、それによって暗示される「ラーマナ」という比喩対象が明示されていない。ここでも非明示的隠喩の構造が成立する（Track 21, 10:08）。

『ラーマナ王物語』には他にも非明示的隠喩の使用例が多くあるが、ここで全ての例を挙げる必要はないであろう。上に引用した四つの詩に見られる比喩表現は、いずれも比喩基準は言及されるが、それによって喩えられる比喩対象が明示されないという共通の特徴を有している。当然のことながら、明示されない比喩対象が何であるかを特定するためには、物語に関する知識が必要である。例えば第44詩節においては、シーターが箱に閉じ込められて川に流された後、農夫達によって救出されるという話の筋を知らなければ、「蓮華の庭園」が箱を暗示していることに読者は気づかないであろう。『ラーマナ王物語』における非明示的隠喩の多用は、この作品があらかじめ話の筋を理解している読者のために書かれていることの一つの証拠となる⁴。

3 部分に関する隠喩

トンドゥプギャが言うように、『ラーマナ王物語』の非明示的隠喩という技法は確かにダンディンの『詩鏡』に見られない。ただし、それと幾分か類似する修辞法は存在する。例えば「一部分に関する隠喩」（ekāṅgarūpaka, yan lag gcig gzugs can）⁵と呼ばれる技法などがそうである。ダンディンは以下のような例文を与えている。

madapāṭalagaṇḍena raktanetrotpalena te |
mukhena mugdhaḥ so 'py eṣa jano rāgamayaḥ kṛtaḥ || (KĀ II 75)

「酔いによって桃色になった両頬と、赤い両目という蓮を持つあなたの顔は、実にかの愚かな⁶男をも真っ赤にしました。」⁷

酒に酔って情欲をあらわにした真っ赤な女性の顔を見て、男性の顔も赤く染まる様子を描写した詩である。ここで女性の両目は「蓮」（utpala）という隠喩で喩えられるが、両頬を喩える隠喩はなく、顔全体を喩える隠喩もない。両目が「蓮」であるとするならば、おそらく顔は「蓮池」⁸ということになるであろうが、詩人はそれを明示しておらず、比喩世界をどのように構成するかは読者の想像に委ねられる。

⁴前稿の註51で示したように、『ラーマナ王物語』が主眼とするのは物語のあらすじを記述すること（gtam rgyud kyi byung rim brjod pa）ではなく、情景や人物の心情を精緻に描写すること（khor yug gi rnam pa dang mi sna'i nyams 'gyur zhib tu 'bri ba）であるという点も、ここで考慮するべきであろう。

⁵ダンディンは二部分に関する隠喩や、それ以上の数の部分（三部分、四部分など）に関する隠喩の可能性についても言及している（KĀ II 76）。なお、バーマハ（Bhāmaha）、ウドバタ（Udbhaṭa）、ルドラタ（Rudraṭa）、マンマタ（Mammaṭa）が規定する「部分的隠喩」（ekadeśavivartin, ekadeśin）という技法はダンディンの「一部分に関する隠喩」と同じ構造を有する（Gerow 1971: 239, 248）。部分的隠喩については山崎一穂博士（公益財団法人中村元東方研究所）より教示を受けた。ここに感謝の意を表す。

⁶mugdhaḥ「愚かな」。ラトナシュリージュニャーナ（Ratnaśrījñāna）は mugdhe という異読に基づき、この語を呼びかけ表現（「美しい女よ！」）として理解する。チベット語訳（シトゥ改訂版）も mugdhe という読みに基づき、mdzes ma「美しい女よ！」とする（KĀ_S 14b5）。Böhtlingk 1890: 32 は mugdhaḥ という読みに基づき törichten Menschen「愚かな人」と解釈し、Gerow 1971: 248 も同様に anyone bewildered by your face「あなたの顔によってうろたえた者は誰でも」と解釈する。

⁷KĀ_S 14b4ff.: mdzes ma myos pa'i 'khor tshos dmar || mig gi utpal dmar po can || khyod kyi gdong gis skye bo ni || 'dir yang dmar ba'i rang bzhin byas ||

⁸Gerow 1971: 248 の説明による。

比喩の構造を形成する幾つかの部分（*aṅga, yan lag*）が欠けている点において、「一部分に関する隠喩」は『ラーマナ王物語』の非明示的隠喩と類似するかもしれない。しかし、前者においては比喩対象（「顔」）のみが言及され、比喩基準（「蓮池」など）が明示されないのに対し、後者においては反対に比喩基準のみが言及され、比喩対象は明示されない。それゆえ、この二つの修辞法は同一のものとは言えない。

トンドゥプギャはダンディンの『詩鏡』に現れる「一部分に関する隠喩」およびチベットの詩論家によるその作例（*dper brjod*）⁹を知っていたはずであり、なおかつその特質は比喩対象の欠落ではなく、むしろ比喩基準の欠落にあることも理解していたであろう。それゆえ、このダンディンの隠喩の理論では、前述の『ラーマナ王物語』に特有の比喩表現を説明できないと彼は考えたはずである。ダンディンは自身の『詩鏡』第2章で規定される修辞法が全てを網羅するわけではないこと、その他にも無限の技法の可能性があることを示唆している¹⁰。このこともトンドゥプギャの念頭にあったかもしれない。いずれにせよ彼は、ダンディンの理論で説明がつかないチューワンタクパの隠喩表現を『詩鏡』第2章で扱われていない範疇のものとして捉え、それについては新たな用語を考案して説明するより他なかったのである。

4 縮約表現

次に、非明示的隠喩と縮約表現（*samāsokti, bsdus brjod*）の違いについて考えてみたい。縮約表現とは、意図されているものとは別の人物・事物の描写を通じて、当該の人物・事物について間接的に語る技法のことである¹¹。ダンディンは次のような例文を与えている。

piban madhu yathākāmaṃ bhramaraḥ phullapaṅkaje |
apy asaṃnaddhasaurabhyam paśya cumbati kuḍmalam || (KĀ II 206)

「見てごらん、蜜蜂は満開の蓮の中の蜜を欲するがままに吸っているというのに、芳香を未だ身にまとっていない蕾にまで口づけをしている。」¹²

ダンディン自身が与える説明によると、この詩は成熟した女性との情事に夢中になっている男が若い少女にも欲望を抱く様子を、蜜蜂に託して描いたものである¹³。「蜜蜂」（*bhramara*）は好色な男

⁹プーケーパ（*Bod mkhas pa: 1618–1685*）が示す作例は以下の通りである。*Dper brjod* 437.3ff.: 'dren pa khyod gsung rnam pa thams cad pa || legs bshad snyan pa'i gling bu rgyud gcig pas || gdul bya rang rang skal bar 'tsham pa'i chos || ston par nus pa shākya'i rgyal po'o ||（「導師よ、あなたの教説は〔単体でありながら〕あらゆる様相を具備するものであります。すぐれた説明という美しい笛の連なりによって、それぞれの所化の福分に応じた教法を説示することができるのはシャーキャ族の王者〔釈尊〕のみです。）」

¹⁰KĀ II 368: panthāḥ sa eva vivrtaḥ parimāṇavṛtṭyā saṃhr̥tya vistaram anantam alaṅkriyāṇām | vācām atītya viṣayam parivartamānān abhyāsa eva vivar̥tum alaṃ viśeṣān ||; KĀ_S 36b4: rgya che mtha' yas rab bsdus tshad du gyur pa yi || rgyan rnam dag gi lam 'di nyid ni rnam par phye || brjod pa'i yul las 'das par yongs su gnas pa yi || khyad par rnam ni goms pa nyid kyis dbye bar nus ||（「無限の細目を簡潔にまとめてから、限定的なあり方で、まさにその装飾要素の道を〔私は〕解説した。言葉の領域を超えて実際に存在する諸々の特殊項目を解き明かすことができるのは反復学習行為のみである。）」

¹¹KĀ II 205: vastu kiṃcid abhipretya tattulyasyānyavastunaḥ | uktiḥ saṃkṣeparūpatvāt sā samāsoktir iṣyate ||; KĀ_S 24a6: dngos po 'ga' la bsams byas nas || de dang mtshungs pa'i dngos po gzhan || bsdus pa'i tshul gyis brjod byed pa || de ni bsdus pa brjod par 'dod ||（「ある事物を意図して、それと類似する別の事物に関する表現がなされる時、それは縮約表現であると認められる。なぜなら縮約という本質を持つものだからである。）」

¹²KĀ_S 24b2: bung ba ji ltar 'dod pa bzhin || padma rgyas la sbrang rtsi 'thungs || dri zhim rgyas pa ma yin yang || me tog kha ma bye sbyor ltos ||

¹³KĀ II 207: iti prauḍhāṅganābaddharatilīlasya rāgiṇaḥ | kasyāṃcid iha bālāyām icchāvṛttir vibhāvṛyate ||; KĀ_S 24b2: chags ldan bud med dar ma la || dga' ba'i rtse dgas beings pa dag || bu mo 'ga' zhig dag la yang || 'dod pa 'phel ba ston par byed ||（「以上の詩では、成熟した女性との愛の遊戯に没頭する好色な男性の欲望がある少女にまで起きていることが明らかにされている。）」

性 (rāgin) を表し、「満開の蓮の中の蜜」(madhu phullapañkaje) は成熟した女性 (prauḍhāṅganā) との愛の遊戯 (ratilīlā) を表し、「蕾」(kuḍmala) は少女 (bālā) を表す。

蜜蜂等の描写によって意図されているこれらの対象は明示されない。その点において、縮約表現は非明示的隠喩と類似性を有するようにも見えるが、この両者の間には大きな相違がある。それは縮約表現においては喩えるものと喩えられるものの対応関係が全く示されないのに対し、非明示的隠喩が用いられる詩においては比喩基準と比喩対象の対応関係が部分的に示されるという点である。先に見たように、『ラーマナ王物語』第44詩節では「蓮華の庭園」と「箱」の対応関係は示されないが、「日の光の束」と「手の指」の対応関係は示される。第72詩節では「霰」と「粗暴な言葉」の対応関係は示されないが、「雨雲」と「顔」の対応関係は示される。第111詩節では「樹」と「ラーマナの身体」の対応関係は示されないが、「根」と「王の喜び」の対応関係は示される。第122詩節では「毒の花」と「シーター」および「蜂」と「ラーマナ」の対応関係は示されないが、「泥沼」と「迷える心を持つ人々」の対応関係は示される。このように比喩基準と比喩対象の組み合わせが部分的に語られる点にこの表現技法の特徴がある。

非明示的隠喩を用いた詩においては、現実と幻想とが交錯する。第44詩節で語り手は「日の光の束」に仮託された農夫達の「手の指」をしっかりと認識しているが、語り手の頭の中では、箱は「蓮華の庭園」そのものであり、そこから現れたシーターは「蓮華」そのものだったのであろう。第72詩節でラグマナは「黒い雨雲」に仮託されたシーターの「顔」をしっかりと認識しているが、彼女が発する荒々しい言葉の数々はラグマナには「霰」にしか見えなかったに違いない。非明示的隠喩は登場人物の主観的感情や錯覚を強烈に表現するのに最も効果的である。これに対し、縮約表現は幻想世界を語ることにのみによって成立する。すなわち、縮約表現において、作者は幻想世界を入念に構築しながら、裏の意味は伏せておき、その意味を探る努力を読者に委ねる。読者は謎解きをするようにして、作者が仕掛けた裏の意味を考えながら作品を鑑賞するのである。

以上のことを念頭に置いて『ラーマナ王物語』第131詩節を見てみよう。

ཡང་སྐྱེས་དང་པོར་ཕང་བ་ཡི།
 བྲང་འགྲོ་སྐྱོབས་ཆེན་འདི་གཞུང་བྱ།
 ཕྱོགས་ལས་རྒྱལ་བ་གཉིས་པ་ནི།
 བདག་གི་སོར་མེད་ཅོད་པར་ནོ།
 དེ་གཉིས་བསམ་པའི་རྒྱ་བོ་ནི།
 འདྲེས་ཏེ་གཤོང་བྱ་དམའ་བར་ལྷུང་།།
 yang smras dang por phang ba yi ||
 brang 'gro stobs chen 'di gzhom bya ||
 phyogs las rgyal ba gnyis pa ni ||
 bdag gi sor mo'i cod pan no ||
 de gnyis bsam pa'i chu bo ni ||
 'dres te gshong bu dma' bar lhung ||

さらに続けて彼はこう言った。

(スグリーヴァ：)

「まず差し当たっては近くにいる
 この手強い蛇（胸で進む者）を征伐しましょう。
 第二の全面的勝利は
 私の指先の宝冠であります。」
 彼ら二人の思いという河は
 合流して峡谷の下流へ流れて行く。(131)

猿の王スグリーヴァが、まず最初に敵対する猿バーリンを退治した後で、ラーヴァナ征伐に協力することをラーマナに約束する場面を描いた詩である。ここで注目するのは「まず差し当たっては近くにいるこの手強い蛇を征伐しましょう」というスグリーヴァの台詞である。諸註釈が示すように「蛇」とはバーリンのことである。興味深いことに、トンドゥプギャはこの「蛇」という表現を非明示的隠喩として説明する一方で、ここには縮約表現の要素が入っているとも述べている（Track 22, 4:10）。では、非明示的隠喩と縮約表現は両立するのであるだろうか。

もし先程我々が試みた分析が正しいならば、このバーリンの台詞は縮約表現であると考えべきであろう。なぜなら、この台詞の中で比喩基準と比喩対象の対応関係は部分的にも語られず、現実と幻想の交錯といった要素は認められないからである。あるいは、もしこの詩において非明示的隠喩と縮約表現が両立するならば、トンドゥプギャのいう非明示的隠喩はあまり厳密に規定されたものではなく、縮約表現をも内包するような緩やかな概念であったということになる。

なお、この詩節の末尾の二詩脚にも隠喩表現が登場する。まずスグリーヴァとラーマナの二人の思い (bsam pa) が「河」(chu bo) という隠喩によって語られる。その次に「峡谷」(gshong bu) という隠喩が現れるが、これが何を喩えているかは明示されない。トンドゥプギャによれば、「峡谷」はここに明示されない罪業 (sdiag pa'i las) を暗示する。すなわち、これから描写されるバーリン殺害やラーヴァナ殺害は罪業に他ならないので、それらの出来事を作者は読者に予告しているのである。比喩基準のみが語られ、比喩対象が明らかにされないので、ここでは非明示的隠喩が成立する（Track 22, 6:30）。『ラーマナ王物語』は仏教の説話ではないので、バーリン殺害やラーヴァナ殺害の是非が論じられることはないが、仏教僧であった作者チューワンタクパの眼には、二人の登場人物が峡谷の川の激流に飲み込まれて、下流へと猛烈な勢いで流されて行く様子がはっきりと映っていたのであろう。

5 結論

チベット古典詩の多くが、チベット語に翻訳された唯一のサンスクリット詩論書であるダンディンの『詩鏡』に基づいて書かれている。チューワンタクパの『ラーマナ王物語』も例外ではなく、そのほとんどの詩節においてダンディンによって規定される技法が用いられている。しかし、その中には、ダンディンによって規定されていない非明示的隠喩という技法が登場することに注意せねばならない。この技法の存在はかつてトンドゥプギャによって指摘されていたが、彼以降のチベットの学者達や、チベット外部の研究者達の間で注目されることはあまりなかったと思われる。

『ラーマナ王物語』で多用される非明示的隠喩は二つの重要な意味を持っている。第一にこの隠喩が多用されるという事実は、この作品が物語の筋をあらかじめ知っている読者のために書かれていることを表す。第二に現実と幻想が交錯する感覚を読者に与えるこの技法は、登場人物の感情や錯覚を強烈に表現する効果を持っている。チューワンタクパは基本的にはダンディンの理論に従っているが、非明示的隠喩の多用という事実が示すように、必ずしもその理論の枠組みにとらわれることはなく、自由自在に自身の芸術世界を構築することができたのである。

そもそもなぜ『ラーマナ王物語』という作品がゲルク派の仏教僧チューワンタクパによって書かれたのか。この作品は「ゲルク派にすぐれた詩人はいない」という悪評を払拭するために書かれたという説もあるが、真偽のほどは定かでない。少なくとも言えるのは、チューワンタクパが啓蒙的あるいは教育的な効果を狙ってこの作品を著したのではないということである。むしろ彼は自己の修練のために、あるいは自身が理想とする芸術世界の完成のためにこの作品を作ったのではなからうか。『ラーマナ王物語』の根底にあるのは芸術至上主義の精神であったに違いない。

6 翻訳研究

[8] ラグマナ、兄を探しに行く

སྐབས་དེར་མཚན་མོ་རྒྱ་བའི་མགོན། །
 རང་གི་བུ་མོ་ལ་ཆགས་པས། །
 ཀུན་ནས་མོངས་པའི་གདོང་ལུན་ཅན། །
 སྤྲི་ཏུ་ལྷ་བ་བཟུང་ཕྱིར་འོངས། །

68d: བཟུང་། ས; གཟུང་ Thimphu.

その時、羅刹（夜に蠢く者）の首領は
 自分の娘に対する愛欲によって
 惑わされたラーフ（顔に闇をもたらす者）となって
 シーターという月を捕らえるためにやって来た。(68)

rang gi bu mo la chags pas 「自分の娘に対する愛欲によって」 シーターはラーヴァナ自身の娘である。ラーヴァナは彼女が自分の娘であることにも気づかずに愛欲を起こしている（'Bab stegs 78.4f.）。

gdong mun can 「ラーフ（顔に闇をもたらす者）」 **gdong mun can** 「顔に闇をもたらす者」は **sgra gcan** 「ラーフ」（Skt. *rāhu*）を意味する詩的語彙である。ラーフは **zla ba za ba** 「月を食べる者」ともいわれる（'Bab stegs 78.5f.）。

དེ་གཟུགས་སྤོང་བ་པོར་བཅོས་ཤིང་། །
 རང་གི་གདངས་ནི་ས་ཡི་མགོན། །
 རྒྱ་མཚན་ལྷ་འཕྲོས་པ་དེས། །
 ཡི་གེ་གསལ་བ་མིན་པར་ནི། །
 སྤྲི་ཏུ་སྤྲི་ཏུ་ཞེས་པས་བོས། །

69b: གདངས་། ས; གདང་ Zhal.

69c: རྒྱ་མཚན་། ས; ར་མཚན་ Thimphu.

69e: སྤྲི་ཏུ་སྤྲི་ཏུ་། Zhal, Gser; སྤྲི་ཏུ་སྤྲི་ཏུ་ Mkha', Bkra; སྤྲི་ཏུ་སྤྲི་ཏུ་ Thimphu.

自身の姿を物乞いの姿に変えて
 声の調子を大地の守護者である
 ラーマナのように繕った彼は
 はっきりとしない声色で
 「シーター、シーター」と言って呼びかけた。(69)

yi ge gsal ba min par ni 「はっきりとしない声色で」 ラーヴァナはシーターを油断させるために、すっかり弱り果てた声（*ha cang nyam thag pa'i skad*）を使って彼女に呼びかけた（*Dgongs rgyan* 79.4）。

བྱད་མེད་ངང་རྒྱལ་མི་བརྟན་པས། །
 ཡིད་བསྐྱུས་ལ་ནི་གཏམ་འདི་སྤྲིས། །
 རབ་ཏུ་བསྐྱེལ་ལྷན་རྒྱལ་བའི་གསུང་། །

བདག་མིང་སྒྲོགས་པ་འདི་གཟིགས་ཤིག །
 བརྒྱུད་པ་ལྷ་སྤྱི་ཚོག་འདི་ལས། །
 མཚོན་ན་མཚོན་དེ་ཉམས་སུ་དོགས། །
 ཐུབ་ཡིད་བསྐྱུས་སམ་བསམ་གཏན་ལ། །
 མཉམ་བཞག་ན་བའི་བྱ་གར་ནི། །
 དོས་པ་མིན་པ་ཀུན་བཟུས་པའི། །
 ལོ་ལོ་ལྷ་དེ་སྤྲུགས་པར་བྱ། །

70c: བསྐྱུས་] ཟ; མཉམ་ Thimphu.

70e: བརྒྱུད་པ་] ཟ; ལྷ་བ་ Thimphu.

70g: ཐུབ་ཡིད་བསྐྱུས་སམ་] ཟ; ཐུབ་པ་ཡིད་བསྐྱུས་ Thimphu.

70i: དོས་པ་མིན་པ་] ཟ; གང་ཞིག་དོས་པ་ Thimphu. བཟུས་] ཟ; ལུས་ Thimphu.

70j: ལོ་ལོ་] ཟ; ལོ་བའི་ Thimphu. སྤྲུགས་] ཟ; སྤྲུག་ Gser. ལྷ་] ཟ; ལྷ་བ་ Thimphu.

女とは揺らぎやすい性質を持つものなので
 ラグマナに次のような話を語った。

(シーター：)

「まるで疲れ切ったような王様のお声が
 私の名を呼んでいるこのさまをご覧になって。
 息が詰まったようなこの言葉遣いから
 思いはかるに主人は苦しんでいるのではないかしら。
 牟尼よ、お前は意識を閉ざしてしまったのかい？
 禅定に入ったお前の耳の穴の中に
 あらゆる不適物を溶かした
 溶液を注ぎ込んでやりましょうか！」(70)

bud med ngang tshul mi brtan pas 「女とは揺らぎやすい性質を持つものなので」 シーターの個人的な性格というよりも、むしろ女性一般 (bud med kyi rigs) の傾向性を語った言明である ('Bab stegs 79.3)。シーターは何があっても決して動じることなく円形の光の壁の中に止まるように命じられていたが、ラーマナを装ったラーヴァナの憔悴したような声を聞くと、たちまち落ち着きを失ってしまった (*Mun sel* 141.7ff.)。

rab tu bsnyel ldan rgyal bo'i gsung 「まるで疲れ切ったような王様のお声」 一般に bsnyel は「忘却」を意味するが、ここでは ngal 「疲労」を意味する ('Bab stegs 79.5; *Dgongs rgyan* 81.1f.; *Mun sel* 140.8ff.)。

thub yid bsdus sam 「牟尼よ、お前は意識を閉ざしてしまったのかい？」 シーターが話し掛けた時、ラグマナは深い瞑想に入っていたので、彼女の言葉を聞いていなかった。そのため、シーターは苛立ち、ラグマナに向かって暴言を吐いている。ラグマナという名は「意識を閉ざした者」(yid bsdus) を意味することから、彼が自分の名前の通りに意識を閉ざし、死んでしまったのかと問い掛けているのである ('Bab stegs 79.9ff.)。

'os pa min pa kun bzhus pa'i 「あらゆる不適物を溶かした」 gang zhig 'os pa kun 「あらゆる適合物を…」 という異読もある。

khro yi chu de blugs par bya 「溶液を注ぎ込んでやりましょうか！」 シーターは自分の話を聞いてくれないラグマナの注意を引くために「あらゆる不適物を溶かした溶液」を彼の耳の穴に入れると言って脅している。blugs par bya は話者の意図を示す未来時制の表現と思われるが、文法に従えば blug par bya という語形が正しいはずである (blugs は完了形、blug は現在形および未来

形)。また、blugs par gyur「注ぎ込まれた」という異読もある。シェルシュルワは blugs par gyur を修辭的疑問文として理解し、「禪定に入ったお前の耳の穴の中に溶液が注ぎ込まれたとでもいうのか (khro yi chu de blugs par gyur pa yin nam)。もしそうでなければ、どうして私の言うことが聞こえないのか」という註釈を施している ('Bab stegs 79.14f.)。トンドゥプギャも同様の解釈を示し、この詩では「疑惑の否定」(the tshom gyi 'gog pa, *samśayākṣepa; KĀ II 163–164) という修辭法が使われていると説明する (Track 16, 0:58)。

བཀྱ་ཤིས་དང་ནི་འཁྱིལ་གྱི་དབང་། །
 ལྷན་ཅིག་པ་ལོ་བསྐྱད་བྱས་པའི། །
 ལྷ་ནག་མ་དེ་ལུ་ཚོར་གྱིས། །
 འབྲུག་མ་དེ་ལ་ལས་སོ་ལྷུང་བཞིན། །

71a: འཁྱིལ་] Σ; འཁྱིལ་ Gser, Thimphu.

71b: བསྐྱད་] Σ; བསྐྱད་ Gser.

71c: དེ་] Σ; དེ་ Thimphu.

71d: ལ་ལས་] Σ; ལ་ལས་ Thimphu. ལྷུང་] Zhal, Mkha'; ལྷུང་ Gser, Thimphu, Bkra.

吉祥と白法螺貝の王者を
 共に彼方へと放逐した
 かの不吉な女は有る事無い事を口にして
 錯乱した。まるで口から歯が抜け落ちたように。(71)

bkra shis dang ni 'khyil gyi dbang 「吉祥と白法螺貝の王者」 「吉祥」とはラーマナと共に過ごした森での榮華 (dga' byed dang lhan cig gnas pa'i nags tshal gyi spal yon) のことである (*Dgongs rgyan* 81.16f.)。「白法螺貝の王者」('khyil gyi dbang) とは右巻きの白法螺貝 (skye ba lnga ba'i dung g-yas su 'khyil ba) のことである。法螺貝の中の最高種である。ここでは一切の吉祥が生じる源泉であるラーマナのことを指している ('Bab stegs 80.1f.)。bkra shis dang ni khyim gyi dbang という異読に従うならば「吉祥と家庭の主」と解釈することができる。「家庭の主」とは当然ながらラーマナのことである。

sna nag ma de 「かの不吉な女」 ラーマナを追い払うようにして鹿狩りに行かせた不吉な女、シーターのことである。「鼻が黒い人」を意味する sna nag ma は、おそらく「耳が黒い人」を意味する rna nag ma の転訛形であろう。rna nag ma はサンスクリットの kālakarṇī (Ch. 黒耳) に相当する語であり、不吉な女あるいは不吉の象徴である女神カーラカルニー、別名アラクシュミー (Alakṣmī) を意味する。吉祥の女神ラクシュミーは不吉の女神カーラカルニーとの共住を望まないという記述がチャンドラキールティ (Candrakīrti: ca. 600–650) の『入中論』(*Madhyamakāvatāra*) などに見られる¹⁴。この詩で用いられているのは故事に由来する縮約表現 (sngon byung gi gtam rgyud dang sbyar ba'i bsdu brjod) である (*Dgongs rgyan* 81.15; Track 16, 2:35)。なお、トンドゥプギャは sna nag ma という表現を「不吉なことを呼び寄せる首領 (bkra mi shes pa'i sna 'dren) であり、邪悪な性格 (rang bzhin nag po / sems nag po) を有する女」という意味で理解している (Track 16, 7:32)。

kha las so ltung bzhin 「まるで口から歯が抜け落ちたように」 抜け落ちた歯を再び元に戻すことはできないのと同じように、シーターは口にしてしまうと二度と取り返しがつかなくなるような暴言を口にした ('Bab stegs 80.5f.)。

¹⁴MA II 8 (Yonezawa 2019: 205): yathā samudrah kuṇapena sārdaṃ yathā ca lakṣmīḥ saha kālakarṇyā | tathādhiśīle 'dhikṛto mahātmā na vāsam anvicchatī tadvipattiyā || MA_P II 8: ji ltar rgya mtsho ro dang lhan cig dang || bkra shis rna nag ma dang lhan cig bzhin || de ltar tshul khriṃs dbang byas bdag nyid che || de 'chal ba dang lhan cig gnas mi 'dod || (「ちようど海が死骸との共住を望まず、ラクシュミーがカーラカルニーとの共住を望まないように、増上戒に服従する偉大な人はその違反との共住を望まない。」)

བཞིན་གྱི་ཆར་སྒྲིན་ནག་པོ་ལས། །
 སེར་བ་དྲག་པོ་འབབ་པ་ཉིད། །
 དྲག་པོའི་དགའ་མ་ལྷོས་པ་ཡི། །
 དམོད་པའི་དྲག་ཚུ་འདི་ཡིན་ཏེ། །
 འདི་ཡིས་ས་ཡི་བདག་པོ་ཆེ། །
 ལྷ་བོ་ཚོན་པར་བྱས་པའོ། །
 ལྷལ་ངན་མ་འདིས་སྒྲིག་པ་ཡི། །
 དྲག་གི་ཚོར་མའི་ས་བོན་བཏབ། །

72c: ཡི་] ཟ; ཡིས་ Thimphu.

72f: ཚོན་] ཟ; ཚོན་ Thimphu. པའོ་] ཟ; པའོང་ Thimphu.

72g: འདིས་] ཟ; དེའི་ Thimphu. ཡི་] ཟ; ཡིས་ Thimphu.

(ラグマナ：)

「顔という黒い雨雲から
 強烈な霰が降り注ぐ。
 ルドラ神の愛妻（ウマー）が発した怒りの
 呪いの毒液とはこれのことだ。
 このせいで偉大な王者（大地の主）である
 兄は狩人にされられる羽目になった。
 この不吉な女は罪悪という
 毒の刺の種を植えたのだ。」(72)

ser ba drag po 「強烈な霰」 シーターがラグマナに向かって発した粗暴な言葉（tshig rtsub mo）を表す隠喩である。比喩対象が明示されず、霰という比喩基準（dpe）のみが示されるこの技法を、トンドゥプギャは非明示的隠喩（sbas pa'i gzugs can）と名付けている（Track 16, 8:33）。

dmod pa'i dug chu 'di yin te 「呪いの毒液とはこれのことだ」 物語の冒頭に描写されたウマーの呪いのことを指している。なお、ジャバが指摘するように、この場面でラグマナはシーターがラーヴァナの娘であることや、かつてラーヴァナに侮辱されたウマーが怒りの呪いを発したことを知らないはずであるので、シーターの錯乱がウマーの呪いによってもたらされた結果であると理解しているのは一体どうしてか、理解に苦しむ点である（*Mun sel* 145.13ff.）。

thu bo rngon par byas pa'o 「兄は狩人にされられる羽目になった」 大地を支配する偉大な兄ラーマナは、シーターの罵詈雑言のせいで、下劣な狩人の恰好（rigs ngan rngon pa'i cha lugs）をする羽目となった（'Bab stegs 81.9ff.; *Dgongs rgyan* 82.18f.）。

dug gi tsher ma'i sa bon btab 「毒の刺の種を植えたのだ」 シーターはラグマナの福德という畑（bsod nams kyi zhing sa）に毒の棘の種を植えた（Track 16, 11:25）。

ལྷོས་ཤིག་རྒྱ་མ་ཆ་ཡི་སྒྲོབས། །
 ཆ་ཚམ་འཛིན་པའི་ལྷུས་ཅན་དང་། །
 མཁའ་མྱིང་ག་ཤོག་པའི་ཚུལ་ལ་ནི། །
 འགྲན་བྱེད་སྒྲོ་ལྷན་སུ་ཞིག་ཡོད། །
 ལྷང་བའི་བདག་པོ་ག་བ་རིས། །
 མཁྱེས་ཚོན་པའི་དྲག་སྐྱོ་བའི་ལྷས། །
 ཆ་བེར་མདའ་ཡིས་བཀས་པ་ཡི། །

ལུས་ཕྱེད་མཁའ་ལ་སྒྲུང་འདིའོ། །

73a: ལུ་མ་ཏེ། ཏེ། ལུ་མ་ཏེ། Thimphu.

73f: མཐོག་མཐོག་ཏེ། ཏེ། མཐོག་མཐོག་ཏེ། Thimphu. དུག་མཐོག་ཏེ། ཏེ། དུག་མཐོག་ཏེ། Thimphu.

73g: ཡི་ཏེ། ཏེ། ཡི་ཏེ། Gser, Thimphu.

(ラグマナ：)

「あれを見て下さい。ラーマナの力の
わずか一部分でも有する人（体を持つ者）や
ガルダ鳥の翼の推進力に対抗できる
鳥（羽毛を持つ者）が一体どこにいるでしょう？
太陽（輝きの主）という狩人が
迅速に動く鹿という月の身体を
光線という矢で切り裂いて空に浮かび上がった
身体の片割れがこれなのですから。」(73)

ltos shig 「あれを見て下さい」 ラグマナはシーターに「あちらの空を見て下さい」(nam mkha' ya gir ltos shig) と語り、空に昇った八日目の月 (tshes brgyad kyi zla ba) すなわち上弦の月に目を向けさせた ('Bab stegs 82.1f.)。

lus can 「人（体を持つ者）」 サンスクリットの śarīrin に由来する表現。skye bo 「人」を意味する詩的語彙である。

sgro ldan 「鳥（羽毛を持つ者）」 サンスクリットの patrin に由来する表現。'dab chags 「鳥」もしくは mda' 「矢」を意味する詩的語彙であり、ここでは「鳥」を意味する。

snang ba'i bdag po 「太陽（輝きの主）」 nyi ma 「太陽」を意味する詩的語彙である。ここで「太陽」は「狩人」すなわちラーマナを表す隠喩である。

lus phyed 「身体の片割れ」 ラグマナが指差した上弦の月のことである ('Bab stegs 82.1)。「月」はラーマナが追っていた鹿を表す隠喩である。月＝鹿を半分に断ち切ってもおかしくない程の力を有するラーマナの身に危険が降りかかる心配はないのだとラグマナは言おうとしている (*Mun sel* 146.20ff.)。光線という矢によって月を切断するという比喩は世間の常識を逸脱するものであり、ここにガウダ様式に特有の「愛らしさ」という美質 (mdzes pa'i yon tan) が認められる (Track 16, 17:30)。

དེ་ཡིས་དྲུང་བོའི་རྩལ་ཚིག་དང་། །
རབ་དུ་ཤོག་པོའི་དཔེ་བསྒྲུབ་ཀྱང་། །
རྩལ་ཕན་བཞིན་དུ་ཅ་ཅོད་དང་། །
མངག་གཞུག་མ་བཞིན་ཆེ་རྒྱུ་གི། །
ཚིག་དག་སྤྲོ་ལ་གོམས་པ་དེས། །
རྩལ་ཚིག་འཁོར་ལོར་སྤྲོ་བས་བཞིན་བྱས། །
མཚོད་སྤྲིན་འོ་མཚོ་ལས་འོངས་པའི། །
འཚི་མེད་ལང་ཚོའི་འདབ་བརྒྱ་འདི། །
དབྱར་སྤྲོས་གོགས་དང་བྲལ་བ་ན། །
བ་མོ་འདི་དག་འཕྱུང་སྤྲོམ་ཤེམས། །

74a: དེ་ཡིས་ཏེ། ཏེ། དེ་ཡི་ Thimphu. དྲུང་བོའི་ཏེ། ཏེ། དྲུང་བོའི་ Thimphu.

74b: ལྲོག་པའི་] ཟ; ལྲོག་པའི་ Gser, Thimphu.

74d: མངག་] ཟ; མངགས་ Thimphu. ཚེ་རུང་] ཟ; ཚེས་རུང་ Gser. ལྷོ་] ཟ; ལྷོས་ Thimphu.

74e: ལྷོ་] ཟ; ལྷོས་ Gser, Thimphu.

74f: འཁོར་འཁོར་སློབས་] ཟ; འཁོར་འཁོར་སློབ་ Thimphu.

彼は隠し立てのない厳しい言葉と
非常に婉曲的な譬喩を語ったのであるが
せせらぎの音のように無意味なおしゃべりや
下女が発するような仰々しい言葉や弱々しい
言葉で話しかけられるのに慣れてしまった彼女は
まるで海で渦巻く大波に遭遇したかのようになり
「供犠という乳海から生まれた
天女（不死の者）の美貌というこの蓮の花は
連れ合いの蜜蜂（夏に生まれる者）と別れた後で
この霜に抱かれてしまうのかしら」と思った。(74)

rab tu kyog po'i dpe 「非常に婉曲的な譬喩」 直前に語られた太陽と月の譬喩のことである（'Bab stegs 83.3）。

mngag gzhus ma bzhin che chung gi tshig dag 「下女が発するような仰々しい言葉や弱々しい言葉」
下女は常に主人の顔色を伺って話をする。主人の機嫌が良い時には仰々しく話をするが、機嫌が悪い時には弱々しく話すことしかできなくなる（Track 16, 19:30）。

rgya mtsho'i 'khor lor slebs bzhin byas 「まるで海で渦巻く大波に遭遇したかのようになり」 航海に出た商人達が海で大波に遭遇した時のように、シーターは混乱して悲痛の叫び声を挙げることにできなくなった（'Bab stegs 83.8ff.）。

mchod sbyin 'o mtsho las 'ongs pa'i 「供犠という乳海から生まれた」 シーターが前世で行なった供犠という福業の果報として、この天女のような美貌が得られたということを含意する（'Bab stegs 83.11f.）。

dbyar skyes 「蜜蜂（夏に生まれる者）」 サンスクリットの varṣābhū 「雨季に生まれる者」に由来する表現であり、通常は蛙（sbal pa）を指すが、シェルシュルワによると、ここでは蜜蜂（bung ba）を意味する。「蜜蜂」はラーマナを表す（'Bab stegs 83.13f.）。あるいはまた、ジャバによると、dbyar skyes は 'brug sgra 「雷鳴」を意味する。雷鳴が発生するのは夏（雨季）であり、それを過ぎると、冷たい霜が発生する冬の季節となる。「雷鳴」はラーマナを表している（Mun sel 150.14ff.）。

ba mo 'di dag 'khyud snyam 「この霜に抱かれてしまうのかしら」 「霜」はラグマナのことを表す。シーターはラグマナの言葉の意味を理解しないばかりか、ラグマナが一向にラーマナを探しに行こうとせずにとどまっている様子を見て勘違いを起し、もしかしたらこの人は兄のラーマナがいない間に、自分を誘惑するつもりなのではないかという疑いを抱いた（'Bab stegs 83.16f.）。

རྩེ་བོའི་ཉི་མ་རུབ་གུར་ཅིང་། །
ཡིད་དགའི་འདབ་མ་རུམ་པ་ན། །
ལྷགས་ཀྱི་སློལ་ལྷན་ལྷེས་ཀྱི། །
སྤང་ཅེ་འཕུང་བར་འདོད་སྣམ་དེས། །
དེ་མོས་ལྲོས་པོ་རབ་བརྟན་ཡང་། །
ས་གཡོས་ཤིང་བཞིན་འཕྱགས་ཏེ་འདད། །

75e: ལྲོག་པོ་] ཟ; ལྲོག་པོ་ Gser.

主人（ラーマナ）という太陽が沈み
心の喜びの花びらが閉ざされたというのに
蜜蜂（鉄の羽毛を持つ者）が蓮華の
蜜を吸いたがるものか。そう思いつつ彼は
それを聞いた。いつもは落ち着いている義父も
地震に揺れる樹のように混乱して震えた。(75)

yid dga'i 'dab ma zum pa 「心の喜びの花びらが閉ざされた」 ラーマナが鹿狩りに出ていなくなった後、ラグマナの心は喜びを失ったということを表している。yid dga' はラグマナの心の喜び（あるいは「心を喜ばせるもの」）を意味するが、同時に、これはサンスクリットの *sumana* に相当し、**me tog** 「花」を意味する詩的語彙でもある。シェルシュルワとカンブムの解釈が示すように、日没と共に花びらを閉じる花といえば蓮華 (*pad ma*) である (*'Bab steps* 86.6; *Dgongs rgyan* 86.5)。

lcags kyi sgro ldan 「蜜蜂（鉄の羽毛を持つ者）」 **bung ba** 「蜜蜂」を意味する詩的語彙である。

chu skyes kyi sbrang rtsi 'thung bar 'dod snyam 「蓮華の蜜を吸いたがるものか」 蜜蜂が花びらを閉じてしまった蓮華から蜜を得ようと願うことはあり得ないように、ラグマナがシーターの身体を求めることは決してあり得ない (*'Bab steps* 86.7ff.)。

gyos po 「義父」 シーターにとってラグマナは義父ではなく、義理の弟であるが、おそらく転義的に「義父」と表現したのであろう (*'Bab steps* 86.12ff.; *Mun sel* 151.20f.)。

'khrugs te 'dar 「混乱して震えた」 トンドゥプギャやジャバの解釈によると、ラグマナが混乱して震えたのは、根拠のない非難をするシーターに対して怒りを覚えたからである (*Track* 16, 27:43; *Mun sel* 152.21ff.)。

འོད་ཀྱི་དྲ་བ་དུས་མཐའ་ཡི།
བསྐྱེད་པའི་འཕོམ་ལོར་བྱིན་བརྒྱབ་སེམས་ཏེ།
ཚང་ལྷ་དང་ཞེ་དྲན་པ་དག །
ལྷན་ཅིག་སྟོར་བ་འཚོལ་ཕྱིར་སོང་། །

76a: དྲ་བ་] ཏ; ར་བ་ Thimphu.

76b: བསྐྱེད་པའི་] ཏ; སྐྱེད་པའི་ Thimphu.

76d: སྟོར་བ་] ཏ; སྟོར་བར་ Zhal, Gser.

光の網を劫末の火（焚き木を
食べるもの）の輪に変えてから
弟と記憶を共に失った彼（ラーマナ）を
取り戻すために出掛けた。(76)

'od kyi dra ba 「光の網」 'od kyi ra ba という異読に従うと「光の柵」という意味になる。

bsreg za'i 'khor lor 「火（焚き木を食べるもの）の輪」 **bsreg** (=bsreg bya) は焼かれるべきもので「焚き木」を意味する。bsreg za 「焚き木を食べるもの」は **me** 「火」を意味する詩的語彙である (*'Bab steps* 86.15)。ラグマナは、ラーマナによって作られた光の網をより強力なものに変えて、シーターを守ろうとした (*Mun sel* 153.6ff.)。

tshang zla dang ni 「弟と」 **ni** 助詞は音節数を合わせるために置かれた虚辞である (*'Bab steps* 86.17ff.)。tshang zla は「兄」（ラーマナ）と「弟」（ラグマナ）のいずれの意味にもなり得る。シェルシュルワ、カンブム、ジャバはいずれも「兄」（ラーマナ）の意味で理解するが、「兄と記憶を共に失った」では意味をなさない。なぜなら、ここで弟ラグマナは何らかの記憶を失っているわけ

ではないからである。トンドゥブギヤが述べるように、tshang zla は「弟」（ラグマナ）の意味であろう（'Bab stegs 86.16; Dgongs rgyan 87.1; Mun sel 152.14; Track 17, 1:15）。

dran pa 「記憶」 トンドゥブギヤの解釈によると、dran pa はラーマナの記憶対象であるシーターのことを指している。記憶（＝記憶対象）を失ったのはラーマナである（Track 17, 1:15）。シェルシュルワは dran pa stor ba 「記憶の喪失」とは「ラーマナが遠く離れた所で疲労困憊したために長い間眠りに落ちていたこと」（dga' byed byes su ngal zhing dub pa'i dbang gis yun ring gnyid log pa）を意味すると説明するが、その意図は不明である（'Bab stegs 86.20f.）。

མིག་འཕུལ་རྗེས་སྐྱོབ་པ་དེ། །
གཞུ་མཚོག་ངལ་གསོའི་གནས་སུ་གྱུར། །
གནས་སུ་འོ་མགོ་ལ་ལག་བཞག་གཞིས། །
བསྐྱེད་ཏེ་རེ་ཞིག་གཞིད་ཀྱིས་ལོག། །

77a: དེ།] Σ; དེས་ Thimphu.

目眩しの後を追ったあげく疲れ果てた彼（ラーマナ）は
最高の弓を休息の場とした。
弓の頭の部分に両手を重ね合わせて
束の間の眠りに落ちるのであった。(77)

mig 'phrul 「目眩し」 ラーマナが追いかけていた鹿のことである（'Bab stegs 87.11）。ここで場面は一転し、旅先のラーマナの様子が描写される。

gzhu mchog ngal gso'i gnas su gyur 「最高の弓を休息の場とした」 ラーマナは旅先で寝台（mal stan）などを使って休むことができないため、自身が手にしている弓を休息の場とするしかなかった（'Bab stegs 87.12ff.）。

gnam ru'i mgo la lag pa gnyis... 「弓の頭の部分に両手を重ね合わせて…」 gnam ru は gzhu と同義で「弓」を意味する。ラーマナは弓の一方の先端を地面に刺して、もう一方の先端部分に手をかけ、さらにその上に頭を置いて、ほとんど立位に近い姿勢で仮眠を取った（'Bab stegs 87.14ff.）。

མ་བགོས་ན་ཡང་ལུ་ལྷུལ་རྒྱམས། །
དེ་ཡི་རྒྱ་ལོང་མཚོད་འོས་ཞེས། །
བསམས་ཏེ་གཞུ་རྒྱུད་ལ་འབྲིལ་བས། །
ཏ་ལའི་སྲིད་དུ་མངོན་པར་འཕགས། །

78b: རྒྱ་ལོང་] Σ; ལྷུ་ལྷུང་ Thimphu.

78c: བསམས་ཏེ་] Σ; བསམ་སྟེ་ Thimphu. འབྲིལ་བས་] Σ; འབྲིལ་ནས་ Thimphu.

相談して決めた訳ではないがウトパラ蓮華達は
「彼のために耳飾りを捧げるべきです」と
考えて弓の弦に巻き付いたので
ターラ樹の高さまで大きくなった。(78)

ma bgros na yang 「相談して決めた訳ではないが」 一般的に認められている原因（相談による決定）を否定して、結果の状態（ウトパラ蓮華達が弓の弦に巻き付くという行動）のみを描写する「顕在化」（srid pa can, *vibhāvanā; KĀ II 199）という技法が用いられている。さらに、ここにはウトパラ蓮華を擬人化する「転移」（ting nge 'dzin, *samādhi; KĀ I 93）という技法も用いられている（'Bab stegs 88.2ff.; Dgongs rgyan 88.11ff.）。

ལ་ལྷུ་མ་ན་མུ་ངན་གྱི།
 བང་ལ་དུབ་པས་གོམ་འགྲོས་འཁྲོལ།
 བརྩོན་པའི་ལྷག་གིས་བཞུས་པ་དེས།
 ཏྲ་གའོང་མེ་ལྷེ་བཞིན་དུ་འོ།

79a: ལ་ལྷུ་] Σ; ལ་ལྷུ་ Mkha', Bkra.

79c: བརྩོན་] Σ; བརྩོས་ Thimphu. ལྷག་གིས་] Σ; ལྷགས་ཀྱིས་ Thimphu.

79d: དུ་འོ་] Σ; དེ་འོར་ Thimphu.

ラグマナは砂漠の中

疲れ果て足取りも覚束なかった。

奮迅という鞭で叩かれたので

ヴァーダカ・アグニの炎に触れたかのようにだった。(79)

mya ngan gyi thang 「砂漠」 mya ngan は「苦しみ」の意味であるが、ここでは果実のなる樹木や渴きを癒す水がない場所、すなわち砂漠を意味する (*Mun sel* 156.16; Track 17, 8:20)。いずれの刊本にも mya ngan gyi thang とあるが、「砂漠」の意味で通常用いられるチベット語 mya ngam gyi thang に訂正するべきかもしれない。

brtson pa'i lcag gis bzhus pa 「奮迅という鞭で叩かれた」 「鞭」はラグマナの「奮迅」を表す隠喩である。ラグマナは疲労困憊していたにもかかわらず、兄ラーマナを捜索するために、自分の身体に鞭を打つようにして前に進んで行った。btsos pa'i lcags kyis bzhus pa という異読に従えば「煮立てられた鉄で溶かされた」という解釈も成立する。

rta gdong me lce bzhin du 'o 「ヴァーダカ・アグニの炎に触れたかのようにだった」 諸註釈に従って reg pa 「触れた」という語を補って解釈する。シェルシュルワとカンブムによれば、ヴァーダカ・アグニの炎に触れた (reg pa) 時のように、激しい苦痛を受けたという意味である (*'Bab stegs* 89.6; *Dgongs rgyan* 89.15f.)。あるいは、ジャバによれば、まるでヴァーダカ・アグニの炎に触れたかのように顔 (ngo gdong) を真っ赤にした (dmar lam lam byed) という意味である (*Mun sel* 157.1f.)。

དབང་པོའི་གཞུ་ཡིས་བྱ་བ་ཡི།
 ལྷུ་ལྷུ་ལྷོན་པའི་རི་བོ་ནི།
 ཡིན་དུ་རྩི་ལའི་ཐོར་ཅོག་ཅན།
 མཐོང་འདི་ལྷན་པོ་ཡིན་སྐྱམ་བྱེད།
 འདི་ལས་ལྷ་བོ་མཚོན་པར་བྱས།
 བསམས་ཏེ་དེ་ཡི་དུང་དུ་སོང་།

80a: ཡི་] Σ; རྩི་ Zhal.

80e: བྱ་བ་] Σ; བྱ་ Thimphu.

80f: བསམས་] Σ; བསམ་ Thimphu.

虹（自在者の弓）に彩られた

青色のウトパラ蓮華の山がまるで

サファイアの髻を付けているように

見えたので「これはスメール山か」と思ったが

これは兄の特徴を示しているということに

気づくと彼の前に向かって行った。(80)

dbang po'i gzhu 「虹（自在者の弓）」 「自在者」を意味する *dbang po* という語は、「インドラ」（全ての神々を支配する自在者）と「ラーマナ」（全ての人々を支配する自在者）の両方を意味し得る。前者の意味で理解するならば、*dbang po'i gzhu* は「インドラの弓」すなわち「虹」を意味するので、詩人の空想（あるいはラグマナが見た幻想）の中で、虹に彩られた蓮華の山が立ち現れる様子を描いていることになる。一方、後者の意味で理解するならば、自在者ラーマナの弓によって彩られた蓮華の山（ここまでは事実即した描写である）がサファイアの髻を付け、まるでスメール山のようにそびえているかのようであったという詩人の空想（あるいはラグマナが見た幻想）を描いていることになる。あるいは、ここでは「掛詞の隠喩」（*sbyar ba'i gzugs can*）という修辞法が用いられているとも考えられる。すなわち、*dbang po* は「インドラ」と「ラーマナ」の二重の意味を持ち、ラーマナの弓がまるで神々の王者インドラの武器のように力強く立ち現れる様子を描写していると解釈可能である。

utpal sngon po'i ri bo 「青色のウトパラ蓮華の山」 ラーマナの弓の弦に巻き付いて伸びたウトパラ蓮華が大きく生長したので、遠くから眺めるラグマナの眼には、それがまるで山のように見えた。

'di lhun po yin snyam byed 「これはスメール山かと思った」 ラグマナは心の中で「これはスメール山であろうか、それとも兄ラーマナであろうか」という疑問を抱くが、次の箇所ではラーマナの特徴を多く発見することにより、これは間違いなくラーマナであると確信を得ようになる。「疑惑の否定」（*the tshom gyi 'gog pa, *saiṃśayākṣepa*; cf. *KĀ II 163–164*）と呼ばれる修辞法である。（*Dgongs rgyan 90.1f.*; *Mun sel 157.5*; *Track 17, 12:00*）。

'di las phu bo mtshon par byas 「これは兄の特徴を示している」 虹のように美しい身体と、サファイアのように青黒くて艶のある髪が、ラーマナの特徴を示している（*'Bab stegs 89.10ff.*; *Dgongs rgyan 90.3f.*）。

ལུ་ཐུག་ལྷན་པོ་སྤྱོད་དང་། །
སྤྱོད་ལྷན་པོ་ཉེ་འགགས་པ་ཐོབ། །
རྒྱ་མཚེ་ཡི་གཉིད་དང་ནི། །
སུ་ཞུ་ཉེ་ལྷན་པོ་སྤྱོད་དང་། །

81a: ལུ་ཐུག་ལྷན་པོ་; ལུ་ཐུག་ལྷན་པོ་ Thimphu.

81b: ཉེ་ ལྷན་པོ་; ཉེ་ Zhal, Gser.

ウトパラ蓮華の束が耳輪と
勘違いして鼻孔は塞がれた。
ラーマナの眠りと
兄弟の苦悶は共に消え失せた。(81)

sna bug nor te 'gags pa thob 「勘違いして鼻孔は塞がれた」 ラーマナの耳を飾ろうとして大きく伸びたウトパラ蓮華が、ラーマナの鼻を耳と勘違いして鼻の所に達し、鼻孔を塞いでしまったので、ラーマナは眠りから覚めた（*'Bab stegs 89.13ff.*）。

phu nu'i mya ngan 「兄弟の苦悶」 文字通りには *phu nu* 「兄弟」の苦悶であるが、シェルシュルワとカンブムは *nu bo* 「弟」すなわちラグマナの兄との別離による苦しみを意味すると解釈する（*'Bab stegs 89.16f.*; *Dgongs rgyan 90.8ff.*）。ジャバは *phu nu* を「兄弟」という文字通りの意味で理解し、「兄弟の苦悶」とは兄と弟の両者のお互いを想うことによる苦しみ（*phu nu gnyis ka'i phan tshun dran pa'i sdug bsngal*）であると説明する（*Mun sel 158.3ff.*）。いずれにせよ、ここで兄弟は再会を果たし、離散の苦悶は解消される。

mnyam du sangs 「共に消え失せた」 眠りの消失と苦悶の消失という二つの行為が同時に起こったことを描いている。同時性の描写（*lhan cig brjod pa*, *sahokti; KĀ II 351）と呼ばれる修辞法である（'Bab stegs 89.17ff.）。

མིག་འཕུལ་ཡིན་ཡང་རི་དྭགས་དེ། །
 དཔུང་པ་གཏུམ་པོ་དེས་འཇིགས་ཏེ། །
 སྒོང་བའི་ངང་དུ་བྱོས་པ་ནི། །
 སྒོན་ཀའི་སྒྲིན་དག་ཡལ་བ་བཞིན། །

82a: དྭགས་ ཟ; དགས་ Thimphu.

幻影ではあったがその鹿は
 かの恐るべき腕力を恐れ
 空虚の中へと逃げて行った。
 秋の雲が姿を消すようにして。(82)

mig 'phrul yin yang... 「幻影ではあったが…」 鹿の正体はラーヴァナが作り出した幻影に過ぎないので、本来ならばラーマナを恐れて逃げる必要はないにもかかわらず、空虚の中への逃げて行った。すなわち、逃亡の不必要性に反する逃亡行為がここで描写されている。背反（'gal ba, *virodha; KĀ II 333）と呼ばれる修辞法である（*Dgongs rgyan* 92.3ff.）。

འཇིགས་སྒྲིང་འཇིན་མའི་ཐེག་ལེར་ནི། །
 ལྷུན་པོ་སྒྲོན་མེད་གཉིས་བུང་སྟེ། །
 འཇིན་མའང་ཁུར་བོ་འདི་ཐེག་པ། །
 ཞེ་མ་གཤིན་དུ་སྒྲོབས་དང་ལྗན། །

83a: འཇིགས་སྒྲིང་ ཟ; སྒྲིང་འདི་ Thimphu.

83b: ཁུར་བོ་ ཟ; ཁུར་བུ Thimphu.

世界を覆う大地の中心に
 未曾有のメール山が二つも出現した。
 大地もこの重荷を載せることができるとは
 ああ何と強い力を具えていることか！(83)

thig ler ni 「中心に」 *thig le* という語はサンスクリットの *bindu* に相当し、「滴」を意味するが、ここでは「中心」(*dkyil snying*) という意味で用いられる（*Mun sel* 159.13）。

lhun po sngon med gnyis 「未曾有のメール山が二つ」 二つのメール山とはラーマとラグマナの兄弟のことである。二人は武力 (*stobs*) と福德 (*bsod nams*) の重みを具えていることからメール山に例えられている（'Bab stegs 90.16f.）。

'dzin ma'ang... 「大地も…」 大地は二つのメール山（ラーマナとラグマナ）を支えることができ、決して海の中に沈むことはない。e ma 「ああ」という感嘆詞は喜び (*dga' ba*) の感情を表している（*Mun sel* 159.14）。この詩節後半は大地を称賛しているのではなく、むしろ大地全体の力に匹敵するラーマナとラグマナの肉体と精神の偉大さを大げさに称賛したものである。誇張表現 (*phul byung*, *atiśayokti; KĀ II 214) と呼ばれる技法が用いられている。ダンディンの『詩鏡』に示される「ああ、三界の内側は何と広大なことか。というのも、大地の守護者よ、あなたの名声の集積

は測り知れないものであるけれども、この中に収まるのだから¹⁵という例文を連想させる（'Bab steps 90.18ff.; Dgongs rgyan 91.12ff.）。

འདྲ་བྱེད་ངང་རྩལ་རིག་པ་ཡི། །
 དཔལ་བོ་དེ་གཉིས་འཁོར་ལོ་བཞིན། །
 ས་འཛིན་ཁྱོད་ནི་འཇལ་བ་འདྲས། །
 དཀའ་སྲུབ་ནགས་སུ་མངོན་པར་གཤེགས། །

84b: གཉིས་ ཟ; གཉིད་ Thimphu.

84c: འདྲས་ ཟ; འདྲ་ Thimphu.

諸行の本性を知った
 その二人の勇者は車の両輪のごとく
 まるで大地の広さを測るかのように
 苦行の森へと引き返して行った。(84)

'du byed ngang tshul rig pa 「諸行の本性を知った」 ここでようやく兄弟二人は鹿の正体を知った。さらにまた、ちょうど幻影の鹿と同じように、およそ自身の原因から発生する事物は全て非恒常的であり、信頼するに値しないということを二人は見抜いた（'Bab steps 91.10f.）。

[9] ラーヴァナ、シーターをさらって羅刹の国に行く

འོད་གྱི་དྲ་བའི་ཕྱིང་ཁང་ན། །
 དཔལ་མེ་རྩལ་ཡི་མ་མ་ཅན། །
 ལྷ་བྱེད་དཀྱུས་རིང་ལྷུ་ཐུལ་བྱུང་། །
 ཟླེལ་བ་འགོད་པས་ཅི་ཡང་བྲེལ། །

光の網という平屋の中、河という
 乳母に育てられたラクシュミーは
 切れ長の眼という一対のウトパラ蓮華に
 水滴を注ぐことばかりに追われていた。(85)

'od kyi dra ba'i lding khang 「光の網という平屋」 「平屋」（一階建ての建物）はラグマナによって増強された光の網を表す隠喩であると思われる。あるいは、光の網が文字通り「平屋」となってシーターの住居となっていると解釈するならば、第一詩脚は属性に関する本質描写（yon tan rang bzhin brjod pa, *guṇasvabhāvokti; KĀ II 11; Track 17, 23:50）であることになろうが、果たして作者がこのような幻想的な描写を意図していたかどうかは定かでない（Dgongs rgyan 94.12ff.）。

dpal mo chu yi ma ma can 「河という乳母に育てられたラクシュミー」 河に流されて溝の中から発見されたシーターのことを指す。シーターはヴィシュヌ神の妃ラクシュミーに匹敵する美しさを具えている。月は海から出現したという神話に基づいて、海を「月の乳母」（zla ba'i ma ma）と表現するように、ここで河がシーターの乳母として表現される（'Bab steps 92.14ff.）。

zil ba 'god pas ci yang brel 「水滴を注ぐことばかりに追われていた」 シーターは孤独の苦しみのために泣いてばかりいて、他のことは何もする余裕がなかった（'Bab steps 92.18ff.）。トンドウ

¹⁵KĀ II 219: aho viśālam bhūpāla bhuvanatritayodaram | māti mātum aśakyo 'pi yaśorāśir yad atra te ||; KĀ_S 25a6: khyod kyi grags pa'i phung po ni || dpag nus min yang 'dir shong ba || sa skyong srid pa gsum gyi ni || khongs dag e ma shin tu yangs || （「あなたの名声の集積は測り知れないものであるのにこの中に収まるとは、ああ、大地の守護者よ、三界の内側は何と広大なことか。」）

プギャとカンブムはこの箇所を「対立（する行為）を伴った掛詞」（'gal ba'i las can gyi sbyar ba, *virodhī śleṣaḥ; KĀ II 322）として理解する。今の表現がダンディンや『詩鏡』註釈者達によって定められる掛詞の定義を充たすかどうかは疑問であるが、おそらく彼らは、シーターがウトパラ蓮華に水を与えながら、自身の両眼に涙を浮かべていたということはこの詩から読み取ろうとしているのであろう（Track 17, 24:22; *Dgongs rgyan* 94.18ff.）。

ཁུ་མའི་བར་ནི་དོག་པར་ཡང་། །
 ལུ་ཚུར་ཡབ་ཀྱིས་བསྐྱུན་པ་ཡི། །
 འོ་མ་འཛིན་པ་གསུམ་པ་ཞིག །
 མཁྲུང་ཞིང་རྒྱས་པ་རྣམས་པར་མཛེས། །

86b: ལྱིས་ ཟ; ལྱི་ Zhal.

86d: རྒྱས་པ་ ཟ; རྒྱས་པས་ Thimphu; རྒྱས་པའི་ Bkra.

両方の乳房に挟まれた狭い隙間にも
 握り拳という父に叩かれて出来た
 第三の乳房（乳を溜めるもの）が
 固く大きくなるさまは実に見事だった。(86)

khu tshur yab kyis bsnun pa yi... 「握り拳という父に叩かれて出来た…」 自分の胸を叩くシーターの握り拳が「父」（yab）という隠喩で表現されている（*Dgongs rgyan* 95.6f.）。「第三の乳房」とは胸部の腫れ上がった瘤（skrang 'bur）のことである。第一・第二の乳房は両親から授かったものであるが、第三の乳房は自身の握り拳という「父」によって生み出されたものである（Track 17, 25:20）。「父」という隠喩には瘤という結果を生み出すもの（skyed byed = yab）という意味が込められているのであろう。

འོ་འཛིན་སྐྱེད་ཚལ་ཉམས་དགའ་བར། །
 རབ་དཀར་སོ་ཕྱེང་ཀྱུ་མུད་ཚོགས། །
 འདབ་མ་འཛིངས་པས་འདམ་བུའི་ཚལ། །
 སྲེག་ཟས་ཟོས་པའི་སྐྱ་ཡང་ངོ། །

87c: འཛིངས་པས་ ཟ; འཛིངས་པ་ Thimphu.

87d: སྲེག་ ཟ; བསྲེག་ Gser.

舌（味を捉えるもの）という魅力的な庭園では
 一列に並んだ真白な歯というクムダ蓮華の
 花びらが喧嘩をしたので葦の湿原を
 火で食い尽くすような音までした。(87)

rab dkar so phreng... 「一列に並んだ真白な歯という…」 上の歯と下の歯が激しくぶつかって音が鳴ったという意味である。ラーマナとラグマナの帰りが遅いため、苛立ち、激昂するシーターの様子を描写している（*Mun sel* 164.4ff.）。直前の詩節でシーターは自らが兄弟に向けて発した言葉を後悔していたが、ここでは後悔の思いが次第に怒りへと変化していることが読み取れる（Track 17, 27:25）。

རིག་འཛིན་རྣམས་དང་སྐྱ་མ་ཡང་། །

རང་དབང་བྱལ་བས་དམར་བ་ཡི། །
 བྱུ་མཚམས་མ་འདྲི་མཛེས་པ་ནི། །
 ཚུ་སྲིན་རྒྱལ་མཚན་ཅན་གྱི་དཔུང་། །

88b: བྱལ་ ཟ; བྱལ་བྱལ་ Thimphu; བྲེལ་ Bkra. ཡི་ ཟ; ཡིས་ Thimphu.

持明者や尊師達さえも
 自制心を失わせて真っ赤にさせる
 この薄明の光という女の美貌は
 カーマ神（海獣の旗印を持つ者）の軍勢に等しいものであった。(88)

rang dbang bral bas 「自制心を失わせて」 ジャバは rang dbang brel bas という異読を採用し、brel ba は dal ba 「暇」の対義語であるという説明を与えるが、自身の語釈では bral ba という読みに基づく説明を与えている (*Mun sel* 165.15, 20)。

dmar ba yi 「真っ赤にさせる」 シェルシュルワによれば、dmar ba は「真っ赤にさせる」(dmar ba = dmar ba ster bar byed pa) という意味である (*'Bab stegs* 93.15f.)。シーターの美貌は持明者に欲情を起こさせ、その顔を真っ赤にさせる。また、薄明の光は空を真っ赤に染める。諸註釈はこの dmar ba 「真っ赤にさせる」という表現を掛詞 (sbyar ba, *śleṣa) とみなしている (*'Bab stegs* 93.18f.; *Dgongs rgyan* 96.4ff.; Track 18, 0.30)。

chu srin rgyal mtshan can 「カーマ神（海獣の旗印を持つ者）」 サンスクリットの makaradhvaja 「海獣（マカラ）の旗印を持つ者」に由来する表現。愛欲の神カーマ ('dod lha) のことを指している (*Dgongs rgyan* 96.2)。

རབ་ཏུ་ཆགས་པ་མི་བཟན་པ་ནི། །
 ཚུ་ཡིས་གང་བའི་རིལ་བ་དང་། །
 སྲིད་པའི་སྲད་བུ་སྲེ་རལ་ལས། །
 འཕྱང་ལྡན་སྲིན་པའི་དབང་པོ་ནི། །
 དང་སྲིད་གཟུགས་ཅན་ཉེ་བར་འོངས། །

89a: བཟན་ ཟ; ཟན་ Gser. པའི་ ཟ; པ་ Thimphu, Bkra.

89c: སྲིད་པའི་ ཟ; བསྲེལས་ Thimphu. ལས་ ཟ; ལ་ Mkha'.

恐るべき情欲という
 水で一杯になった水瓶と
 渴愛という聖紐を肩のベルトに
 ぶら下げた羅刹の支配者は
 仙人の恰好をして近づいて来た。(89)

rab tu chags pa mi bzad pa'i chu 「恐るべき情欲という水」 ここからラーヴァナの描写が始まる。シーターに対してラーヴァナが抱いた情欲を「水」という隠喩で表している (*'Bab stegs* 94.11f.)。mi zad pa'i という異読に従うならば「尽きることのない情欲という水」とも解釈できる (*'Bab stegs* 94.17ff.)。

ril ba 「水瓶」 サンスクリットの kuṇḍa に相当する語。シェルシュルワの註釈によれば、spyi blugs (Skt. kamaṇḍalu) すなわち苦行者が持つ水差しのことを指している (*'Bab stegs* 94.12)。

sred pa'i srad bu 「渴愛という聖紐」 妙欲（色・声・香・味・触）に対する渴愛を「聖紐」という隠喩で表している。sred bu はサンスクリットの rajju に相当し、「紐」を意味する語であるが、シェ

ルシュルワの註釈によれば tshangs skud (Skt. yajñopavīta) すなわち再生族が身につける聖紐のことを指している ('Bab stegs 94.12f.)。

se ral khar 「肩のベルトに」 se ral kha はサンスクリットの vaikakṣya に相当する語。『蔵漢大辞典』によれば「紐で肩と脇の下で左右に交差させて縛るベルト」である。Monier Monier-Williams の *A Sanskrit English Dictionary* (s.v. vaikakṣya) は “garland suspended over the shoulder” と定義する。

དེ་ནི་བཟའ་བ་གཞན་འདོད་ཀྱང་། །
 ཀྱ་བའི་ཕོར་བུ་སྟོང་བ་ཡིས། །
 ལ་ཟས་འདོད་པ་གོ་བར་བྱས། །

90b: ཡིས་ ཟ; ཡི་ Thimphu.

彼が求めるご馳走は別のものではあったが
 空になった瓢箪の鉢を用いて
 食べ物を求めているように見せかけた。(90)

bza' ba 「ご馳走」 ラーヴェアナが求めていたのは性的快樂 (bud med la longs spyod pa'i bde ba) であるが、ここではそれを「ご馳走」という隠喩で表現している (*Dgongs rgyan* 97.10f.)。

མཚོད་འོས་འདི་ཡིས་ཟས་ཟོས་ནས། །
 བདག་ཉིད་བདག་པོའི་བཀའ་པ་ཤེལ། །
 སྤྱད་ཚལ་དུ་ནི་ཚུ་ལྷགས་པས། །
 བྱང་བ་ངོམས་པར་འགྱུར་བ་ཉིད། །

91a: ཡིས་ ཟ; ཡི་ Thimphu. རས་ ཟ; ར་ Thimphu.

91c: ལྷགས་ ཟ; བལྷགས་ Zhal.

(シーターの独白：)

「供養に相応しいこの人が食べ物を口にすれば
 私は夫の飢えを除くこともできるはず。
 庭園に水を引き入れれば
 蜜蜂は必ず満足するだろう。」(91)

mchod 'os 'di yis zas zos nas... 「供養に相応しいこの人が食べ物を口にすれば…」 たとえ自分のような無徳の女であっても、有徳の大仙人に食事を受けとってもらえれば、その福德の力によって、夫ラーマナの苦しみが除去されるという果報が得られるであろう」とシーターは考えた ('Bab stegs 95.9ff.)。

skyed tshal du ni chu zhugs pas... 「庭園に水を引き入れれば…」 庭園に水を引くと、庭園の花が満開に咲くので、蜜蜂は満足することとなる ('Bab stegs 95.13ff.)。

ཅེས་བསམས་སྤྱིན་ལ་ལྷགས་པ་དེའི། །
 ལག་པོའི་ལྷག་ཕྱན་འཕྲིལ་བག་ཅན། །
 སྤྱིག་ཟེའི་ཡོལ་བས་བསྐྱེགས་གྱུར་ཏེ། །
 རེ་བའི་སྟོ་ནི་ཉམ་ཚུང་ཉིད། །

92a: ཅེས་ ཟ; ཞེས་ Thimphu. བསམས་ ཟ; བསམ་ Zhal, Thimphu.

92c: སྲེག་ཟའི་ཏུ་བསྲེག་ཟའི་ Gser.

92d: ཉིད་ཏུ་ཞིང་ Thimphu.

こう考えて施しを行なおうとした彼女の
手というしなやかな小枝は
火というカーテンによって焼かれて
希望の心は力を失った。(92)

sbyin la zhugs pa 「施しを行なおうとした」 施しの行為 (sbyin pa) に向かって進んだ (zhugs pa) ということ、より具体的に言えば、恭しい態度で飲食物を手にして仙人の方に向かって行ったということを意味する ('Bab stegs 95.15f.).

sreg za'i yol bas bsregs gyur te 「火というカーテンによって焼かれて」 シーターの手がラーマナによって作られた光の壁に触れ、負傷したという意味である。シェルシュルワは yol ba を「カーテン」ではなく「円形の器」(yol go zlum po) の意味で理解するが、カンブムはこの理解に疑義を呈している ('Bab stegs 95.18; Dgongs rgyan 99.1ff.).

re ba'i blo ni nyam chung nyid 「希望の心は力を失った」 仙人に対する施しの果報によってラーマナの飢えの苦しみを取り除いてもらいたいというシーターの希望は失われ (nyam chung nyid = nyam chung ba nyid du gyur)、願いは成就しなかった ('Bab stegs 95.18f.).

སྤང་ཆེན་སྦྱོན་པའི་རལ་གྱི་ཡི།
འཕྲུལ་འཁོར་རང་ཕྱོགས་ཉམས་ཕྱེད་དེ།

93a: སྦྱོན་པའི་ཏུ་སྦྱོན་བའི་ Thimphu.

正気を失った象につけた剣の
器具は味方軍を滅ぼすもとである。(93)

rang phyogs nyams byed de 「味方軍を滅ぼすもとである」 正気を失った象の鼻に剣の器具 (ral gri'i 'khrul 'khor) を取り付けると、その象はうまくいけば敵軍を征服するかもしれないが、場合によっては敵軍の方向に向かわずに、味方軍を攻撃してしまうかもしれない。ラーヴァナの強奪行為もまた、一時的には利益になると思われるかもしれないが、かえってそのことが仇となり、ラーヴァナ自身の身を滅ぼす結果を招きかねない ('Bab stegs 96.11ff.; Dgongs rgyan 99.15ff.).

རྟ་མགོའི་ཚོད་པན་འཛིན་པ་དེས།
རྩུ་འཕྲུལ་གྱིས་ནི་མཛེས་མ་དེ།
རྟ་མགོའི་རི་མོ་དང་བཅས་པ།
ལང་ཁའི་ཡུལ་དུ་ཕྱེར་ཏེ་སོང་།

94a: ཚོད་པན་ཏུ་ཚོད་པན་ Zhal.

94d: ལང་ཁའི་ཏུ་ལང་ཁའི་ Mkha', Bkra.

馬の頭の宝冠を戴く彼は
魔法の力で美しい彼女を
足下と描かれた絵を諸共に
ランカーの国へ運んで行った。(94)

rkang mthil ri mo dang bcas pa 「足下と描かれた絵を諸共に」 「足下」とはシーターが立っている地面のことであり、「描かれた絵」とはその周囲に張られた光の壁のことである（'Bab steps 96.17）。

མི་མཐུན་རྟ་དམར་ཅན་འགྲོགས་པའི།
གྲུ་ནང་གནས་པའི་ཚོང་བ་བཞིན།
ཚུང་མའི་སྤྲད་དུ་མཁའ་ལྗིང་གིས།
ངང་བའི་བྱ་མོ་བཟུང་བ་བཞིན།

95a: འགྲོགས་ ཟ; འགྲོག་ Zhal.

95b: ཚོང་བ་ ཟ; ཚོང་དཔོན་ Gser.

向かい風（赤い馬に乗るもの）と共に進む
船の中にいる商人のように。
自分の妻にするためにガルダ鳥が
ハンサ鳥の娘を捕えるように。(95)

mi mthun rta dmar can 'grogs pa'i... 「向かい風（赤い馬に乗るもの）と共に進む…」 無力なシーターはラーヴァナによって危険な方向へと連れて行かれる様子は、あたかも向かい風のせいで危険な方向に流されていく船の中の商人のようであった（'Bab steps 97.1f.）。

chung ma'i slad du mkha' lding gis... 「自分の妻にするためにガルダ鳥が…」 ラーヴァナがシーターを自分の妻にしようとして強奪する様子は、あたかも力の強いガルダ鳥が自分の妻にしようとして力の弱いハンサ鳥の娘を捕まえるかのようにであった（'Bab steps 97.2ff.）。また、この比喻はラーヴァナによるシーター強奪が、ちょうどガルダ鳥によるハンサ鳥の捕獲が容易であるのと同じように、非常に容易であったことを表している（Track 18, 14:30）。

[10] シーター、羅刹の国で嘆き悲しむ

རྩ་ཡབ་གླིང་གི་ས་སྤྱོད་གི།
སྤྱོད་ཚལ་དེ་ནི་སྤྱི་རྒྱ་ལ།
ཡ་སྤུ་ན་ཡི་སྤུ་རྒྱ་ལ།
བཙོན་ར་བརྒྱ་ལས་ངེས་པར་འཇིགས།

96a: གླིང་གི་ ཟ; གླིང་པའི་ Thimphu.

チャーマラ島の統治者（ラーヴァナ）の
その庭園はシーターにとっては
死神ヤマ（ヤムナー川の兄弟）の
牢獄を百個集めた所よりも遥かに恐ろしかった。(96)

skyed tshal de ni 「その庭園」 ランカー国に連れて来られたシーターは、国王ラーヴァナに対する不敬を理由に、ひとまず果樹園の中に幽閉されることになった（'Bab steps 97.18ff.）。

sī tā la 「シーターにとっては」 庭園そのものは快適な場所であったが、自らの行く末を案じるシーターにはそこがとても恐ろしい場所に見えた（Track 18, 17:10; *Mun sel* 177.1ff.）。

ya mu na 「死神ヤマ（ヤムナー川の兄弟）」 南方にある死神ヤマ（gshin rje; Skt. yama）の国とヤムナー川（ya mu na; Skt. yamunā）の二者は兄弟であると言われる。「ヤムナー川の兄弟」（ya mu na yi spun; Skt. yamunābhrātr）とはヤマの別名である（'Bab stegs 97.20f.）。

ངག་གི་ཉེས་པ་ཅན་མ་དེ། །
 ཡིད་ནི་ཉེས་པས་མ་གོས་ཏེ། །
 རང་ཉིད་དུག་གི་ལྗོན་ཤིང་དུ། །
 མཐོང་བ་དེ་ཡིས་འདི་ལྟར་བསམས། །

97d: བསམས་ ཏ; བས་ Thimphu.

言葉の過ちを持つ彼女の
 意識に過ちはかぶさっていなかった。
 自らを毒の樹木であると認めた
 彼女は次のように心に思った。(97)

dug gi ljon shing 「毒の樹木」 ジャバによれば、生き物の生命を脅かす有毒の棘（sems can gyi srog la rgol ba'i dug gi tsher ma）を意味する（*Mun sel* 176.10f.）。「毒」とはラーマナとラグマナを困難に陥れる言葉のことである。そのような言葉の過ちがあったことをシーターは自ら認めている（Track 18, 20:00）。

de yis 'di ltar bsams 「彼女は次のように心に思った」 シーターは自らの過失を認めて反省した。チベットの諺に「恐怖を見なければ、人はターラー菩薩を思い起こさない」（'jigs pa ma mthong na sgröl ma mi dran）とある（*Dgongs rgyan* 102.7ff.）。

སྲིན་པོས་ངེས་པར་བརྩུང་བ་འདི། །
 །གཞག་གསར་བའི་སྤྲོད་དུ་སྟེ། །
 ལས་འདིའི་ས་བོན་གྱུང་པོ་ཞི། །
 ལྗོན་ཚེ་ཞིང་བཟང་དེ་ལ་བདབ། །
 བཙུན་ལྗོན་པོ་ལྟོད་པའི་དབང་། །
 འགྲོ་ལ་སྤང་མིག་འཇུག་མ་ཙམ། །
 འཕྲོར་བའང་སྤངས་དེ་ག་དག་ལ། །
 སྲིད་པས་རི་དྲགས་གཟུང་ཕྱིར་བསྐྱུལ། །

98g: སྤངས་དེ་ག་ ཏ; སྤངས་ག་ Bkra.

98h: གཟུང་ Gser, Thimphu; བརྩུང་ Zhal, Mkha', Bkra.

(シーターの独白：)

「羅刹が私を誘拐したのは
 みずみずしい肉と血のため。
 私の業がもたらした優れた種子は
 かつて良質の畑に撒かれたのに
 愛情深く大地を統べる主人を
 人々への怒りの眼差しという小さな嵐すらも
 巻き起こすのを避けた彼を、肉に対する
 渴望のために鹿を掴まえに行かせてしまったなんて！」(98)

las 'di'i sa bon grung po ni... 「私の業がもたらした優れた種子は…」 シーターが前世 (tshe sngon) で積んだ善業は「優れた種子」(sa bon grung po = sa bon bzung po) を生み、それが今生で「良質の畑」に撒かれた。「良質の畑」という隠喩は、シーターが今生で得た偉大な王の妃 (mi dbang chen po'i btsun mo) としての地位を表すと考えられるが、ここでの比喩基準と比喩対象の対応関係は明確でない ('Bab stegs 99.1; Dgongs rgyan 103.12ff.). トンドゥプギャはここに隠喩ではなく、縮約表現 (bsdus brjod, *samāsokti) の存在を認めているが検討を要する (Track 18, 24:45).

... 'thor ba'ang spangs de 「…巻き起こすのを避けた彼を」 ここで作者はラーマナ王のある一つの優れた性質を描写することにより、他の優れた性質も王に具わっていることを読者に理解させている。インド東部ガウダ地方で愛好される崇高さ (rgya che ba, *udāratva; KĀ I 76) という美質をここに認めることができる (Dgongs rgyan 103.17ff.). シェルシュルワが参照したタシルンポ版には spangs te という異読があるという。しかし、ここで接続助詞 te は意味をなさないので、spangs de と読むべきである ('Bab stegs 99.6f.).

ཨ་མ་འདི་ནི་ངེས་པ་སྟེ། །
 ལུས་ལ་རང་གིས་མ་བྱུང་ན། །
 ཟུག་ག་ཟེར་བདག་གིས་ལྷོང་བ་ལས། །
 རིག་ཟུར་འབབ་ཆུ་སུ་ཡིས་བསྐྱོག། །

99b: བྱུང་ཟེར་; ལྷོང་ Thimphu.

99c: ག་ཟེར་ཟེར་; ཟེར་ Thimphu. ལས་ཟེར་; ཡི་ Thimphu.

(シーターの独白：)

「ああ、これが運命なのね。

自分で身体を傷つければ

私自身が痛みを受けるしかないもの。

滝から流れ落ちる水を誰が止められると言うの？」(99)

e ma 'di ni nges pa ste 「ああ、これが運命なのね」 トンドゥプギャとカンブムはこの第一詩脚で悪い結果 (mchog min, *asat) の例示 (nges bstan, *nidarśana; KĀ II 348) がなされていると説明するが、ダンディンの『詩鏡』における「例示」の定義や例文との合致を見出し難く、さらなる検討を要する (Track 18, 27:07; Dgongs rgyan 104.14f.).

zug gzer bdag gis myong ba las 「私自身が痛みを受けるしかないもの」 格助詞 las で終わる不完全文である。註釈に従って zug gzer bdag gis myong ba las 'os ci yod 「私自身が痛みを受けるしかない」と理解する ('Bab stegs 100.1f.). シェルシュルワによると、ツァン木版本 (gtsang dpar) には myong ba yis という異読があるが、これでは意味をなさない。また、シェルシュルワは myong ba yi という読みも許容している。おそらくその場合の助詞 yi は属格助詞「～の」ではなく、対比を表す接続助詞「～であって」「～であるが」なのであろう ('Bab stegs 100.15ff.).

བདག་ཅག་སྐྱ་ཡི་ཁྱིའི་གི། །
 འོག་པོའི་མཆོ་སྐྱོས་འདབ་མ་འཕྱུད། །
 རྗེ་བོ་རྒྱང་བ་རྟུག་པ་དེའི། །
 སྐྱང་རྩེའི་བཀོ་སྐལ་བདག་གིས་སྐྱུད། །

100b: འོག་པོའི་ Gser; འོག་པོའི་ Zhal; འོག་པོའི་ Mkha'; འོག་པོའི་ Thimphu, འོག་པོའི་ Bkra.

100d: སྐྱུད་ཟེར་; བཅད་ Thimphu.

(シーターの独白：)

「私達の髪という葛の樹の間の
狭い隙間にある唇という花びらを重ね合わせた
ご主人様、かの蜜蜂（六本足）の
蜜の分け前を私は味わったのだった。」(100)

skra yi khri shing gi dogs pa'i... 「髪という葛の樹の間の狭い隙間にある…」 五つの版は全て異なる読みを与える。難読箇所である。dog pa (もしくは dog po) を「狭い隙間」の意味で理解した。ジャバは dog pa を「塊」(phon po, chun po) の意味で理解し、「髪という葛の樹の塊のかげに隠れて (dog pa ste phon po'i phag la yibs te)」という解釈を与える (*Mun sel* 179.3, 14f.)。シェルシュルワとトンドゥプギャは再後置字-s を伴う dogs pa'i という読みを採用している。この読みに従って直訳すれば「髪という葛の樹に関する懸念と関係した (dogs pa'i) 唇という花びらを」となるであろう。しかし、シェルシュルワは自身の註釈において dogs pa'i を dogs pas と読み替え、「髪という葛の樹がお互いの顔にかぶさるのを気にしながら (phan tshun gyi gdongs ba sgrub tu dogs pas) それをよけて (de bsal te) 唇という花びらを重ね合わせた」という註釈を与える (*'Bab stegs* 100.5ff.)。トンドゥプギャの解釈によれば、二人は手の代わりに唇を使って髪をよけて口づけを交わしたのだという (Track 18, 28:00)。

sbrang rtsi'i bgo skal 「蜜の分け前」 シーターが味わった快樂 (dga' bde) を表す隠喩である。既に見たように、比喩基準のみが示され、比喩対象が明示されないこのような隠喩をトンドゥプギャは非明示的隠喩 (sbas pa'i gzugs can) と命名する (Track 19, 0:30)。

ཡབ་ཀྱི་མེན་རྗེས་སྒྲ་ཚེས་དང་། །
བྲལ་བའི་འོ་མ་འཛིན་པ་འདི། །
དུག་སྐྱུལ་གྱིས་བཟུང་ཡན་ལག་སྟེ། །
མེན་མེདི་གནས་ལྷགས་དབབ་པར་བྱ། །

101a: དང་ ས; གང་ Bkra.

101c: ཀྱིས་བཟུང་ ས; ཀྱི་ནི་ Thimphu.

(シーターの独白：)

「夫の爪跡という三日月を
失ったこの乳房（乳を溜めるもの）は
もはや毒蛇に捕えられた木の枝も同然。
爪という稲妻が落ちる場所でしかないわ。」(101)

yab 「夫」 yab の原意は「父」であるが、ここでは「夫」「主人」(bdag po, rje bo) を意味する (Track 19, 1:20)。

dug sbrul gyis bzung yan lag ste 「もはや毒蛇に捕えられた木の枝も同然」 bzhin 「~のように」 や'dra 「~のようだ」などの対応関係を明示する語 (mthungs pa gsal byed) はないが、直喩 (dpe) として解釈可能である (Track 19, 2:55; *Dgongs rgyan* 106.16f.)。

sen mo'i gnam lcags 「爪という稲妻」 羅刹達の鋭くて長い爪 (srin mo rnams kyi sen mo rab tu rno zhing ring ba) を「稲妻」という隠喩で表している (*'Bab stegs* 100.14)。

སྐྱོན་པོའི་བ་མོས་མ་རྟེག་པའི། །
ཕྱོད་དུ་བདག་སྟོག་པད་མའི་ཚལ། །
ཡུད་གྱིས་ཉམས་བྱེད་མཚོན་དང་ནི། །

གཡང་ས་ནམ་ཞིག་རྩེད་པར་འགྲུས། །

102d: འགྲུས་ ཟ; གྲུས་ Thimphu.

(シーターの独白：)

「羅刹という霜に触れない内に
自分の命という蓮華の庭園を
瞬時にして破壊する凶器あるいは
断崖をいつ手に入れられるかしら？」(102)

srin po'i ba mos ma reg pa'i sngon du 「羅刹という霜に触れない内に」 秋の終わりに霜が降ると、庭園の蓮華は枯れてしまう。羅刹達がシーターの身に襲いかかることを暗示している (Track 19, 4:20)。シーターは羅刹達に襲われる前に自害しようと考えている。

དེ་ཡི་རྩིང་གི་མེ་དུགས་ཀྱིས། །
སྤྱད་མོས་ཚལ་དེ་བཅོམ་བྱས་ཏེ། །
ཨ་དིའི་བྱ་ཡང་ཚ་བ་དེ། །
མ་བཟོད་རྒྱ་མཚོ་འཕྲང་ཕྱིར་རྒྱགས། །

103a: དེ་ཡི་ ཟ; དེ་ནི་ Bkra.

103b: བཅོམ་ ཟ; བཅོམས་ Mkha'. 103b om. Bkra.

103c: ཨ་དིའི་ ཟ; ཨྱ་དིའི་ Gser; ཨ་ཏིའི་ Thimphu.

103b: རྒྱགས་ ཟ; བརྒྱགས་ Gser; རྒྱག་ Thimphu.

彼女の心という火の熱で
その庭園は焼き打ちにされた。
太陽（アディティの若人）もその熱には
耐えられず海を飲みに駆けて行った。(103)

me dugs 「火の熱」 『チベット歴代文学作品選《金塊》』の編者は「火に炙る治療法」とあるという註記を与える (*Gser gyi sbram bu* 504.5ff.)。しかし、ジャバの語釈に見られるように、ここでは「火の熱」(me yi tsha ba)を意味すると思われる (*Mun sel* 181.15)。この隠喩は怒りと後悔の念で燃えたぎるシーターの心を表している (Track 19, 5:50)。

a di'i bu yang... 「太陽（アディティの若人）も…」 太陽もシーターの怒りと後悔の熱に耐えられず、喉の渇きを癒すために海水を飲もうとして、西の方角に沈んで行った。太陽を擬人化した転移 (ting nge 'dzin, *samādhi; KĀ I 93) という技法が用いられている (Track 19, 6:15)。

མཚན་མོ་རྒྱ་བ་རྣམས་ཀྱིས་ནི། །
རིགས་ཀྱི་ལྷ་བཞིན་དེ་མཚོད་ཀྱང་། །
བྱེ་བྱེད་ཚོགས་ལ་ཁ་ལྷ་དག་གིས། །
བསྐྱེན་བཀུར་བྱས་པ་བཞིན་དུ་ལོ། །

104b: ཀྱང་ ཟ; ཅིང་ Bkra.

104c: བྱས་ ཟ; བྱེད་ Bkra.

羅刹（夜に蠢く者）の者達は

氏神を奉るように彼女を敬ったが
まるで小鳥の群れに向かって鷹が
恭敬の意を表しているみたいであった。(104)

bye 'u'i tshogs la... 「まるで小鳥の群れに向かって…」 羅刹達は食べ物や飲み物を運んで来てシーターに恭しく接した。しかし、彼らの行動は自分を殺すために仕掛けられた罠であることを悟ったので、シーターはそれを全く受け取ろうとしなかった。シーターの様子は、ちょうど小鳥が鷹を見るや否や恐怖で震える時のそれと同じであった（'Bab stegs 102.15ff.）。

[11] ラーマナ兄弟、森に帰る

དེའི་ཚེས་སྐྱོད་རྒྱ་མ་ཚ།
སྒྲིག་རྒྱུ་འུ་ཡིས་བསྐྱུས་པ་སྟེ།
འབབ་ཆུ་དོན་མེད་རྒྱུན་ཡང་རྟེན།

105a: རྒྱ་མ་ཚ། ས; ར་མ་ཚ། Thimphu.

105b: རྟེན། ས; དེ། Thimphu.

105c: ཡང་། ས; དག། Gser, Thimphu. རྟེན། ས; རི། Thimphu.

その頃、ラーマナ王が
陽炎の水に惑わされながら
見つけたのは生温かい川の流れてであった。(105)

de'i tshe 「その頃」 ラーマナとラグマナの二人が元の森に戻る途中、砂漠を通過していた時の出来事である（'Bab stegs 103.17）。

smig rgyu'i chu yis bslus pa ste 「陽炎の水に惑わされながら」 陽炎の水に惑わされるようにして (bslus pa dang 'dra ba ste) 彼らは飲み水を得ることができなかったということを意味する（'Bab stegs 103.19f.; Dgongs rgyan 109.10）。陽炎の水によって惑わされたというのは事実の直接的描写ではなく、彼らが飲み水を得られなかったこと、あるいは飲み水を探し求めたことを象徴的に描いたものである。トンドゥプギャによれば、これは縮約表現 (bsdus brjod, *samāsokti) である (Track 19, 12:20)。

'bab chu dron mo'i rgyun yang rnyed 「見つけたのは生温かい川の流れてであった」 兄弟は砂漠の中にいて飲み水を探し求めたが、ついに見つけたのは飲むのに適さない生温かい水が流れる川でしかなかった（'Bab stegs 103.19ff.）。

སོས་ཀའི་གཞིས་འཕུང་དབང་དེ་ལ།
ལག་ལྡན་ཕྱག་གུས་ལགས་སྐྱུས་ཀྱི།
མཁུར་འཇུམ་འཇུམ་དཀར་ཉེ་བར་བསྐྱུས།
འདི་ནི་བ་སྐྱུ་ཆུ་འཛིན་མེད།
ཕང་བ་ལས་ནི་འོངས་པ་སྟེ།
བ་རྒྱུ་ཆུ་འདིས་སྐོམ་པ་ལས།
ཆེས་ཆེདི་སྐྱག་བསྐྱུ་བྱེད་པར་ངེས།

106a: སོས། ས; སོ། Thimphu.

106b: ཕྱག་གུས་ Zhal, Gser; ཕྱ་གུས་ Mkha', Bkra; ཕྱ་གུའི་ Thimphu.

106f: བ་ཚུལ་ ས; བ་ཚུལ་ Thimphu.

夏の象（二箇所を飲む者）の首領である彼に
象（手を持つ者）の子供が真実の言葉という
白い微笑みを浮かべた笑みの頬を見せながら言った。
「これは動物のうぶ毛という雲（水を保持するもの）の
中から流れて来たものです。
この塩辛い水を飲めば必ずや喉の渇きよりも
ずっと苦しい思いをすることになるでしょう。」 (106)

sos ka'i gnyis 'thung dbang 「夏の象（二箇所を飲む者）の首領」 夏（sos ka, *grīṣma）の暑さに苦しむ象の首領という隠喩は、灼熱の砂漠地帯を進むラーマナのことを表している（'Bab stegs 104.1f.）。比喩対象であるラーマナが明示されず、比喩基準のみが明示される。トンドゥップギヤが非明示的隠喩（sba pa'i gzugs can）と名づける技法である（Track 19, 15:00）。

'dzum dkar 「白い微笑みを浮かべた」 サンスクリットの sitasmita 「白い微笑み」に相当する表現。シェルシュルワによれば、微笑みを浮かべる美しい象の頬の側面に付着した新鮮な樹液の滴（'gram pa 'dzum zhing mdzes pa'i ngos la chags pa'i thang chu gsar ba'i thig le）を表している（'Bab stegs 104.4）。ジャバによれば、これは単に愛情や喜びの微笑み（brtse ba'am dga' ba'i 'dzum mdangs）を意味する（Mun sel 184.19）。

'di ni ba spu chu 'dzin ma'i... 「これは動物のうぶ毛という雲（水を保持するもの）の…」 ラーマナ兄弟が目撃した生温かい川は、実は獰猛な動物達が取っ組み合いながら流した汗水であった（'Bab stegs 104.5f.）。後述されるスグリーヴァ（Mgrin bzang, *Sugrīva）とバーリン（'Ba' le, *Bālin）という二匹の猿の戦いを暗示している。

རྒྱུ་ལྷག་རི་བོའི་མཚན་མ་ལས།
ཀླུ་པོ་ལྷག་པོ་ལྷག་པོ་ལྷག་པོ།
ལྷག་པོ་ལྷག་པོ་ལྷག་པོ་ལྷག་པོ།
དཀར་ལྷག་པོ་ལྷག་པོ་ལྷག་པོ་ལྷག་པོ།

毒蛇（長い背中を持つ者）の唾液というその繩を
足という舟に乗って渡った後
周囲の山々を目印として
かの苦行の森の方角へ向かった。(107)

rgyab ring 「毒蛇（長い背中を持つ者）」 サンスクリットの dīrghapṛṣṭa に相当する語。sbrul 「蛇」を意味する詩的語彙である。シェルシュルワによると、ここでは毒蛇（dug sbrul）を意味する（'Bab stegs 104.14）。

kha chu'i zhags pa 「唾液という繩」 毒蛇の唾液という繩に等しい長さを持つ、その生温かい水の流れのことである（'Bab stegs 104.14f.）。

rkang pa'i gru yis brgal nas ni 「足という舟に乗って渡った後」 ラーマナとラグマナはその有毒な水を飲むのを断念し、水流を飛び越えて行った（'Bab stegs 104.14f.）。

རྒྱུ་ལྷག་རི་བོའི་མཚན་མ་ལས།
རྒྱུ་ལྷག་རི་བོའི་མཚན་མ་ལས།
རྒྱུ་ལྷག་རི་བོའི་མཚན་མ་ལས།

དེ་དག་ཚེས་ཞེས་འཁོད་པ་ན། །
 ཚེ་ངའི་སྐྱ་བཅས་འཕུར་བ་དང་། །
 བྲང་དག་ས་ལ་རྗེ་བ་ཅིང་འབབ། །

108c: བཅས་པས་ ཟ; ཚེས་པོས་ Thimphu.

108d: ཚེས་ ཟ; ཚེས་ Thimphu.

108f: རྗེ་བ་ཅིང་ ཟ; རྗེ་བ་ཅིང་ Gser; བརྗེས་ཤིང་ Thimphu.

かなり遠い所から王の兄弟二人に
 気づいた鳥（美しい翼を持つ者）達と
 土地の首領はお出迎えにやって来た。
 彼らがずしりと腰を下ろすと
 鳥達は嘆きの声と共に飛び廻ったり
 胸を地面にぶつけて着地したりした。(108)

'dab bzang 「鳥（美しい翼を持つ者）」 サンスクリットの *suparṇa* 「美しい翼を持つ者」に相当する語。ガルダの別名でもあるが、ここでは鳥 (*bya*) を意味する (*'Bab stegs* 105.8)。

sde dpon 「土地の首領」 元よりその土地一帯を支配していた首領 (*gnas gzhi'i bdag po*) のことである (*'Bab stegs* 105.8f.; *Dgongs rgyan* 112.2f.; Track 19, 18:20)。ジャバは「鳥達の首領」 (*'dab chags bya'i sde dpon*) という意味で理解している (*Mun sel* 188.20f.)。

དགའ་བའི་བཞིན་གྱི་མཚུ་སྐྱོས་ཀྱིས། །
 ལུ་ལྷ་ལ་ནི་དོན་འདི་བསྟན། །
 ཟས་ལ་བཀླམ་པའི་རོལ་རྟེན་མས། །
 འདི་དག་སྐྱོང་ཐོས་པར་ངེས། །
 མཁའ་ལ་ལྗིང་བའི་གདུགས་དཀར་གྱི། །
 འདབ་མ་གཡོ་ཞིང་ཉེ་བར་ཕྱིན། །

109a: དགའ་བའི་ ཟ; དགའ་བ་ Gser.

109c: བཀླམ་ ཟ; བསྐྱམ་ Thimphu.

109e: གྱི་ ཟ; གྱིས་ Bkra.

喜悦する者（ラーマナ）の顔の唇は
 弟に向かって次のことを語った。
 「きっとお腹を空かしたシーターが
 彼らの卵を食べてしまったんだな。」
 空中に浮かんだ白い傘の
 房飾りを揺らしながら帰り道を進んだ。(109)

dga' ba'i bzhin 「喜悦する者（ラーマナ）の顔」 *dga' ba'i* を形容詞（「喜悦する～」）として理解しても良い。ラーマナが喜悦しているのは、元の居場所であった森に到着し、土地の首領の出迎えを受け、間もなく愛妻に会えると思ったからである (Track 19, 20:10)。この描写から、ラーマナはシーターから罵詈雑言を浴びせられ、無益な旅に行かせられたにも関わらず、彼女を責めておらず、寛大な心を持っていることが分かる (*Mun sel* 191.11ff.)。

zas la brkam pa'i rol rnyed mas... 「きっとお腹を空かしたシーターが…」 ラーマナは鳥達が騒ぎ立てている様子を見てそのように考えた (*'Bab stegs* 106.4f.)。

'dab ma g-yo zhing 「房飾りを揺らしながら」 接続助詞 zhing は付帯状況「～しながら」を表す (g-yo zhing = g-yo bzhin par, 'Bab stegs 106.7f.)。ラーマナはこの時狩人の恰好をして旅に出ているのであるから、王族が行幸する際に用いる白い傘を持っていたはずがない。それゆえ、詩節後半は事実の描写ではなく、何らかの隠された事柄を暗示する隠喩、すなわち非明示的隠喩であろう (Track 19, 22:35)。しかし、その場合「白い傘」や「房飾り」という隠喩が何を暗示しているのかは明らかでない。いずれにせよ、この描写はラーマナが帰り道を急いで歩いていたことを表し、彼のシーターに対する愛情の深さを暗に示しているであろう (Mun sel 191.14ff.)。

དར་ནི་རྒྱ་མཚོ་ཆེན་པོ་ཡི།
 ལུས་ཀྱིས་བོར་འདྲེ་གཤོང་ཆེན་མཐོང་།
 རྣམས་ཚལ་སྤྱི་ཏུ་དང་བཅས་པ།
 ཡིད་ཀྱི་ཡུལ་དུ་མ་སྐྱར་ཏོ།

110b: གཤོང་ ཟ; གཤོངས་ Thimphu.

110c: སྤྱི་ཏུ་ Zhal, Gser; སྤྱི་ཏུ་ Mkha', Bkra; སྤྱི་ཏུ་ Thimphu.

110d: དུ་ ཟ; དུའང་ Thimphu.

そこに彼らが見たのは大海原の
 体の抜け殻のような巨大な空洞であった。
 森の樹々もシーターも
 心に浮かぶことはなかった。(110)

yid kyi yul du ma gyur to 「心に浮かぶことはなかった」 ラーマナは元の住居とシーターが跡形もなくなっているのを見て錯乱状態に陥り、以前の状態を正確に思い出すことすらも困難になった ('Bab stegs 107.1ff.)。

རྒྱལ་པོ་དགའ་བའི་རྩ་བ་ནི།
 ཆད་པས་རྐང་འབྲུང་ས་ལ་འབྱེལ།
 ཚངས་སྤྱོད་དཔལ་ལྡན་ཡིད་བསྐྱུས་ཀྱི།
 རྗེ་བཟང་བསེལ་བས་གསོས་པ་ཐོབ།

111a: ཐོ་ ཟ; ཐོས་ Mkha'.

111b: འབྲུང་ ཟ; འབྲུངས་ Thimphu.

111c: དཔལ་ལྡན་ ཟ; དང་ལྡན་ Thimphu.

111d: བསེལ་བས་ ཟ; དགའ་མས་ Thimphu.

王（ラーマナ）の喜びという根が切られたので
 樹（足で飲む者）は地面に倒れた。
 梵行という美質を具備するラグマナの
 ひんやりとする芳しい水のおかげで正気に返った。(111)

rgyal po dga' ba'i rtsa ba ni... 「王（ラーマナ）の喜びという根が…」 ラーマナの喜び（＝喜悅対象）を「根」という隠喩によって表現している。この隠喩によって暗示されるのはシーターである。「樹」はラーマナの身体 (lus) のことを表している。ちょうど樹がその根を切られると倒壊するように、ラーマナはシーターが姿を消すとその精神的衝撃のために意識を失い、地面に倒れてしまった ('Bab stegs 107.3ff.; Dgongs rgyan 114.13ff.; Track 19, 26:25)。比喩対象（「シーター」

と「身体」)が明示されず、比喩基準(「根」と「樹」)のみが示されるので、トンドゥプギャによればこの表現は非明示的隠喩である(Track 19, 26:40)。

dri bzang bsil bas gsos pa thob 「ひんやりとする芳しい水のおかげで正気に返った」 ラグマナが鎮静効果のある芳香水をラーマナの身体に振りかけたことにより、ラーマナは意識を取り戻した('Bab stegs 107.6ff.)。

[12] ラーマナ、猿王スグリーヴァに会う

འབབ་ཚུ་ནར་བོའི་རྒྱན་ལྷགས་དེ། །
གང་ལས་བབས་པའི་ཕྱོགས་དར་སོང་། །
དེར་ནི་འཇིགས་རུང་དམར་སེར་ཅན། །
མི་སྡོད་འདྲ་ཞིག་མཐོང་བར་གྱུར། །

112b: བབས་ ཟ; འབབ་ Thimphu.

その河の長く伸びた流れの
湧き出る水源の方向に向かって行くと
そこで彼が見たのは恐ろしい姿をした
雪男のような猿(橙色をした者)であった。(112)

'bab chu 「河」 ラーマナ兄弟が沙漠で目にした、生温かい水が流れる河のことである('Bab stegs 109.11f.)。

mi rgod 'dra 「雪男のような」 後に明らかにされるように、ここに描かれている怪物は猿の王者スグリーヴァ(Mgrin bzang, *Sugrīva)である('Bab stegs 112.6)。

མིག་གྲགས་ཚུ་འཇིན་བར་ལས་ནི། །
འོད་ཟེར་དམར་བོ་འལྷགས་ལྷན་པས། །
ཉི་མའི་གཟེ་བྱིན་པམ་བྱེད་དེ། །
བཟླན་པས་སྲུན་པ་འཕྲོག་པ་བཞིན། །

113b: འལྷགས་ ཟ; འལྷག་ Zhal, Thimphu.

113d: བཟླན་པས་ ཟ; བཟླན་པའི་ Thimphu. འཕྲོག་ ཟ; འཕྲོགས་ Zhal.

まぶたという雲(水を保持する者)の隙間から
赤い戦闘的な光線を使って〔その眼は〕
太陽の威光を打ち負かすのを見せつけたので
まるで辺りの暗闇を撃退するかのようであった。(113)

'od zer dmar po 'khrugs ldan pas 「赤い戦闘的な光線を使って」 スグリーヴァは敵に向かって睨み付けるような鋭い目つき(sdang mig)をしていた。彼の恐ろしい眼の特徴を描写した表現である('Bab stegs 109.14ff.; Dgongs rgyan 116.10f.)。

རལ་བའི་དོ་རྩེ་མེ་ཆར་གཡོ། །
ལྷས་སྤྱེས་རྩལ་རྒྱས་ལན་བུར་བཅེངས། །
དུས་མཐའི་རྒྱང་དབྱགས་ངར་སྤྲོ་ཅན། །

མཇུག་མ་ལུན་པའི་སྲིན་པོ་བཞིན། །

114a: སལ་བའི་ ཟ; སལ་པ་ Thimphu. རྩོམ་ ཟ; རྩོམ་འི་ Thimphu.

114b: ལུས་ ཟ; ལུས་ Thimphu.

114c: དུས་མཐའི་ ཟ; ས་མཐའི་ Thimphu.

長い髪という金剛の稲妻（火の雨）をたなびかせ
体毛を汗で編み込むようにしながら
劫末の風のような息で唸り声をあげ
さながら尾のついた羅刹といった有様であった。(114)

ral ba'i rdo rje me char 「長い髪という金剛の稲妻（火の雨）」 スグリーヴァの長い髪を「金剛」に喩え、さらに金剛を「稲妻」に喩えている。二重隠喩（gzugs can gyi gzugs can / gzugs can 'phar ma）の構造になっている（Track 20, 6:50）。

mjug ma ldan pa'i srin po 「尾のついた羅刹」 尾がついているという点を除けば、スグリーヴァは本物の羅刹とそっくりであった（'Bab stegs 110.3）。

གོམས་པའི་གྲངས་ཀྱིས་འཛིན་མའི་ཚད་བཙལ་ཡང་། །

ས་ཆེན་སྲུང་མའི་ངང་ལུས་རྩལ་འོས་ཀྱིས། །

སྤྱི་ཏུ་ཀང་རྩེས་ལོ་འདབ་གསུང་བའི་ཚོན། །

དཔའ་བོའི་ཚད་པས་འཛིགས་བཞིན་ལོངས་མ་བཟུང་། །

115a: གོམས་ ཟ; གོམ་ Gser, Thimphu, Bkra. བཙལ་ ཟ; བཙལ་ Zhal.

115b: ཀྱི་ ཟ; read ཀྱིས་.

115c: སྤྱི་ཏུ་ ཟ; སི་ཏུ་ Mkha', Bkra; སྤྱི་ཏུ་ Thimphu. ཚོན་ ཟ; ཚོགས་ Thimphu.

彼は歩数で大地の大きさを測ってみたが
臆病者の大地という壁面は
勇者による裁きを恐れたのかシーターの足跡という
瑞々しい葉の彩色を纏うことはなかった。(115)

goms pa'i grangs kyi 'dzin ma'i tshad bcal yang 「彼は歩数で大地の大きさを測ってみたが」 ラーマナがシーター探索のためにあちこちを歩き回った様子を描写している。詩的空想に基づく表現である（Track 20, 7:45）。

sa chen sdar ma'i ngang tshul rtsig ngos kyi 「臆病者の大地という壁面は」 いずれの伝本にも rtsig ngos kyi とあるが、rtsig ngos kyi と訂正する。シェルシュルワは註釈において rtsig ngos 'di yis 「この壁面は」と表現しているので、属格助詞を能格助詞に置き換えて理解していると思われる（'Bab stegs 110.12）。「壁面」は「大地」を表す隠喩である。トンドゥップギャは「大地」が「臆病者」という隠喩によって表現され、さらにそれが「壁面」という別の隠喩によって表現されていると考え、ここに二重隠喩の構造を読み取っている（Track 20, 9:30）。

dpa' bo'i chad pas 'jigs bzhin... 「勇者による裁きを恐れたのか…」 勇者による裁きを恐れた臆病者の大地＝壁面は、まるで勇者が到着する前にシーターの足跡という葉＝彩色を隠してしまったかのようだ、という詩的空想に基づく描写である。「勇者」がラーマナを指しているとするならば、大地＝壁面はラーマナの矢（mda'）の裁きを恐れたということになる。あるいは「勇者」はスグリーヴァを指していると解釈しても良い。その場合、大地＝壁面はスグリーヴァによって何度も踏みつけられることによって裁きを受けるのを恐れたということになる（'Bab stegs 110.11ff.）。

དེ་ཚེ་གཤོང་ལ་གཤོང་ཕྱགས་ཉལ། །
 ལྷན་པོ་འདི་ཞེས་བསྐྱེགས་པ་བཞིན། །
 མོ་མོ་མོ་གཞུ་བདུངས་ལྷན་གསལ་ལས། །
 ཅུང་མེདི་འབྲུག་གི་སྐྱ་ཚེན་ཤོར། །

116c: མོ་མོ་མོ་ ཟ; མོ་མེདི་ Thimphu. ལས་ Zhal, Mkha'; མས་ Gser, Thimphu, Bkra.

116d: ཅུང་མེདི་ ཟ; ཅུང་མེདི་ Zhal.

その時、彼は顔と顔を向かい合わせにして横たわっていたが
 あたかも「強盗はここだぞ！」と言って脅かすかのように
 指で放たれた弓矢という空（一切を照らすもの）から
 嘆きという大きな雷鳴が轟いた。(116)

de tshe 「その時」 シーター探索の手掛かりすら得られずにいたラーマナがスグリーヴァの姿を見出した時のことである（'Bab stegs 111.8）。

gdong la gdong phyogs nyal 「彼は顔と顔を向かい合わせにして横たわっていたが」 シェルシュルワの解釈によれば、「顔」は弓の先端（gzhu mchog）を表し、ラーマナが弓の二つの先端を向かい合わせ、紐で結びつけて手元に置き、夜警（mel tshe）のようにいつでも出動できる体制にしていたことがここで描写されている（'Bab stegs 111.8ff.）。一方、トンドゥプギャの解釈によれば、「顔」はラーマナとスグリーヴァの顔を指しており、両者がともに相手を凶暴な敵であるとみなして威嚇し合っている状況が描写されている（Track 20, 11:35）。後者の解釈に従うならば、訳は「彼ら二人は顔と顔を向かい合わせにして横たわっていたが」となる。

gzhu bdungs kun gsal las 「放たれた空（一切を照らすもの）から」 「放たれた弓」が「空」という隠喩によって表現されている（Track 20, 13:10）。

མཚོག་མེདི་བར་ལས་འོངས་པ་ཡི། །
 རྩེ་རྩེ་མེ་ཚར་ཚོགས་ཀྱིས་གང། །
 སྤུའི་རྒྱལ་པོ་ལྷན་པོ་ཡི། །
 སྤྱི་བོ་ངེས་པར་ཕམ་བྱེད་དེ། །

117a: བར་ Zhal, Thimphu; རྩེ་ Gser, Mkha', Bkra. ཡི་ ཟ; ཡིས་ Thimphu (?).

117b: གང་ ཟ; བཀང་ Thimphu.

117c: ལྷན་པོ་ ཟ; ལྷན་པོ་ Mkha'.

二つの弓先の間から放たれた
 金剛の稲妻の束は一杯になって
 猿の王者というメール山の
 頭頂を確実に玉砕するものである。(117)

mchog ma'i bar las 「二つの弓先の間から」 mchog ma'i rwa las 「弓先という角（つの）から」という異読もある。

spre'u'i rgyal po 「猿の王者」 スグリーヴァのことを指す。「メール山」（須弥山）は猿の王者スグリーヴァを表す隠喩である（'Bab stegs 111.16）。

pham byed de 「玉砕するものである」 ラーマナによって放たれた矢がスグリーヴァの頭に直撃したことを表している。deは接続助詞である。deを指示代名詞とみなして詩節を合理的に解釈するのは困難であろう（'Bab stegs 111.17ff.）。

རལ་བའི་ལོ་འདབ་གཡོ་ལྷན་པའི།
 མགོན་བཟང་ལུས་ཀྱི་རྒྱང་འབྲུང་ནི།
 གཞུ་རྒྱལ་མདའ་ཚེན་གྱིས་སྐྱུ་མེ།
 སོར་མའི་ལྷུག་ཕན་སྤྱི་བོར་བུམ།

118d: ལྷུག་ཕན་ ཟ; ལྷུ་ཕན་ Thimphu (?).

長い毛という葉をゆらゆらと動かす
 スグリーヴァの身体という樹（足で飲む者）は
 弓の王者が飛ばした大矢に恐れをなし
 指という小枝を頭の上で閉じる格好をした。(118)

ral ba'i lo 'dab g-yo ldan pa'i... 「長い毛という葉をゆらゆらと動かす…」 これまでの箇所ではスグリーヴァは、その力強さや獰猛さを表現するために「羅刹」や「メール山」に喩えられていたが、ラーマナの矢を受けて恐れをなす様子が描かれるこの場面では、幾分か弱い「樹」という隠喩によって描写されている。

sor mo'i lcug phran spyi bor zum 「指という小枝を頭の上で閉じる格好をした」 ラーマナに向かって敬礼したという意味である（'Bab stegs 113.3）。

སྤྱི་བོར་སོག་ལེས་ལྷོན་ཤིང་འགྲུགས་བྱེད་གྲང་ཚེན་སྤོན་པའི་ལྷུས་བུམ་མཐོན་པོ་གསེར་གྱི་བྱང་བུ་དོ་རྗེའི་སྤང་
 ལུས་མངོན་པར་བརྒྱས་པའི་ཚོ་ག་ཅན།
 འཕྲོག་བྱེད་ཁྲོས་པའི་དབྲུང་བ་གཏུམ་པོ་གྱེན་དུ་འཕུར་བས་རལ་བའི་མེ་ཏོག་མཁའ་ལ་འཕྲོར་བྱེད་སྤེར་མའི་
 མཚོན་རྗེན་ཕུར་དུ་འབབ་པས་ངེས་པར་འཛོམས།
 རྒྱལ་རིང་རོ་འཛིན་སྤུག་པའི་སྤྲེག་བཟུང་ཚེས་ཚེར་འབར་བའི་དུག་གི་མེ་ལྷེས་ལུས་ཅན་གྱི་རི་ཁ་བའི་སྤང་བོ་ཉི་
 འོད་གོས་བཟང་གྱེན་པ་སྤྲེ།
 མི་བདག་སྤྱིང་གི་རི་སྤུལ་འདྲིར་ནི་དམག་དབྲུང་གཏུགས་དཀར་ལྷན་ཅིག་དོར་བའི་རྒྱང་གཏུབ་གཡེར་ཁས་
 འཛིན་མའི་རྒྱལ་ཚོགས་ལེན་པར་ལྷུགས་འདྲི་རིགས་སམ་གྱེ།

119a: སོག་ལེས་ ཟ; སོག་ལེའི་ Thimphu. འགྲུགས་ ཟ; གཏུ་ Thimphu. བརྒྱས་པའི་ ཟ; བརྒྱས་འདྲའི་ Bkra. ཚོ་ག་ ཟ;
 གོ་ཚ་ Thimphu.

119b: རལ་བའི་ ཟ; ལ་བའི་ Thimphu.

119c: བྱང་བོ་ ཟ; གོང་བུ་ Thimphu; སྤང་བའི་ Bkra.

119d: བདག་ ཟ; དག་ Thimphu. དོར་བའི་ ཟ; དོང་པའི་ Thimphu. གཏུགས་ ཟ; གཏུག་ Zhal. གྱེ་ ཟ; ཅི་ Bkra.

(スグリーヴァ:)

「連なった体毛という鋸で樹々をなぎ倒す凶暴化した象の高くそびえる頭（酔いをもたらす瓶）という黄金の紋章に金剛の縄を貫き通す儀式を執り行う
 獅子が強い両腕を激しく持ち上げると、長いたてがみの花びらを空に撒き散らし、爪
 という鋭利な武器を真っ逆さまに振り下ろして狙い通りに敵を滅ぼします。
 また、毒蛇（長い背中を持つ者）の舌（味を捉えるもの）という洞窟から吹き出る炎
 （焼き焦がし食い尽くすもの）で燃える毒の火花は、衆生というカイラーサ山の雪
 の塊に日光の晴れ着を着せています。
 それなのに、王よ、私共の心に似たこの山奥の地で、軍隊と白傘を共に捨て去って足
 頸の飾りの小鈴を鳴らしながら、大地の塵の集まりを掴まえに向かうとは、お気は
 確かでしょうか？」(119)

myos bum 「頭（酔いをもたらす瓶）」 **myos bum** 「酔いをもたらす瓶」は象の隆起した頭（klad pa）を意味する詩的語彙である。myos bum can 「酔いをもたらす瓶を持つ者」といえば「象」を意味する。

gser gyi byang bu rdo rje'i srad bus mngon par brgyus pa'i go cha can 「黄金の紋章に金剛の縄を貫き通す儀式を執り行う」 「金剛の縄」とは獅子の鋭い爪のことである。獅子が凶暴な象の頭を爪で切り裂く様子を描写している（'Bab stegs 113.7ff.）。

lus can kai ri kha ba'i phung bo nyi 'od gos bzang gyon pa ste 「衆生というカイラーサ山の雪の塊に日光の晴れ着を着せています」 カイラーサ山の雪の塊に日光の晴れ着を着せるというのは、暖かい日光が雪を溶かすということ、要するに蛇の毒が他の生き物を殺すことを表す。最初の三つの詩脚はこの地方の荒廃した状態を描写している（'Bab stegs 114.16f.）。

snying gi ri sul 'dir ni 「私共の心に似たこの山奥の地で」 スグリーヴァは自身が住む土地を、人間の風習（mi'i rgyun lugs）が伝わっていない辺境の地と捉えている（'Bab stegs 114.2f.）。

དེ་ཚེ་མི་དབང་མགོན་པའི་སྐྱེས། །
 དྲིལ་བུའི་སྐྱེས་ལ་ཅོ་འདྲི་བྱས། །
 ལག་པས་འཛིན་མའི་ཁོར་ཡུག་ནི། །
 ར་བ་བཞིན་དུ་འཕྱུང་པ་དོར། །

120c: ཅི་ ས; གི་ Thimphu.

すると人々の主は喉から出る声を
 小鈴の音のように鳴らして
 両手を伸ばして土地一帯をまるで
 柵で囲むようにしていたのを止めた。(120)

ra ba bzhin du 'khyud pa dor 「柵で囲むようにしていたのを止めた」 両手を伸ばして土地一体を柵で囲むようにしたというのは、ラーマナが大きく腕を広げて弓を構える様子を表している。ラーマナはスグリーヴァと話をするために、弓を構える姿勢を取るのをやめた（'Bab stegs 115.7ff.）。

ངལ་གྱིས་རྐང་བའི་རི་མོ་ནི། །
 ས་ལ་འགོད་པར་བྱེད་ནི་ཉོན། །
 རྩུ་སྐར་དབུས་སུ་བགོད་ན་ནི། །
 ལྷ་བ་རང་སྲིད་ཉམས་བྱེད་པ། །
 ས་ལ་ལང་ཚོའི་ཡོན་ཏན་གྱིས། །
 གསལ་ལྡན་སྤྱི་དུ་བྱོད་ཤེས་སམ། །

121a: ངལ་གྱིས་ ས; ངལ་བཅས་ Thimphu.

121b: ཅི་ ས; འདྲི་ Thimphu.

121e: གྱིས་ ས; གྱི་ Thimphu.

121f: སྤྱི་དུ་ ས; སྤྱི་དུ་ Mkha', Bkra; སྤྱི་ཏ་ Thimphu.

(ラーマナ：)

「せわしなく両足の模様を
 地面に残す者よ、聞いてくれ。
 星々の只中を歩むならば

月の権勢さえも失墜させ
若さの魅力によって地上で名声を得ている
シーターという女を君は知っているか？」(121)

rkang ba'i ri mo ni sa la 'god par byed「両足の模様を地面に残す者よ」 猿の動作を表現している。スグリーヴァは休むことなく両足をばたつかせ、地面に足跡を残している（'Bab steps 115.10f.）。
rgyu skar dbus su bgrod na ni...「星々の只中を歩むならば…」 シーターの美しさを、世間の常識を逸脱した誇張表現によって描いている。ガウダ様式に特有の「愛らしさ」という美質（mdzes pa'i yon tan）が認められる（Track 21, 5:50）。

འགྲོ་སྒྲོ་མེངས་པའི་འདས་རྒྱུ། །
མདོག་ལེགས་དུག་གི་མེ་ཏོག་བྱུང་། །
མཛེས་སྐྱུག་ལ་ཚགས་སྤང་ཅེ་དེ། །
བྱུང་བའི་རོ་འཛིན་ཉམས་བྱེད་དེ། །

122c: དེ་ ཏ; དེས་ Thimphu.

(ラーマナ：)

「迷える心を持つ人々という泥沼の只中に
きれいな色をした毒の花が咲いたんだ。
その美貌に付着した甘い蜜は
蜂の舌（味を捉えるもの）を麻痺させる。」(122)

'gro blo rmongs pa'i 'dam rdzab「迷える心を持つ人々という泥沼」 正と邪の領域（legs nyes kyi gnas）に関して迷える心を持つ愚かな人々が「泥沼」という隠喩によって表現されている（'Bab steps 116.9）。

dug gi me tog「毒の花」 シーターのことを指している（Track 21, 7:20）。比喩基準である「毒の花」のみが言及され、それによって暗示される比喩対象「シーター」が明示されていない。トン
ドゥブギャが非明示的隠喩（sbas pa'i gzugs can）と命名する技法である（Track 21, 10:08）。

mdzes sdug「美貌」 本来ならば「花蕊」（ge sar）という隠喩によって示されるべき比喩対象が「美貌」であろう（'Bab steps 116.10f.）。ここでは「美貌」という比喩対象が言及され、それを暗示する「花蕊」という比喩基準が明示されていない。

bung ba'i ro 'dzin nyams byed de「蜂の舌（味を捉えるもの）を麻痺させる」 ラーマナが「蜂」という隠喩によって表現されている（Track 21, 7:55）。ここでも「蜂」という比喩基準のみが言及され、それによって暗示される「ラーマナ」という比喩対象が明示されていない。非明示的隠喩の技法が用いられている。

རི་བོང་མཚན་མ་དེ་བཟུང་ནས། །
རྒྱ་བ་བདག་གིས་ཉི་མ་ཡི། །
རྒྱལ་ས་ལ་སྤེད་དོར་བྱས་ཏེ། །
དཀའ་སྐབས་མཁའ་ཡི་ནགས་སུ་འོངས། །

123b: བདག་གིས་ ཏ; བདག་གི་ Thimphu.

(ラーマナ：)

「かの兎の模様を我が物にすると
私という月は自ら進んで王位という
太陽に対する野心を捨て
苦行者の森という空に来てしまった。」(123)

ri bong mtshan ma 「兎の模様」 魅力的な女性シーターのことを指している (*Mun sel* 209.3)。月が兎の模様を我が物にしたというのは、ラーマナがシーターを妃として迎えたことを暗示している (Track 21, 9:00)。縮約表現 (bsdus brjod, *samāsokti) の技法が用いられている (Track 21, 10:20)。

zla ba bdag 「私という月」 兎の模様を手に入れた月というのは、シーターを自らの妃として迎えたラーマナを表す隠喩である (Track 21, 10:30)。

rgyal sa 「王位」 rgyal sa という語は「首都」を意味する場合もあるが、ここでは「王位」(rgyal po'i go sa) を意味する (*Mun sel* 208.14)。

མ་རུང་དབང་པོའི་གཞུ་ཡི་གཟུགས།
འཛིན་པའི་རི་དྲགས་མཐོང་བ་ན།
རྒྱུད་མང་དབྱ་གུ་འདི་འོས་ཞེས།
སོ་འུ་ལྷ་རྒྱུང་འཛིན་དེས་སྐྱས།

124b: འཛིན་པའི་ ཟ; འཛིན་མའི་ Zhal, Gser. དྲགས་ ཟ; དེ་ Thimphu.

124c: དབྱ་གུ་ ཟ; དབྱ་གུ་ Thimphu.

124d: སྐྱས་ ཟ; སྐྱ་ Thimphu.

(ラーマナ:)

「残忍な心を持ち虹（インドラの弓）の
ような姿をした鹿が目に留まると
『ヴィーナーを弾く義甲にちょうどいいわ!』と
幼子（十本の乳歯を持つ者）のような彼女は言うのだった。」(124)

dbang po'i gzhu yi gzugs 「虹（インドラの弓）のような姿」 ラーマナが作り出した鹿の幻影は、見た目には美しいが、捉えることのできないものである点で「虹」に似ている (*'Bab stegs* 117.7f.)。

rgyud mang dbyu gu 「ヴィーナーを弾く義甲」 「ヴィーナー」はシーターの欲望の象徴であり、「義甲」はその欲望を満たすための手段である。

se 'u lnga zung 'dzin 「幼子（十本の乳歯を持つ者）」 鹿の捕獲をラーマナに要求したシーターは思慮のない幼子 (bsam med kyi byis pa) も同然であった (*'Bab stegs* 117.10f.)。

ནགས་ན་གནས་བཅས་གྲོང་འདབས་སེམས།
ཆགས་པ་རྒྱས་ཤིང་རབ་ཞེས་སྟོངས།
སོ་གཉིས་དོར་ནས་རི་དྲགས་འཛིན།
གནས་མིན་གནས་སུ་བྱེད་འདི་ཞེས།
ནགས་ཀྱི་རྩེ་པོའི་རྩ་ལོང་ལ།
འབྲུད་པར་འོས་པའི་རྒྱན་བཟང་བྱིན།

125a: བཅས་ ཟ; བཅོས་ Bkra. འདབས་ ཟ; འདབ་ Zhal, Thimphu.

125b: སྟོངས་ ཟ; སྟོང་ Thimphu, Bkra.

125c: རྩེ་ ཟ; བས་ Thimphu. དྲགས་ ཟ; དེ་ Thimphu.

125e: རྣ་ལོང་ ཟ; ལྷ་ལུང་ Thimphu.

(ラーマナ:)

「森の中に住みながらも村のことを思い
欲望を増して平静さを失なって
象（二本の牙を持つ者）を捨てて鹿を狙い
為すべきでない行ないに身を任せるのがこの女だ。」
こう言って森の主（スグリーヴァ）の耳輪として
絡み付くのに相応しい上等の飾り物を与えた。(125)

nags na gnas bcas grong 'dab sems 「森の中に住みながらも村のことを思い」 全てが満ち足りた森という最高の環境に暮らしていたにも関わらず、シーターにはそこが住むのに相応しくない場所のように思われたということを表している（'Bab stegs 117.12f.）。

rgyan bzang byin 「上等の飾り物を与えた」 ラーマナがスグリーヴァに聞かせるのに相応しい話を語ったということを表している（'Bab stegs 117.19f.）。

འོ་ལོང་གི་ལྷ་ལུང་གི་བརྒྱུགས་བརྒྱུན་ལོ། །
གཙུག་གི་འོ་ལོང་གི་ལྷ་ལུང་གི་བརྒྱུན་ལོང་། །
དེ་ལོ་གཙུང་བའི་ལྷ་ལུང་ལོང་། །
དེ་ལོ་ལྷ་ལུང་གི་ལྷ་ལུང་ལོང་། །

126b: ལུང་ ཟ; ལུང་ Bkra.

126d: ལུང་ ཟ; ལུང་ Thimphu.

顔という大地（財を保持する者）に映った映像を
宝石という頭頂で受け取ると
彼（ラーマナ）の苦悩という重荷も
彼（スグリーヴァ）の肩に乗り移って負担となった。(126)

nor 'dzin gdong gi gzugs brnyan 「顔という大地（財を保持する者）に映った映像」 ラーマナが地面に残した足跡（rkang rjes）を「映像」と表現している。ただし、この隠喩によって暗示される足跡は言及されない。非明示的隠喩の技法が用いられている（Track 21, 18:55）。「顔」という隠喩で語られる大地は、映像を映す鏡（me long）に相当すると考えられるが、「鏡」という比喩基準は言及されない。スグリーヴァが地面に頭を付けてラーマナに頂礼する様子を述べている（'Bab stegs 118.12f.）。

de yi phrag la 'phos pas ngal 「彼（スグリーヴァ）の肩に乗り移って負担となった」 ラーマナの苦悩とは妻シーターが誘拐されたことである。彼の話を聞いたスグリーヴァはラーマナの苦しみを理解し、それを共に分かち合うことにしたのである（'Bab stegs 118.14ff.）。

ལྷ་ལུང་གི་ལྷ་ལུང་གི་ལྷ་ལུང་། །
ལྷ་ལུང་གི་ལྷ་ལུང་གི་ལྷ་ལུང་། །
དེ་ལོ་གཙུང་བའི་ལྷ་ལུང་། །
ལྷ་ལུང་གི་ལྷ་ལུང་གི་ལྷ་ལུང་། །

127d: ལྷ་ལུང་ ཟ; ལྷ་ལུང་ Thimphu.

首という樹（足で飲む者）の揺れにより

髪の毛という葉を震えさせながら
願いによって喚起された恭順の意を抱く彼は
言葉遣いも控えめにこう答えた。(127)

mgrin pa'i rkang 'thung lo 'dar ba 「首という樹（足で飲む者）の揺れ」 スグリーヴァは恐れおののいて (*'jigs shing zhum pa*) 震え上がった (*'Bab stegs* 118.16)。ラーマナの圧倒的な強さを目の当たりにしたスグリーヴァが身震いを起こしている様子を表現している (*Mun sel* 213.3)。

re bas 「願い」 ラーマナにバーリン討伐の手助けをして欲しいという願いである (*'Bab stegs* 118.19f.)。何としてでもラーマナを自分の味方につけたいという考えを持っているがゆえに、スグリーヴァはラーマナに対して恭順の意を表している (*Mun sel* 214.7ff.)。

མིང་རིས་པིར་གྱིས་རིང་ཞིག་བྲིས། །
ཚུ་རྒྱུན་བྱུང་བྱས་ཚུང་བྱས་བྱུང་། །
དེ་ཤེས་མེད་དེ་ཤེས་མེད་དེ། །
མི་མཚན་ཡིད་དེ་ཅོག་ཐོས་སྒྲིགས། །

128a: ཞིག་ ཟ; ཞིང་ Thimphu.

128b: བྱུང་ ཟ; འབྱུང་ Thimphu. ཚུང་བྱས་ ཟ; ཚུ་ Thimphu.

128c: དེ་ཤེས་མེད་དེ་ ཟ; དེང་ཤེས་མེད་དེས་ Thimphu.

128d: སྒྲིགས་ ཟ; སྒྲིས་ Bkra.

(スグリーヴァ:)

「そのお名前の絵はかねてより筆で描かれてございます。
河の流れが溢れ返った時に幼い姿で出現したのを
実際に見たわけではありませんが、かの心ない女が
最高の女であることは誰でも聞いていますし口にします。」(128)

ming ris pir gwis ring zhis bris 「そのお名前の絵はかねてより筆で描かれてあります」 この詩節では言葉の装飾要素 (*sgra rgyan*) が用いられている。第1詩脚では全ての音節に/i/を表す母音記号 *gi gu* が、第2詩脚では全ての音節に/u/を表す母音記号 *zhabs kyu* が、第3詩脚では全ての音節に/e/を表す母音記号 *'greng bu* が、第4詩脚では全ての音節に/o/を表す母音記号 *na ro* が現れる。この第1詩脚ではシーターの名前が「絵」という隠喩で語られている。その絵を描くための道具は空想 (*kun rtog*) という「筆」であり、絵が描かれるところは心 (*gid*) という「壁面」 (*rtsig ngo*) である (*'Bab stegs* 119.13f.; *Mun sel* 213.8f.)。ring zhis は *ring mo zhis nas* 「かねてより」と解釈できるが、ツァン地方の伝本には *ring zhis* という異読があり、これに従えば *yun ring ring bo'i bar du* 「長い時間をかけて」と解釈できる (*'Bab stegs* 120.1)。

chu rgyun brub dus chung ngur byung 「河の流れが溢れ返った時に幼い姿で出現したのを」 /chu/ という音が二度現れるので、ここに押韻 (*rjes khrid*, **anuprāsa*) の技法を見て取ることができる (*Dgongs rgyan* 128.4)。

sems med de 「かの心ない女」 *sems med* という表現は *sems med ma* 「心ない女」を意味する (*'Bab stegs* 119.17)。善悪の区別 (*legs nyes kyi nam dbye*) を知るための知性を持たない女 (*'Bab stegs* 120.2) あるいは恥知らず (*khrel med*) の女を意味する (*Track* 21, 23:30)。シーターのことである。第4詩脚では/de/という音が反復される。ここにも押韻の技法が見られる (*Dgongs rgyan* 128.5)。

རྒྱ་མཐི་མེད་ལས་འགོང་བ་ཡི། །
དེ་དྲགས་ཡ་མཚན་ཆེ་བ་སྟེ། །

སྤྱི་ཏུས་གདུང་བ་སྤྱི་བ་འདི།
 ཉུམ་དེ་བས་ངོ་མཚར་ཆེ།
 ཡ་མཚན་འདི་འདྲ་སྤྱུལ་ཤེས་པ་འདི།
 ཕྱེད་པོ་དེ་ཡང་བཟླགས་པར་འོས།།

129a: ཏུ་ཏུ; ཏ་ Thimphu. འགོང་བ་ ཏུ; འགོངས་པ་ Gser, Thimphu.

129b: དུགས་ ཏུ; དགས་ Thimphu.

129d: འོ་མཚར་ ཏུ; ཡ་མཚར་ Bkra.

129e: ཡ་མཚན་ ཏུ; ཡ་མཚར་ Bkra.

(スグリーヴァ:)

「ラーマの矢の手を逃れることのできる
 鹿というのは実に不可思議ですが
 シーターがこれほどの苦悩をもたらすとは
 いやはや、それにもまして驚くべきことです。
 このような不可解な物事を出現させることのできる
 かの創造主はまさに称賛に値するお方です。」(129)

rā ma'i mda' 「ラーマの矢」 ここでは「ラーマナ」ではなく「ラーマ」という名で言及される。ラーマナの矢には三つの決まり事がある (dam bca' gsum ldan) と言われている。すなわち、その矢は放たれれば必ず相手に命中し、その矢が命中した者は必ず死に、その死者は必ず天界に生まれ変わるといふ (Track 21, 24:20)。

byed po de 「かの創造主」 世界を創造した神ブラフマンのことである ('Bab steps 120.10)。

ཐག་རིང་གནས་པའི་དགྲ་བོ་ནི།
 མཐུ་ཆེན་ཡིན་ཡང་འཇིག་པར་རུས།
 སྤྱིང་ལ་རྩ་མོ་ཅན་ལུགས་ན།
 ཐབས་གང་གིས་ནི་ཞི་བར་བཞུང།།

130a: གནས་པའི་ ཏུ; འདུལ་བའི་ Bkra.

130c: སྤྱིང་ལ་ ཏུ; སྤྱིང་པོ་ Thimphu.

(スグリーヴァ:)

「遠い場所にいる敵であれば
 いくら手強くても滅ぼすことは可能です。
 しかし、心の中に火（尖端を有するもの）が起こった時には
 いかなる手段をもって鎮めれば良いでしょうか。」(130)

rtse mo can 「火（尖端を有するもの）」 サンスクリットの śikhin に由来する表現。me 「火」を意味する詩的語彙である。スグリーヴァの心の中に起こった苦悩 (sdug bsngal) を「火」と表現している。ラーマナにとってラーヴァナは「遠くにいる敵」であり、それは滅ぼすことのできない相手ではないが、スグリーヴァの近くにいる敵であるバーリンは、ちょうど心の中に生じた苦悩の火と同じように、非常に手強い敵である (Track 22, 1:50; *Mun sel* 217.4ff.). スグリーヴァは自身がいかにバーリンに苦しめられているかを婉曲的に語ろうとしている。ここに用いられているのは縮約表現 (bsdus brjod, *samāsokti) の技法である (Track 22, 2:33)。

ཡང་སྐྱུ་དང་པོ་མང་བ་ཡི། །
 བྱང་འགྲོ་སྟོབས་ཆེན་འདི་གཞིས་བྱ། །
 ཕྱོགས་ལས་རྒྱལ་བ་གཉིས་པ་ནི། །
 བདག་གི་སོར་མེད་ཅོད་པ་ན་ནོ། །
 དེ་གཉིས་བསམ་པའི་རྒྱ་བོ་ནི། །
 འདྲེས་ཏེ་གཤོང་བྱ་དམའ་བར་ལྷུང་། །།

131a: དང་པོར་ ཏ; དང་པོའི་ Bkra.

131e: དེ་གཉིས་ ཏ; དགཉིས་ Thimphu.

131f: ལྷུང་ ཏ; ལྷུང་ Thimphu.

さらに続けて彼はこう言った。

(スグリーヴァ：)

「まず差し当たっては近くにいる

この手強い蛇（胸で進む者）を征伐しましょう。

第二の全面的勝利は

私の指先の宝冠であります。」

彼ら二人の思いという河は

合流して峡谷の下流へ流れて行く。(131)

phang ba yi 「近くにいる」 『新編蔵文字典』(*Dag yig gsar bsgrigs*)によると **phang ba** は「内部」「内側」(*rum, khong*)を意味する。トンドゥプギヤは「近い所にある〜」(*thag nye na yod*)という意味であると説明する (Track 22, 3:20)。

brang 'gro stobs chen 'di 「この手強い蛇（胸で進む者）」 バーリンのことを表す隠喩である (*Dgongs rgyan* 129.11f.)。非明示的隠喩の技法が使われている (Track 22, 4:10)。蛇の征伐というのは直接言及されないバーリン退治を暗示しているので、これを縮約表現 (*bsdus brjod, *samāsokti*) とみなすこともできる (Track 22, 4:22)。

phyogs las rgyal ba gnyis pa 「第二の全面的勝利」 バーリン征伐によって実現されるのが「第一の勝利」であり、その後でラーヴァナ征伐によって実現されるのが「第二の勝利」である (*'Bab stegs* 121.9ff.)。 **phyogs las rgyal ba** はサンスクリットの *digjaya* (the conquest of various countries in all directions) に相当する表現である。

bdag gi sor mo'i cod pan 「私の指先の宝冠」 勝利は既に自分の手の届く所にあるという意味である (*'Bab stegs* 121.10f.)。

gshong bu dma' bar lung 「峡谷の下流へ流れて行く」 シェルシュルワは、二人が団結することによって、恐るべき悪趣を実現する罪業という峡谷の下流地帯 (*mi bzad pa'i ngan 'gro sgrub pa'i sdig pa'i las kyi gshong bu dma' ba'i phyogs*) に落ちて行くことを暗示していると解釈する (*'Bab stegs* 121.11ff.)。トンドゥプギヤとカンブムも同様の理解を示す (Track 22, 5:20; *Dgongs rgyan* 129.14ff.)。トンドゥプギヤによれば「峡谷」という表現は、ここに言及されない「罪業」(*sdig pa'i las*) を暗示するものであり、非明示的隠喩である (Track 22, 6:30)。これから描写されるバーリン殺害やラーヴァナ殺害は「罪業」に他ならないので、このような解釈は十分に成立するであろう。ジャバは異教徒によって伝承されたこの物語を仏教的に解釈することに疑義を示す (*Mun sel* 218.5ff.) が、仏教のみならずバラモン思想においても殺生は等しく罪業とみなされるので、その批判は当たらないであろう。

[13] ラーマナ、バーリンを敗る

གཤིན་རྗེ་མཇུག་མ་འཛིན་དེ་གཉིས། །
 ལྷོ་འགྲོ་དག་བོ་གཞོམ་འདྲོད་བཞིན། །
 སུ་ཚུན་འཕྱུང་དེ་འཐབ་པ་ལས། །
 འཛིན་མའི་ལྷོ་བར་ངལ་བ་བྱིན། །

132a: གཤིན་རྗེ་ ཟ; གཤིན་རྗེའི་ Gser, Thimphu. མཇུག་ ཟ; འཇུག་ Thimphu.

132b: ལྷོ་འགྲོ་ ཟ; ལྷོས་འགྲོའི་ Thimphu.

132c: འཐབ་ ཟ; ཐབས་ Thimphu.

132d: ལྷོ་བར་ ཟ; ལྷོ་ལ་ Thimphu.

尾をつけたその二匹の死神は
 蛇（腹で進む者）が敵を負かそうとする時と同じように
 互いに巻き付きながら戦うことによって
 地面のはらわたに苦痛を与えた。(132)

lto 'gro 「蛇（腹で進む者）」 サンスクリットの *uraga* に由来する表現。 *dug sbrul* 「毒蛇」を意味する詩的語彙である（'Bab stegs 122.15）。

'dzin ma'i lto bar ngal ba byin 「地面のはらわたに苦痛を与えた」 スグリーヴァとバーリンが激しく戦闘し、足で常に地面を強く踏み続けている様子を表現している（'Bab stegs 122.18f.）。トンドゥプギャはここに転移（*ting nge 'dzin, *samādhi*）という修辞法の要素が見られると述べている（Track 22, 11:45）。

ནགས་ཚལ་ཕྱེང་བའི་ཚོགས་དག་ནི། །
 རུལ་གྱི་གོ་སྐབས་ཐོབ་པར་གྱུར། །
 ཀུན་གསལ་མཛེས་མ་འདར་ལྗན་མ། །
 རུལ་འཚུབ་ཡོལ་བའི་ཕག་ན་འཚེལ། །
 ལྷ་སུ་གཞོན་ལུ་འཛུམ་གླིང་མེས། །
 ཚོགས་པའི་དུད་ཚོགས་ཡིན་ཞེས་སེམས། །

133d: འཚེལ་ ཟ; འཚེ་ Thimphu.

133d: རུད་ ཟ; རུ་ Thimphu. ཡིན་ ཟ; མིན་ Thimphu.

列をなす森の集まりは
 塵まみれの状態になった。
 空（一切を照らすもの）という震える美女は
 立ち込める塵のカーテンの後ろに隠れた。
 若い天子達は世界を火で
 焼き払って出た煙に違いないと思った。(133)

nags tshal phreng ba'i tshogs dag ni... 「列をなす森の集まりは…」 青や緑の樹々に覆われた美しい森は、二匹の猿の激しい戦闘によって地面の塵で白く覆われた状態になった（'Bab stegs 122.19ff.）。

lha bu gzhon nu... 「若い天子達は…」 欲界および色界の若い天子達である（'Bab stegs 123.5）。詩的空想の技法が用いられている（Track 22, 17:03）。

ཞེ་སྤང་ཚ་བས་གདུང་བ་ཡི། །
 ལུས་ཀྱི་གངས་རི་ལས་འོངས་པ། །
 རྩལ་གྱི་འབབ་ཚུའི་གྲང་ཆེན་ཚོགས། །
 ལྷ་མཚོ་ཆེན་པོའི་གསོས་སུ་གྱུར། །

134a: གདུང་ཟ; གདུངས་ Thimphu.

怒りという熱気に苦しめられた
 身体という雪山から流れて来た
 汗という水の流れよりなる大河群は
 大海を豊穰にする滋養となった。(134)

zhe sdang tsha bas 「怒りという熱気に」 スグリーヴァとバーリンが互いに向け合っている怒りを「熱気」という隠喩で表現している（'Bab stegs 123.7）。

དག་གཉེན་མགལ་མེདི་འཁོར་ལོ་ནི། །
 ལྷུར་བ་ལྷུར་བར་འཁོར་བ་ན། །
 ས་ཡི་བདག་པོའི་མིག་ལ་ནི། །
 ཨ་ལོང་བཞིན་དུ་དེ་སྤང་གྱུར། །

135b: ལྷུར་བ་ལྷུར་བར་ཟ; ལྷུར་བར་ལྷུར་བར་ Thimphu.

135c: བདག་པོའི་ཟ; བདག་པོ་ Gser.

135d: བཞིན་ཟ; ཉིད་ Thimphu.

敵と味方という旋回する火の輪が
 きわめて迅速に回転すると
 大地の支配者（ラーマナ）の眼には
 それがまるでリングのように見えた。(135)

dgra gnyen 「敵と味方」 敵とはバーリンのことであり、味方とはスグリーヴァのことである（'Bab stegs 124.3）。

a long bzhin du de snang gyur 「それがまるでリングのように見えた」 ラーマナはバーリンに向けて矢を放つ準備をしていたが、二匹の猿が絡まり合って丸い輪のような状態になっていたため、どこに向けて矢を放てば良いか分からなくなった（'Bab stegs 124.5f.; Dgongs rgyan 132.8f.）。

ལྷུར་འགོ་ཀྱི་རྩ་སྤར་ཡི། །
 ཀླང་བའི་འདེགས་འཛོག་སུ་ཡིས་བགང་། །
 གདོང་བཞིའི་སྤང་གི་ཚད་ཀྱིས་ནི། །
 མཉམ་པར་བྱས་པའི་ཤུགས་འཆང་དེས། །
 ཤེག་དོབ་སྤོར་བའི་ལག་པ་བཞིན། །
 ལྷ་བཅས་པན་ཚུན་གྲེས་པར་གྱུར། །

136a: ཀྱི་རྩ་ Mkha', Thimphu; ཀྱི་རྩ་ Zhal, Gser, Bkra. སྤར་ཟ; ས་རི་ Thimphu.

136c: བཞིའི་ཟ; བཞི་ Bkra.

素早く駈けるカモシカ（黒で一杯のもの）の

脚の上げ下げの回数を誰が数えることができようか。
 ブラフマン神（四頭者）の秤の目盛りで
 平等にされた力を持つ彼らは
 シンバルを叩いた両手のように
 音を発しながら分離した。(136)

kr̥ṣṇa s̄a ra 「カモシカ（黒で一杯のもの）」 *kr̥ṣṇasāra* は「黒で一杯のもの」（*kr̥ṣṇena s̄arah*）を意味し、まだら模様 (*śabala*) のカモシカのことを指している。

gdong bzhi'i srang gi tshad kyis ni 「ブラフマン神（四頭者）の秤の目盛りで」 *gdong bzhi* はサンスクリットの *caturmukha* に由来する表現であり、*tshangs pa* 「ブラフマン神」を意味する詩的語彙である。ブラフマン神の秤は寸分の狂いもなく、力を均等に分けることができる（'Bab stegs 124.10ff.）。

sgra bcas phan tshun gyes par gyur 「音を発しながら分離した」 力に優劣の差がない二匹の猿は一日中戦っても勝敗がつかないので、日が暮れると一旦離れて休戦することにした（'Bab stegs 124.12ff.）。

ཉི་གཞོན་ཤར་གྱི་གྲོང་ལས་ནི།
 ལྷན་མའི་སྤྲོད་དུ་ལྷགས་པ་གང་།
 མཐོན་མཐོང་མཁའ་ཡི་གང་བཟང་གི།
 བ་གས་རྩེ་ལ་འཛེགས་པ་དེ།
 གཡུལ་ངོའི་འཇིགས་པར་བྱེད་པ་ཐོན་པའི་སྤྲོད།
 ཕྱི་བཞིན་གཟིགས་པ་དང་བཅས་རྟ་བདུན་ལ།
 བཞོན་ཏེ་བློས་པས་རྒྱབ་གྱི་རི་བོའི་སྤོང་།
 སྤོབས་མ་ཐག་ཏུ་སྤྲོད་པའི་འོབས་ལ་བརྟེན།

137b: གང་ ཟ; དང་ Mkha'.

137g: བཞོན་ ཟ; ཞོན་ Thimphu.

137h: སྤོབས་ ཟ; སྤོབ་ Zhal, Thimphu.

太陽の若者も東の街から
 見物しにやって来たのだが
 蒼空というお屋敷の
 バルコニーの頂きに昇った彼は
 戦場の恐しさに怯える様子をあらわにした眼で
 後ろを振り返りながら七頭の馬に
 乗って逃亡した末に西の山の上に
 至るや否や暗闇という穴の中に落ち着くのであった。(137)

nyi gzhon... 「太陽の若者も…」 この詩節では生物が持つ様々な属性を無生物である太陽に付託することで、激しい戦闘の一日を描写している。転移 (*ting nge 'dzin*, **samādhi*) の技法が効果的に用いられている (Track 23, 4:15)。

rta bdun la bzhon te 「七頭の馬に乗って」 太陽は七つの曜日を象徴する七頭の馬に牽引された馬車に乗っているとされる。サンスクリットで *saptāśva* 「七頭の馬を持つ者」は太陽の別名である。チベット語では *rta bdun pa* 「七頭の馬を持つ者」が *nyi ma* 「太陽」を意味する。

སྤོབས་མ་ཐག་ཏུ་སྤྲོད་པའི་འོབས་ལ་བརྟེན།

ས་བདག་སྤྱིང་ལ་འདེབས་པ་བཞིན་དུ་འོངས། །
 ཀླ་ཡེ་ཀམ་མཁའ་ལྗིང་གི་མགོན་པའི་སྤྱག །
 རྩ་ཚའི་རོ་འཛོན་མཛེས་པ་འཛོན་འདི་མཚར། །
 ལྷ་ཡི་ལྷ་བོ་རལ་བའི་ཡུར་བ་ལས། །
 ཉུན་དུ་བཤོད་འདི་དུག་ཅན་སྐལ་བས་ཐོབ། །
 དེ་ཡི་ངན་སྐྱུ་གོམ་པས་ས་སྤྱོད་ཀྱི། །
 སྤྱིང་གི་ཐེམ་སྐས་ཡང་ཡང་འཛོགས་པ་ཉིད། །

138a: ཡིས་ ཟ; ཡི་ Thimphu.

138e: ཡུར་བ་ ཟ; རི་བོ་ Thimphu.

138f: བཤོད་ ཟ; འགོ་ Gser. ཅན་ ཟ; ཚེན་ Thimphu.

138g: ཡི་ ཟ; ཡིས་ Mkha'. གོམ་ ཟ; གོམས་ Thimphu.

猿の王（スグリーヴァ）は嘆息という鉄の鉤で
大地の支配者（ラーマナ）の心を打つようにして来た。

（スグリーヴァ：）

「やれやれ、ガルダ鳥の喉のくぼみが
見栄えの良い鸚鵡の舌（味を捉えるもの）を持っているとは驚きだ。
ガンジス河（神の河）が長髪という水路を通して
上に昇って行くのはサガラ王の息子達の宿命のせいだ。」
彼の非難の言葉という歩みは王の
心という階段をどこまでも登るばかりであった。（138）

shugs ring lcags kyu 「嘆息という鉄の鉤」 スグリーヴァは戦いに疲れていたもので、嘆息を漏らしている。彼は約束通りに加勢してくれないラーマナに抗議するために、彼のところにやって来た（'Bab stegs 126.5ff.）。

ne tso'i ro 'dzin 「鸚鵡の舌（味を捉えるもの）」 「鸚鵡」とはでまかせの無責任な発言をする者のことである。ラーマナがスグリーヴァの手助けをすると約束したにも関わらず、二匹の猿の戦闘のあまりの激しさに恐れをなし、にわかになら約束を果たすことができないのを見て、スグリーヴァは非難している（'Bab stegs 126.5ff.）。

lha yi chu bo 「ガンジス河（神の河）」 サンスクリットの suranimganā に由来する表現。ガンジス河のことである。

dug can skal bas thob 「サガラ王の息子達の宿命のせいだ」 シヴァ神の長髪の中に閉じ込められたガンジス河は、本来ならば人間世界を通して下界の地獄に降って行き、サガラ王の息子達（Dug can pa, *Sāgara）の罪業を清めてくれるはずであるが、それが逆に上に昇ってしまうということは、かの罪深い王子達の罪業はよほど根深いものであったに違いないということになる。だが、言うまでもなく実際にはガンジス河が上昇することはあり得ない。ここでスグリーヴァは、ラーマナが約束に反して戦闘に加わらないというのは、ガンジス河が上に昇って行くことに等しくあり得ないということを言おうとしている。彼はこのような痛烈な皮肉を述べることで、一向に戦闘に加わる決心がつかないラーマナを非難している（'Bab stegs 126.10ff.）。ここでは縮約表現の技法が用いられている（Track 23, 10:58）。

དེ་ནི་བཅས་པ་ཉམས་པས་སྤྱིང་ས་ལྷན་ཞིང་། །
 སྐྱུ་མཁའ་ལེ་འོར་ལུར་ཏེ་ངོ་ཚ་ནས། །
 ས་ལ་ཚེས་ཚེས་རྟོག་ཅིང་ལྷ་བ་ཡི། །

བཀའ་ཉན་བྱ་བ་བཞིན་གདོང་བ་དུད་པར་གྱུར། །

139b: མཁྲིན་ ཟ; མཁྲིན་ Thimphu.

139c: ལྟ་ ཟ; བལྟ་ Thimphu. ཡི་ ཟ; ཡིས་ Thimphu.

139d: ཉན་ ཟ; མཉན་ Thimphu.

彼（ラーマナ）は約束を果たせないので羞恥心を抱き
かつての努力家が怠け者になったのを恥らい
思案を重ねながらうつむいて
命令を聞く召使いのように顔を下に傾けた。(139)

bka' nyan bran 「命令を聞く召使い」 **bka' nyan** 「命令を聞く者」はサンスクリットの *ājñākara* に由来する表現であり、**bran** 「召使い」を意味する。ここでは詩的語彙 **bka' nyan** とそれと同じ意味を持つ **bran** という単語が重ねて用いられている。

གྲོང་འཛོམས་དམར་མེར་སྤུ་ཕྱེང་ནི། །
རི་མོའི་གོས་ལ་ཆགས་པ་གང་། །
མཁྲིན་བཟང་མཁྲིན་པའི་གྲོ་འགྱུར་གྱིས། །
སྤོང་གོས་ལྗར་ལེན་གྱུ་དབྱངས་བྱས། །

140a: འཛོམས་ ཟ; འཛོམ་ Thimphu. ཕྱེང་ ཟ; འཕྱེང་ Thimphu.

140b: རི་མོའི་ ཟ; རི་མོས་ Thimphu.

140c: གྱིས་ ཟ; གྱི་ Thimphu.

140d: སྤོང་ ཟ; སྤོང་ Gser; སྤོངས་ Thimphu.

橙色の毛が連なる盗賊（都城の破壊者）であり
絵に描かれた衣に固執してしまう
スグリーヴァは喉の声の調べで
加勢を催促する唄を歌った。(140)

grong 'joms 「盗賊（都城の破壊者）」 サンスクリットの *purāṃdara* に由来する表現であり、「インドラ」、「シヴァ」、「ヴィシュヌ」、「盗賊」など様々な意味を持つ詩的語彙である。シェルシュルワはこれを「盗賊」(*rkun po*)の意味で理解する。スグリーヴァは盗賊すなわち猿の集団の王者たることに喜びを見出しているのも、何としてでも敵対する猿バーリンを打ち破ろうとしてラーマナに加勢を求めている（*'Bab stegs* 128.8f.）。一方、カンブムは **grong 'joms** を「孔雀」(*rma bya*)の意味で理解する。ちょうど孔雀が赤や黄色の模様がついた自分の羽に固執するように、スグリーヴァは猿の王者としての地位に固執している¹⁶ (*Dgongs rgyan* 136.18ff.)。しかし、なぜ「都城の破壊者」が「孔雀」の意味になり得るのかは不明である。カンブムはその点について説明を与えていない。さらにまた、トンドゥップギヤやジャバのように、**grong 'joms** を「猿」(*spre'u*)の意味に取る解釈もある (*Track 23, 17:00; Mun sel* 230.2; cf. *Dgongs rgyan* 138.14)。

ri mo'i gos la chags pa 「絵に描かれた衣に固執してしまう」 難解な表現である。シェルシュルワの推測によれば、無意味な物事に執着するという意味である（*'Bab stegs* 128.10ff.）。スグリー

¹⁶カンブムが与える説明によると、かつてスグリーヴァにはガウリーという妻がいた。しかし、ガウリーはスグリーヴァを捨ててバーリンのもとに行ってしまった。バーリンとガウリーは結託してスグリーヴァを放逐し、王位の座を奪った。スグリーヴァがバーリンと戦っているのは、王座を奪還するためである (*Dgongs rgyan* 137.10ff.)。

ヴァが猿の王者という地位に固執していることをこのように表現しているのであろう。トンドゥプギヤとカンブムによれば、これは縮約表現である (Track 23, 18:40; *Dgongs rgyan* 137.17ff.)。また、ジャバはこれを王者の衣 (rgyal po'i na bza') への固執を表現したものとして理解する (*Mun sel* 230.9f.)。

mgrin bzang mgrin pa'i... 「スグリーヴァは喉の…」 mgrin という同一の音が反復される。同音節反復 (zung ldan, *yamaka) の技法である (*Dgongs rgyan* 138.1f.)。

ཕྱགས་ཀྱི་མགོན་གང་དབུང་བ་ལ།
མཁའ་ཡི་མེ་ལོང་རྟགས་འཛིན་པ།
དེ་ཚོ་གོགས་ཀྱི་སྤོ་ལྗོན་ཀྱིས།
ཉིན་མེད་མགོན་པོ་འབང་ལེར་བསྐྱེ།

141a: གང་སྤ; བདག་ Thimphu.

(スグリーヴァ:)

「諸方の守護者よ、腕の所に
月（空の鏡）の目印を持つ者がいたら
その時、友よ、君の矢（羽を有するもの）で
太陽（昼の守護者）であるバーリンを射止めてくれ。」 (141)

phyogs kyi mgon 「諸方の守護者よ」 ラーマナのことを指している。呼びかけ表現である (*'Bab stegs* 128.15f.; Track 23, 20:00)。ジャバは phyogs kyi mgon 「諸方の守護者」がスグリーヴァのことを指していると解釈し、これを呼びかけ表現ではなく、動詞'dzin 「持つ」の主語とみなしている (*Mun sel* 230.14ff.)。

mkha' yi me long rtags 「月（空の鏡）の目印」 腕に月の目印を付けているのはスグリーヴァである。翌日、二匹の猿が激しい戦いを繰り広げる時、ラーマナが月の目印を見つけることができれば、その目印を付けていない猿こそが敵のバーリンであると認識できる。それゆえ、月の目印を頼りにバーリンを識別し、矢で射止めてくれと、スグリーヴァはラーマナに向かって頼んでいる (*'Bab stegs* 128.16ff.)。なお、カンブムが提示する別解釈によれば、「月」はスグリーヴァの腕に付けられた鏡を表す隠喩である (*Dgongs rgyan* 138.4f.)。

sgro ldan 「矢（羽を有するもの）」 サンスクリットの patrin に由来する表現。mda' 「矢」を意味する詩的語彙である。

nyin mo'i mgon po 「太陽（昼の守護者）」 サンスクリットの dinanātha に由来する表現。nyi ma 「太陽」を意味する詩的語彙である。バーリンを「太陽」という隠喩で表現することで、スグリーヴァの腕にある月の印との対比を明確にしている (*'Bab stegs* 128.19ff.)。なお、カンブムの別解釈によれば、「太陽」はバーリンの腕に付けられた鏡を表す隠喩であり、それがスグリーヴァの腕に付けられた鏡を表す隠喩「月」と対比されている (*Dgongs rgyan* 138.5ff.)。しかし、その場合、スグリーヴァの腕にある鏡との違いをラーマナがどのようにして識別できるのか、という疑問が起こる。

སྤྱི་ལོ་མགོན་གཉིས་འབབ་མེད་སྤ།
ཉི་མུང་ལག་པ་འཕུད་པ་ན།
སྤོ་བས་ལྗོན་སྤྱི་དབུང་པོ་ལོས།
གཞུ་རྒྱལ་གནས་ལྗོགས་ཀྱི་པར་གྱུར།

142b: ལག་སྤ; ལབ་ Thimphu.

142c: ལྷ་ཏཱི་ Zhal, Gser; མི་ཏཱི་ Mkha', Bkra; ལྷ་ཏཱི་ Thimphu.

二匹の猿の王が戦闘を行なうため
憎悪によって手と手を絡み合わせた時
武力を具えるシーターの主人は
稲妻という弓の王者を炸裂させた。(142)

zhe sdang lag pa 'khyud pa na 「憎悪によって手と手を絡み合わせた時」 カンプムの zhe sdang drag pos lag pa 'khyud de 'thab pa na 「激しい憎悪によって手と手を絡み合わせて戦った時」という解釈に従った (*Dgongs rgyan* 139.6f.)。シェルシュルワは zhe sdang lag pa を並列複合語とみなし、sems kyi zhe sdang dang lus kyi lag pa gnyis 「精神的なものである憎悪と身体的なものである両手」と解釈している (*'Bab stegs* 129.9)。

gzhu rgyal gnam lcags 「稲妻という弓の王者」 「稲妻」はラーマナが手にする最高の弓（弓の王者）を表す隠喩であると理解した。シェルシュルワは「稲妻」を矢の隠喩として理解し、gzhu'i rgyal po dang sbyar ba'i gnam lcags kyi ngar dang ldan pa'i mda' bo che 「弓の王者と合わさった稲妻の力〔と同じ力〕を具える強力な矢」と解釈する (*'Bab stegs* 129.12)。

ལྷ་ཏཱི་འདབ་མ་མོ་ལྷ་ལྷི།
མཆེ་བ་བསྐྱེན་པས་ལྷ་མོ་བའི།
རོ་ནི་དགའ་མོ་ཞེས་པ་ཡི།
འབའ་ལེའི་དགའ་མས་གངས་རིར་ཁྱེར།

143a: ལྷི་ ས; ལྷི་ Bkra.

143b: མཆེ་བ་ ས; མཆེ་བས་ Mkha'. ལྷ་མོ་བའི་ ས; མོ་བའི་ Thimphu.

143d: འབའ་ ས; འབབ་ Thimphu.

ウトパラ蓮華の花びらが象（牙を持つ者）の
牙で突き刺されるようにして生きた体を失った
亡骸はガウリーという名の
バーリンの妻によって雪山に運ばれた。(143)

ut pal 'dab ma... 「ウトパラ蓮華の花びらが…」 バーリンの身体がラーマナの矢で射られたことを表現した直喩である。シェルシュルワは dper na...dang mtshungs par 「例えば…と同じように」という言葉を補って解釈している (*'Bab stegs* 129.13ff.)。「ウトパラ蓮華の花びら」という比喩はバーリンの身体に相当し、「象」という比喩はラーマナが放った矢に相当する。

lus bor ba'i 「生きた体を失った」 シェルシュルワの解釈によれば、「体」というのは文字通りの意味を表すのではなく、意識 (rnam shes) を表す隠喩である (*'Bab stegs* 130.5)。確かに「体を失った亡骸」では意味をなさない。ここでの lus は「生命」や「活動力」の意味であろうか。ジャバは rnam shes kysis bor ba'i lus po ste ro 「意識を失った体、すなわち亡骸」と読み替えて説明を与えている (*Mun sel* 233.15)。

dkar mo 「ガウリー」 ガウリー (*Gaurī) というサンスクリットの想定が正しいかどうかは定かでない。他にシュクラ (*Śuklā) やサラスヴァティー (*Sarasvatī) などの名前も想定され得る。ヴァールミーキ版『ラーマヤナ』では、バーリンの妻の名はターラー (Tārā) である。

མིག་ཡངས་མ་དེའི་མིག་ལས་ནི།
ལྷ་ཆེན་མིག་ལྷི་ལྷ་མོ་འཕྱུངས།

དེ་ཡི་ཟེགས་མ་འཕོར་བ་དེ། །
 ལྷ་སྐར་ཕྱེང་སྡེ་མཁའ་ལ་རྒྱ། །
 མགྲིན་པ་བཟང་དང་དཀར་མོ་གཉིས། །
 དགའ་དང་མྱ་ངན་ལྷན་ཅིག་སྡེ། །

144a: ལས་ ཟ; མ་ Thimphu.

144d: ཕྱེང་སྡེ་ ཟ; འཕོར་ལྷན་ Thimphu.

その切れ長の眼を持つ娘の眼から
 広大に広がる涙の海が生まれた。
 その雫がしぶきを上げるとそれは
 星座群となって空を駆け巡った。
 スグリーヴァが歓喜するかたわらで
 ガウリーは悲しみに沈んだ。(144)

mig yangs ma de'i mig las ni 「その切れ長の眼を持つ娘の眼から」 mig という同音節の反復がなされる。同様に第二詩脚では rgya、第三詩脚では de、第四詩脚では rgyu という音節が反復される (*Dgongs rgyan* 140.14f.)。

rgyu skar phreng ste 「星座群となって」 世間の人々が「星座群」と呼んでいるものは、空に飛び散ったバーリンの妻の涙である (*'Bab stegs* 130.9f.; *Dgongs rgyan* 140.8ff.)。

[14] ハヌマンタ、シーターを探し出す

གཞུ་འཇོན་རྗེ་ཤོས་རང་གི་ནི། །
 མཆིས་བྲང་སྟོར་བའི་གཏམ་དེ་བསྟུང། །
 དབང་ཕྱག་སྲས་ཤོ་ནགས་ཀྱི་རྗེ། །
 ལྷ་ཕྱེད་གསུམ་པ་ཡབ་ཀྱི་རིགས། །
 ཏཱ་ཏུ་མན་པ་དྲེགས་པ་ཅན། །
 མགྲིན་བཟང་བུན་ཡིན་དེས་དེ་ཤོས། །

145d: ཏཱ་ཏུ་མན་པ་ ཟ; ལྷ་ཕྱེད་མ་དེ་ Thimphu.

145e: དྲེགས་པ་ ཟ; དྲེགས་ལྷན་ Bkra.

145f: ཤོས་ ཟ; ཤོས་ Thimphu.

弓取り達の主（ラーマナ）は自分の
 妻が失われた物語を語った。
 自在天（シヴァ）の子息で森の主であり
 三つの眼を持つ父と同族の
 ハヌマンタという名の自尊心に満ちあふれる
 スグリーヴァの家臣である彼がそれを聞いた。(145)

ha nu man tha 「ハヌマンタ」 ハヌマット (Hanumat) のことである。本書ではハヌマンタ (Ha nu man tha) という名称で呼ばれる。

des de thos 「彼がそれを聞いた」 諸註釈は「彼がその話を聞いて探索した結果、シーターがランカー島の都城にいることを知った」 (*des gtam de thos nas brtag pas sī tā lang ka'i grong khyer du yod*

par shes so) と説明する（'Bab stegs 131.12f.; Dgongs rgyan 141.15f.）。次の詩節ではハヌマンタがランカー島（「鬼神の国」）に行こうとする場面が描写されるので、本詩節に記されていない物語の内容をこのように補って理解しなければならない。

གཟུང་ལྷ་འདྲ་བའོད་འདོད་པས། །
 མཚོངས་པ་ཚེན་པོ་གཅིག་བསྐྱོད་དེ། །
 རྩལ་ཚེན་རྒྱང་ཡབ་འཕུར་ལྗིང་གིས། །
 རྩི་བཞེན་བདག་པོའི་གོང་ཁྱེད་སྤྲོས་སུ། །
 མ་ནི་རྒྱང་ལྷ་འདྲི་རིགས་ཡིན་ཏེ། །
 རྒྱང་གི་བདག་པོས་བཟུང་བ་དང་། །
 བཅའ་བ་ལྷག་པར་བཅས་པས་མཚོད། །

146b: མཚོངས་པ་ Σ; མཚོང་བ་ Bkra.

146c: རྒྱང་ཡབ་ Σ; རྒྱང་ནག་ Thimphu.

146d: གོང་ཁྱེད་སྤྲོས་སུ Σ; རྩལ་ལྷ་འདྲི་ Thimphu.

146e: བདག་པོས་ Σ; བདག་པོའི་ Thimphu.

146f: བཅས་ Σ; གཅེས་ Thimphu.

鬼神の国に行くことにしようとして
 大きく一飛びに跳ね上がると
 ガルダ鳥（強い推進力を持つ者）の扇のような跳躍力のために
 風神（香りの乗物の自在者）の都城に着いた。
 彼の母は風神の一族であったので
 風の自在者は豪勢な食べ物や
 飲み物を出して饗応した。(146)

rtsal chen rlung yab 「ガルダ鳥（強い推進力を持つ者）の扇」 rtsal chen 「強い推進力を持つ者」はサンスクリットの mahāvīkrama に相当する表現。シェルシュルワによれば、ガルダ鳥のことを表している。「扇」はガルダ鳥の翼を表す隠喩である（'Bab stegs 132.8）。

rlung gi bdag pos 「風の自在者は」 ハヌマンタの母方のおじは、訪問者が自分の甥であることを知って手厚くもてなした（'Bab stegs 132.10ff.）。

སྤྲོད་ཡང་ཕྱི་རྗེས་གོམ་པ་ནི། །
 ལྷ་གཏེར་ཕྱི་ཕྱིར་ལོག་པ་བཞིན། །
 དོར་ཏེ་མགོན་བཅུའི་སྤྲོད་མའི་ཚལ། །
 སྤྲོད་པོའི་བཅོན་ཁང་ར་བར་ཕྱིན། །
 རྩལ་ཚེན་པོས་གཏུབ་ཀྱི། །
 ལྷགས་ལས་དེ་ཡི་པོ་ཉར་ཤེས། །

147c: ཏེ་ Σ; དོ་ Thimphu. མའི་ Σ; མོས་ Mkha', Thimphu, Bkra.

147d: སྤྲོད་པོའི་ Σ; སྤྲོད་པོའི་ Thimphu, Bkra.

それから後ろに引き戻す一步を
 まるで海（水の蔵）の引き潮のように

投じると彼はダシャグリーヴァの庭園の
シーターの牢獄の囲いに辿り着いた。
ラーマナの指輪を確かな証拠として
彼が遣わした使者であることを知った。(147)

rā ma na yi sor gdub 「ラーマナの指輪」 ハヌマンタは自身がラーマナによって派遣された使者であることを証明するために、ラーマナの持ち物である指輪をシーターに見せた。その後、ハヌマンタと一緒に逃げることをシーターに提案したが、彼女は長きにわたって牢獄に入っていた自分をすぐに救出してくれなかったことに対する不満や、ラーマナが武力で解放してくれないことに対する嫌悪感を持っていたので、逃亡したいという気持ちにはならなかった（'Bab stegs 133.7ff.）。

རལ་ཁུར་ཅན་སྐྱུ་སྐྱུ་ལ་བ་སྐྱུ་ལོ་ལ་ལ་བ་ཀྱི་གཞུང་བཟང་རྗེས་སུ་ལྷགས་པ་སྦྱེད་ཅེད་མའི། །
ཇི་ཏུ་བྱོ་སྐྱུ་ཏུ་འབྱུང་དེས་སྐྱུ་མའི་ཡིད་ལ་རིང་ནས་གནས་བཅས་དྲི་མའི་རྒྱུ། །
འབྱུང་པའི་གཞུང་སྐྱུ་བཅོམ་ཁང་མ་མ་དེ་ཡིད་རབ་བརྒྱས་སེམས་ཀྱི་རྩོག་པའི་ཚོགས་དེ་ཡིད་འོང་དང་། །
ཕྱད་པ་རྗེད་དཀའ་ལྷགས་ཀྱིས་ཚོན་པའི་ལག་ལྷན་གཞེན་རུས་ང་གི་དགའ་མའི་བདེ་བ་བཞིན། །

148a: ཅན་ Thimphu; སྐྱུ་ ས. མའི་ ས; པའི་ Thimphu.

148c: འབྱུང་ Mkha', Bkra; འབྱུང་ Zhal, Gser; འབྱུངས་ Thimphu. ཡིད་ Thimphu; ཡིས་ ས.

148d: ཀྱིས་ ས; ཀྱི་ Zhal. དགའ་མའི་ ས; དགའ་བའི་ Thimphu.

シヴァ（長髪という重荷を持つ者）の子であり、長髪の光沢によって、父（シヴァ）の代と同じ良き伝統が生きていることを知らしめる女である
ガンガー（ジャフヌの娘）が常に渦巻く彼（ハヌマンタ）は、ラーマの心に長く留まっていたけがれた流れの
洗浄を邪魔するその女囚人（シーター）の意識にある侮蔑の感情という汚れの塊のせいで、愛する二人の
再会を困難にした。鉄の鉤で押さえつけられた象（手を持つ者）の若者が自分の恋人との愛の喜びを困難とするように。(148)

ral khur can sras 「シヴァ（長髪という重荷を持つ者）の子」 四つの刊本は全て *ral khur spyān sras* という読みを与えるが、ティンプーで出版された手書き写本が与える *ral khur can* 「長髪という重荷を持つ者」という読みに従う。シェルシュルワが参照した多くの伝本には *ral khur spyān sras* と書かれていたようであるが、彼自身は *ral khur can sras* という読みが正しいのではないかと疑っている（'Bab stegs 134.19f.）。ハヌマットは長髪という重荷を持つシヴァの息子であり、自身も父と同じような長髪を持つ。『チベット歴代文学作品選《金塊》』の編者は *spyān sras* を「三つの眼を持つ大自在天の子息」（*spyān gsum dang ldan pa'i lha chen gyi rigs sras*）と解釈する（n. 52）。

gzhung bzang 「良き伝統」 かつてシヴァはガンガー（ガンジス河）を自身の長髪の中にとどめておいたという伝説がある。父の代に築かれたガンガーとの共存関係（*lhan cig 'grogs pa*）という伝統をハヌマンタも継承し、自身の長髪の中にガンガーを住まわせている（'Bab stegs 134.8f.）。

skyed byed ma'i... 「知らしめる女である…」 *skyed byed* は文字通りには「生み出す」を意味するが、ここでは父の代と同じ良き伝統が息子の代でも続いているのだという理解を生み出すこと、すなわち知らしめることを意味すると思われる。ジャバの註釈においても *skyed byed* は「表に出して知らしめること」（*phyi la mngon par byed pa*）であると説明される（*Mun sel* 242.7）。

dza hu'i bu mo rtag tu 'khyil des 「ガンガー（ジャフヌの娘）が常に渦巻く彼（ハヌマンタ）」 ハヌマンタの長髪が光沢を帯びて輝いているのは、中にガンガー（ガンジス河）を住まわせているからである。その長髪の光沢を証拠として、ハヌマンタも父シヴァと同じくガンガーと共存関

係にあることが知られる。dza hu'i bu mo はサンスクリットの jahnukanyā に相当する表現であり、ガンガーを意味する詩的語彙である。

dri ma'i rgyun 「けがれた流れ」 ラーマナの心をけがすものとは、自身の愛妻との別離によってもたらされた苦しみ (rang gi dga' ma dang bral ba'i sdug bsngal) である ('Bab stegs 134.12f.)。「けがれた流れの洗浄」というのは縮約表現である (Track 24, 26: 20)。

yid rab brnyas sems 「意識にある侮蔑の感情」 四つの刊本は全て yis rab brnyas sems という読みを与えるが、ティンプーで出版された手書き写本が与える yid rab brnyas sems という読みに従う。シーターはラーマナが自分をすぐに救出してくれなかったことや、彼自身の武力で牢獄から解放してくれないことを不満に思い、ラーマナに対して侮蔑の感情を抱いている ('Bab stegs 133.7ff.)。

དོན་མང་བྱ་བས་གོམ་པའི་འགྲོས། །
འཕྱུར་བ་འདི་དག་ལྷ་ར་ཏའི། །
འཁར་བ་ལ་བརྟེན་གྲོག་མཁར་གྱི། །
རྗེས་འབྲང་ལོང་བ་བརྒྱད་པ་ཉིད། །

149a: བྱ་བ་; བྱས་ Thimphu. འགྲོས་ ཟ; གོམ་ Thimphu.

149c: འཁར་ ཟ; མཁར་ Thimphu.

あれこれ骨折りをしたあげく筋道から
逸れてしまうこうした話はバーラタの
杖に寄りかかるヴァールミーキに
追隨する盲人達が次々と続いた結果に他ならない。(149)

bha ra ta'i 'khar ba 「バーラタの杖」 叙事詩『マハーバーラタ』の言葉 (gzhung tshig) を「杖」という隠喩で表現している ('Bab stegs 135.11)。

rjes 'brang long ba brgyud pa nyid 「追隨する盲人達が次々と連鎖した結果に他ならない」 この詩節はインド神話に対する皮肉を述べたものである ('Bab stegs 135.14)。

དམོད་པའི་ཆང་གིས་ལྷོས་པ་ཡི། །
བ་ཤིང་ནི་ཐིག་ལ་ཅན། །
དུས་ལྷོར་རལ་གྱི་འཕུལ་འཁོར་གྱིས། །
རང་གི་ལྷོགས་འདི་ཉམས་པ་ཐོབ། །

150a: ཡི་ ཟ; ཡིས་ Thimphu.

150c: འཕུལ་ ཟ; འཕུལ་ Thimphu. ལྷོས་ Mkha', Thimphu; ལྷོ་ Zhal, Gser, Bkra.

150d: ཉམས་ ཟ; ཉམ་ Gser.

(シーター：)

「呪いの酒に酔ったヴァシシュタという
象（斑点模様を持つ者）は
上昇宮の呪いという刃物の装置によって
味方の側に打撃を与えてしまったのね。」(150)

ba shiShTha 「ヴァシシュタ」 ヴァシシュタ (Vasiṣṭha / Vasiṣṭha) は『リグ・ヴェーダ』の讃歌の作者と伝えられる聖仙達の一人。チベット語で Gnas 'jog と訳されることもある。シェルシュル

ワによると『大孔雀陀羅尼』(*Rma bya chen mo'i gzungs*) という文献の中に、呪術に長けた八大聖仙の一人としてヴァシシュタの名が現れる ('*Bab stegs* 136.20ff.)。

thig le can 「象 (斑点模様を持つ者)」 サンスクリットの *padmin* に由来する表現。 *glang po* 「象」を意味する詩的語彙である。ここで「象」はヴァシシュタを表す隠喩である ('*Bab stegs* 136.13f.)。

dus sbyor 「上昇宮の呪い」 上昇宮 (*dus sbyor*, **lagna*) は占星術の用語。物語冒頭でウマーがラーヴァナにかけた呪いを表す隠喩である ('*Bab stegs* 136.7ff.)。

ral gri'i 'phrul 'khor gyis... 「刃物の装置によって…」 酒を飲ませて凶暴化した象の鼻に刃物の装置 (*ral gri'i 'phrul 'khor*) を取り付けて野放しにすると、上手くいけば敵を滅ぼすことのできるが、下手をすれば味方を破滅させることにもなりかねない。象が敵の方面に向かわず味方に打撃を与えてしまうように、「ヴァシシュタの呪い」(ウマーの呪いを表す隠喩) はラーヴァナではなく、自分達の側に降り掛かってしまったようだとシーターは嘆いている ('*Bab stegs* 136.3ff.)。

སྒྲོ་ཚོགས་མདོག་ཅན་འདམ་གྱི་མངལ། །
 འཛིན་ཀྱང་རྩལ་དང་བྲལ་བ་དེས། །
 སྒྲོ་ལྷགས་དེ་སྒྲོས་སྒྲུར་སྒྲོས་པ། །
 ཚེན་པོ་སྐྱད་ཀྱང་ཚོམ་སྐྱོན་པ། །
 ཉམ་ཐག་འབྲེས་པའི་ངང་རྩལ་གྱི། །
 རྗེས་སུ་བསྐྱེགས་པ་གནས་མེད་དེ། །
 དཔའ་བོ་ཤི་བ་མཚོག་ཡིན་གྱི། །
 གཡུལ་ངོར་འབྲོས་པ་དེ་ལྷ་མིན། །

151d: པ་ ཏ; རྗེས་ Bkra.

羅刹 (多色者) の泥のような子宮を
 持ちながらも塵をかぶっていない彼女は
 そうした嘆きの言葉を語り、またこう述べた。

(シーター：)

「偉大な者はたとえ没落したとしても
 みじめな泥棒が逃亡するような仕方を
 真似することがあってはなりません。
 勇者にとって最高の榮譽は死を選ぶこと。
 戦場から逃げ出すなどもってのほかだわ。」 (151)

sna tshogs mdog can 「羅刹 (多色者)」 サンスクリットの *karbura* に由来する表現。 *srin po* 「羅刹」を意味する詩的語彙である。

'dam gyi mngal 'dzin kyang 「泥のような子宮を持ちながらも」 羅刹の娘であるシーターは、自らそれを望んでいないながらも、泥のようにけがれた子宮を有している ('*Bab stegs* 137.14)。

rdul dang bral ba 「塵をかぶっていない」 シーターには羅刹の種族が有する欠点が付着していなかった (*srin po'i skyon gyis ma gos pa*) という意味である (*Mun sel* 247.10)。

chom rkun pa nyam thag 'bros pa'i ngang tshul 「みじめな泥棒が逃亡するような仕方」 罰せられて牢獄に入れられた泥棒は、逃亡の機会が得られると、後先も考えずに脱獄してしまう。しかし、それは勇者のなすべき行動ではない。シーターが最も望んでいるのは、ラーマナが武力で自身を牢獄から解放してくれることであり、もしその望みが叶わないならば、臆病者となって逃亡するよりも牢獄で死ぬことを選びたいと彼女は考えている ('*Bab stegs* 138.4ff.)。

[15] ハヌマンタ、羅刹の軍勢に捕らえられる

བདེ་སྐྱེས་སྐྱེད་ཚལ་རྒྱང་འབྲུང་ཚོགས། །
 བླ་གས་ཀྱི་གར་མཁན་སྐྱེད་གི། །
 རོག་ལེའི་སྐྱེད་བས་གཟེར་གྱུར་པ། །
 རོ་ལྡན་རོས་བཟུང་འདམ་བུ་བཞིན། །

152a: བདེ་ Σ; བདེར་ Gser.

152b: སྐྱེད་ Σ; འབྲུང་ Thimphu.

152c: སྐྱེད་ Σ; འབྲུང་ Thimphu.

152d: རོ་ལྡན་ Σ; རོ་ལྡན་ Gser. འདམ་ Σ; འདམ་ Thimphu.

良く生育した庭園の樹々（足で飲む者）は
 森の踊り手の連なった体毛という
 ひとつながりの鋸で粉々にされた。
 象（牙を持つ者）の牙に掴まれた水草のように。(152)

bde skyes skyed tshal rkang 'thung tshogs 「良く生育した庭園の樹々（足で飲む者）」 ラーヴァナの宮殿の庭園に生育する樹々である。ハヌマンタが来るまでは、かつて誰にも踏み荒らされたことはなかった（'Bab steps 139.5f.）。

nags kyi gar mkhan 「森の踊り手」 猿の王者ハヌマンタのことを指す（'Bab steps 139.6f.）。ハヌマンタは羅刹達に対する敵対心（mtho 'tshams pa'i bsam pa）を抱いていたので、ラーヴァナの庭園を踏み荒らして破壊しようとした（'Bab steps 138.13f.）。

རྩ་དང་ཤིང་དང་གལ་བ་དང་། །
 འདམ་སྐྱེས་འཇིགས་པས་ཉེན་པ་རྣམས། །
 སྐྱེ་བོས་ལ་སྐྱུར་ནས་ནི། །
 སྐྱུའི་དབང་བོར་ཕྱག་འཚལ་བྱེད། །

153b: འདམ་ Σ; འཇིང་ Thimphu. ཉེན་ Σ; ཉེན་ Zhal, Gser.

草も木も小枝も蓮の花も
 恐怖心で押しつぶされた者達は
 頭を地面にくっつけて
 猿の王者に礼拝した。(153)

spyi bo sa la sbyar nas ni 「頭を地面にくっつけて」 ハヌマンタは庭園の草木や花々を引き抜き、上下を逆さにして、それぞれの頭頂部を地面に埋めるという悪戯をした（'Bab steps 139.9ff.）。トンドゥップギャはここで転移の技法が用いられていると理解する（Track 26, 2:17）。

གསོད་བདག་སྐྱེས་རྣམས་སྐྱུར་གསོད་བྱེད། །
 ཉེན་མོ་རྒྱ་བའི་སྐྱེན་པོ་ནི། །
 དབང་ཕྱག་མཇུག་མ་ཅན་དེ་ཡི། །
 ཇིས་འགྲོ་འགྲོ་བའི་གོ་སྐབས་སྐོགས། །

154a: རྣམས་ Σ; ཉེ་ Bkra.

154b: རྩི་ལྷོ་ལྷོ་ལྷོ་ Thimphu.

154c: མཐུག་ལྷོ་ལྷོ་ལྷོ་ Thimphu.

154d: རྩི་ལྷོ་ལྷོ་ལྷོ་ Thimphu.

羅刹（ニカシャーの子）達を
瞬時に殺す昼に活動する羅刹である
尾をつけたその自在天（ハヌマンタ）に
拮抗できる者はいなかった。(154)

gsod bdag skye 「羅刹（ニカシャーの子）」 サンスクリットの nikaṣātmaja に由来する表現。ニカシャー（Nikaṣā）はランカー島の羅刹達を産んだ母の名前。srin po 「羅刹」を意味する詩的語彙である。「ニカシャーの子」はラーヴァナを指す場合もあるが、ここでは複数表現 rnam 「～達」があるので、羅刹達を指していると考えられる。

dbang phyug mjug ma can de 「尾をつけたその自在天（ハヌマンタ）」 ハヌマンタは昼に活動し、羅刹は夜に活動する。両者の相違点は活動する時間帯のみであるので、ハヌマンタは「昼に活動する羅刹」である。また、ハヌマンタと自在天（シヴァ神）の相違点は尾をつけているか否かという点のみであることから、ハヌマンタは「尾をつけた自在天」である（'Bab steps 140.9ff.）。

rjes 'gro 'gro ba'i go skabs phrogs 「拮抗できる者はいなかった」 ハヌマンタは自身に拮抗（rjes 'gro）する他の衆生（'gro ba）が出現する余地（go skabs）を与えなかったという意味である（Dgongs rgyan 150.1f.）。rjes 'gro は「～に類似する」（phyogs mthun pa）という意味である（Track 26, 6:20）。

མཐར་ཐུང་དབུག་ཏོ་ཕམ་ཐུང་པའི།
མཆེ་བ་ཚེན་པོ་སྒྲོ་འོག་རྣམས།
མི་ཐུང་ཕྱག་རྒྱ་བཅིངས་པ་ནི།
དྲི་བ་བཟང་ལྷོ་བ་ཅན་གྱི་ནི།
ཁ་ཡི་ཕྱག་པར་གནས་འོས་ཞེས།
གྲོང་གི་བྱང་མེད་ཚོགས་རྣམས་སྒྲོག།

155a: ཏོ་ལྷོ་ལྷོ་ Thimphu.

155c: རྩི་ Zhal, Thimphu; འདྲི་ Gser, Mkha', Bkra.

155d: ལྷོ་ལྷོ་ Thimphu.

155e: ལྷོ་ལྷོ་ Thimphu.

155f: རྩི་ལྷོ་ལྷོ་ Gser.

(村の女達：)

「ヤマ（終末をもたらす者）の棍棒を
打ち負かすはずの上下の鋭い牙は
不壊の印相を固く結んでいるけれど
ジャコウジカ（良い香りがする臍を持つ者）の
口の中にあつた方が良かったみたいね。」
こう言って村の女達はあげつらうのであった。(155)

mthar byed 「ヤマ（終末をもたらす者）」 サンスクリットの antaka に由来する表現。gshin rje 「ヤマ」を意味する詩的語彙である。

mi phyed phyag rgya bcings pa ni 「不壊の印相を固く結んでいるけれど」 見かけの上ではとても怖そうに見える（'jigs 'jigs ltar snang ba）という意味である（'Bab steps 140.16）。

dri bzang lte ba can gyi... 「ジャコウジカ（良い香りがする臍を持つ者）の…」 ジャコウジカの牙は見た目は恐ろしいけれども、実際には誰も傷つけることはない。村の女達は、羅刹達の恐ろしい牙があるべき最もふさわしい場所は彼らの口の中ではなくジャコウジカの口の中だと述べている。羅刹達が猿一匹すらつかまえることができないことへの皮肉である（'Bab stegs 140.12ff.）。

མཚན་རྒྱུ་བཟུང་ཤིང་ནགས་ཀྱི་ཚལ། །
 དོ་རང་ནགས་ཀྱི་གར་མཁན་རོལ། །
 ལས་ཀྱི་ལྷགས་སྒྲོག་མགུལ་རྒྱན་ནི། །
 མགོན་པའི་རང་བྱུང་རྒྱན་དུ་སྤངས། །
 གཤོག་པ་ལྡན་ཡང་ལས་ཀྱི་ནི། །
 མཁའ་ཡི་ཕ་རོལ་འགོམ་མི་རུས། །

156f: མཁའ་ཡི་ ས; མཁའ་མ་ Thimphu. མི་རུས་ ས; མ་རུས་ Thimphu.

羅刹（夜に蠢く者）の果樹園という
 舞台上森の踊り手（ハヌマンタ）が戯れていると
 業という鉄の鎖の頸飾りを
 首の周りに自然に生まれた装飾として受け取った。
 もし翼があったとしても業という
 空の向こう側まで進むことはできない。(156)

las kyi lcags sgrog mgul rgyan ni... 「業という鉄の鎖の頸飾りを…」 ハヌマンタは人為的に作られた鎖でつながれても逃げるのが可能であるが、自らの業の報いという自然発生的な鎖から逃れることはできない（'Bab stegs 141.12ff.）。「業」が「鉄の鎖」という隠喩で表され、さらに「鉄の鎖」が「頸飾り」という隠喩で表されている。二重隠喩の構造になっている（Track 26, 15:35）。

རྒྱུ་མཚོང་ཐིག་ལེ་ཅན་དེ་ཡི། །
 ལྷ་ཉག་རེ་རེ་སྒྲོ་ཚོགས་མདོག། །
 སྤང་བུའི་ཚོགས་ནི་ངལ་བ་ཡིས། །
 འདར་ལྡན་ལག་པས་འབད་དེ་བཟུང་། །

157b: རེ་རེ་ ས; རེ་རེ་ Gser, Mkha'.

157b: ངལ་ ས; ལ་ Thimphu. ཡིས་ ས; ཡི་ Thimphu.

猿（走り跳ねる者）という象（斑点模様を持つ者）の
 一本ずつの毛を羅刹（多色者）という
 蜂の群れはさんざん苦勞しながら
 震える手で辛うじてつかまえた。(157)

rgyug mchong 「猿（走り跳ねる者）」 サンスクリットの *plavaṅga* に由来する表現。spre'u 「猿」を意味する詩的語彙である。

sbrang bu'i tshogs 「蜂の群れ」 羅刹達を表す隠喩である。蜂の群れは、香木の樹液に体をこすりつけたことにより芳しい香りを発している象の周りに群がる。それと同じように、羅刹の群れは、ハヌマンタの毛の一本一本をつかまえようとして群がっている（'Bab stegs 142.11ff.）。

'dar ldan lag pas 「震える手で」 羅刹達の手は恐怖で震えていたが、彼らは苦勞の末にようやくハヌマンタをつかまえた（'Bab stegs 142.9f.）。

རི་དྭགས་དབང་པོ་རང་ལུས་ཀྱི།
 མ་ཡིས་ཉེན་མཐར་སྤང་བྱས་འཇོམས།
 ཕྱོགས་ཀྱི་འཁོར་ལོ་གཟེར་བྱ་དང་།
 བྲལ་ཏེ་དག་ཡི་དམུང་གིས་མཚན།

158b: ཡིས་ ཟ; ཡི་ Thimphu. ཉེན་ ཟ; ཉེ་ Thimphu.

158d: བྲལ་ Thimphu; འབྲེལ་ ཟ.

獅子（獣達の王）は自分の身体に負った
 傷に苦しめられた末、蜂に滅ぼされた。
 四方という車輪をつなぎ止める釘が
 外れて敵の軍勢に打ち負かされた。(158)

ri dwags dbang po... 「獅子（獣達の王）は…」 サンスクリットの *mrgendra* に由来する表現。 *seng ge* 「獅子」を意味する詩的語彙である。ここで「獅子」はハヌマンタ、「傷」はハヌマンタが過去に積んだ悪業、「蜂」は羅刹を暗示する（'Bab steps 142.15ff.）。縮約表現の技法が用いられている（Track 26, 22:38）。

phyogs kyi 'khor lo gzer bu dang bral te 「四方という車輪をつなぎ止める釘が外れて」 ハヌマンタは東西南北の四方向を羅刹の群れに包囲され、逃げ場を失った（'Bab steps 142.17ff.）。

ཤ་ཁྲག་འདོད་པ་དེ་དག་གིས།
 སྲིག་ལ་ལྷན་ཚོད་བརྩམས་པ་ན།
 ཚོ་ཡི་དངོས་གྲུབ་སྤྱིན་བྱེད་པ་ལ།
 བདུད་ཚིའི་རྒྱ་མཚོ་ཁ་ལས་ལུང།

159a: འདོད་པ་དེ་ ཟ; ཟ་འདོད་པ་ Zhal.

159b: ཚོད་ ཟ; ཚོད་ Zhal, Thimphu.

159d: ལུང་ ཟ; ལུང་ Thimphu.

肉と血を欲する彼らが
 生命をおびやかす行為に取りかかると
 長寿の境地をもたらす
 甘露の海が口から流れ出てきた。(159)

bdud rtsi'i rgya mtsho kha las lud 「甘露の海が口から流れ出てきた」 ハヌマンタは羅刹達によって今にも殺害されようとしていたが、とっさに知恵を働かせ、彼らを欺く話をした。ハヌマンタの話には勇猛さ (*dpa'*) と賢さ (*spyang grung*) が備わっていたので、羅刹達にはそれが長寿の境地をもたらす神の言葉のように美しく心地良いものに聞こえた。しかも、ハヌマンタが発する言葉は、あたかも甘露が瓶の口から途切れることなく注がれるように、淀みなく流暢に発せられた (*Munsel* 261.11ff.)。「甘露」はハヌマンタの話 (*gtam*) を暗示する隠喩であるが、比喩基準のみが示され、比喩対象「話」は示されない。非明示的隠喩の技法が用いられている。さらに、「甘露」という隠喩が「海」というもう一つの隠喩によって表現される。二重隠喩の構造になっている (Track 27, 6:36)。

ཀླ་ཡི་ལྷོས་ཤིག་ནགས་ཁོད་ཀྱི།
 བདག་པོ་ཉེས་པར་བྱེད་པ་ལ།

འགོང་བར་མི་རུས་བྱེད་པོ་ཡི། །
 བྱིས་ལུགས་ངེས་པ་གཉིས་ཡོད་དེ། །

160b: ཉེས་ ཟ; གཉིས་ Thimphu.

(ハヌマンタ：)

「さあ考えてみてご覧、密林の王者に対する
 刑罰を実行するにあたって決して
 逸脱してはならないものとして創造主が
 定めた二つの掟がある。」(160)

nags khrod kyi bdag po 「密林の王者」 ハヌマンタは自身を「密林の王者」と呼び、自分の殺害方法について羅刹達に教示しようとしている（'Bab stegs 144.5f.）。

byed po yi khrims lugs nges pa gnyis 「創造主が定めた二つの掟」 「創造主」とは宇宙を創造したブラフマン神のことである（'Bab stegs 144.7f.）。ブラフマン神は、密林の王者を処刑する際に必ず二つの方法のいずれかを選ばなければならないと定めているとハヌマンタは語る。第一は、豪華な飲食物を大量に食べさせて窒息死させるという方法であり、第二は、尾に油のついた布を巻き付けて着火し、焼き打ちにするという方法である（'Bab stegs 145.7ff.）。

དེ་ལས་འགོངས་ན་དྲག་པོ་ཡི། །
 དམོད་པས་བྱེད་ཅག་ཅིག་ཆར་འཛོམས། །
 དཔྱུལ་བ་རྣམས་དང་སྟོབས་ལྡན་དང་། །
 ལྷན་ཅིག་ས་འོག་བཙོན་རར་འཕེན། །

161b: ཆར་ ཟ; ཅས་ Thimphu, Bkra.

161d: བཙོན་ ཟ; བཙོན་ Thimphu.

(ハヌマンタ：)

「もしそれから逸脱すればルドラ神の
 呪いによって君達は一斉に滅ぼされ
 地獄に向かう者達や悪魔バリと
 一緒に地底の牢獄に放り込まれるだろう。」(161)

stobs ldan 「悪魔バリ」 バリ (Bali) は悪魔の一種である。ヴィシュヌ神の第五のアヴァターラである矮人ヴァーマナ (Vāmana) の物語に登場する (Track 27, 5:18)。

གང་ཡང་མར་མེ་སྐྱུམ་གྱིས་ནི། །
 དངངས་ཏེ་འཛི་བར་བྱེད་པ་སྟེ། །
 གཉེན་དུ་འོས་པའི་དགྲ་འཛོམས་ན། །
 སྐབས་གསུམ་པར་འོས་བཟུལ་བ་དང་། །
 བདུང་བ་བལྟས་པར་བྱ་བ་ཡིས། །
 སྒྲིན་དུ་འགྲངས་པར་བྱས་ཏེ་བསད། །
 ལྷ་ཁྲུང་ཚོགས་གྱིས་ཆེར་གང་བའི། །
 རིང་བུ་བདེ་བར་གནས་པ་མིན། །

162d: པར་ ཟ; པ་ Gser; གསང་ Thimphu. བཟུལ་ ཟ; བཟུང་ Zhal.

162e: བདུང་བ་ ཟ; བདུང་དང་ Thimphu. བཟླ་ ཟ; ལྷ་ག་ Thimphu.

162f: འགྲངས་པས་ ཟ; བགྲང་བས་ Thimphu.

162h: ལུ་ ཟ; བར་ Bkra.

(ハヌマンタ：)

「いかなる灯明も油で
窒息させられると消えてしまう。
友人にしても良い敵を滅ぼそうと思うならば
神々（三時期を経過する者）が享受すべき
食べ物や飲み物や舐め物で
満腹にして殺すのが良い。
幾つもの河川で一杯に満たされた
池が無事でいられるはずはない。」 (162)

gang yang mar me snum gyis ni... 「いかなる灯明も油で…」 油は灯明に火をともしするために必要な要因であるが、かといって急激に大量の油を灯明に浴びせると火は消えてしまう（'Bab stegs 145.5ff.）。

skabs gsum par 'os 「神々（三時期を経過する者）が享受すべき」 **skabs gsum pa** 「三時期を経過する者」はサンスクリットの tridaśa に由来する表現。lha 「神」を意味する詩的語彙である。skabs gsum par 'os という表現は、直訳すれば「神々にとって相応しい」であるが、要するに「神々が享受すべき」（longs spyad par 'os pa）という意味である（'Bab stegs 145.7f.）。

ཅི་ག་མི་བཟད་ཉེས་པ་ཡིས། །
སྒོ་ཆེན་སྒོ་ག་ནི་འགོག་པ་ན། །
སྐྱུ་མ་ལྷན་རས་ཀྱིས་འཕྲུང་པ་ཡིས། །
མཇུག་མའི་རྐང་འཕུང་སྒོ་ག་ཟས་འཛོམས། །

163a: ཡིས་ ཟ; ཡི་ Thimphu.

163b: ཆེན་ ཟ; ཅན་ Thimphu. འགོག་པ་ན་ ཟ; འགོག་པ་ནི་ Zhal; འགོག་པ་ཅན་ Bkra.

163c: ཀྱིས་ ཟ; ཀྱི་ Thimphu. ཡིས་ ཟ; ཅན་ Bkra.

163d: སྒོ་ག་ ཟ; བསྒོ་ག་ Gser.

(ハヌマンタ：)

「一方もし身の毛がよだつような罪状で
智慧ある敵を死刑に処するならば
油まみれになった布が巻き付いた尾という
樹（足で飲む者）の炎で焼き打ちにするのが良い。」 (163)

mi bzad nyes pa yis 「身の毛がよだつような罪状で」 具格助詞 yis は死刑執行という行為の根拠を表す。直前の詩節で述べられた第一の場合とは異なって、全く友好的とはいえない、大罪を犯し、しかも智慧のある敵を処刑する場合について述べている。

mjug ma'i rkang 'thung 「尾という樹（足で飲む者）」 「樹」はハヌマンタの尾を表す隠喩である（Track 27, 15:05）。

ཞེ་མ་སྒོ་ལྷན་བདེན་སྐྱུ་ཡི། །
དག་བོའི་ངག་ནི་སྐྱུ་ཡིས་འགོངས། །

ལྷ་རྣམས་དགའ་བ་མཚོན་ཆ་ཅན།
 མཚོན་ཆ་རྣམས་ནི་སྤྲུའི་གཞུ།
 འབབ་སྤྲུམ་ཚེན་པོ་བསྐྱེན་གྱུར་པ།
 གཙང་སྤྲུམ་ལེན་དང་སྤྲོད་བཞིན།

164b: འགོངས་ ཟ; འགོང་ Thimphu.

164d: ཉི་ ཟ; ཉི་ Thimphu. གཞུ་ ཟ; གཞུང་ Thimphu.

164f: ལྷུར་ ཟ; ལྷུར་ Thimphu.

何ともはや真実を語る智慧者の言葉には
 たとえその人が敵であろうと一体誰が逆らえようか。
 神々にとって喜ばしいものはインドラ（武器を持つ者）であるように
 鋭い牙を持つ者（羅刹）達にとって喜ばしいものは猿の弓であった。
 大きな栈橋を頼りにして
 浄化の行に努める仙人のように。(164)

blo ldan bden smra 「真実を語る智慧者」 ハヌマンタのことを指している。ここでハヌマンタは羅刹達を騙して、いかにも真実らしい言葉を語っているに過ぎないが、羅刹達はその言葉を信用している (*Mun sel* 265.20ff.)。

mche rnon rnams ni spre'u'i gzhu 「鋭い牙を持つ者（羅刹）達にとって喜ばしいものは猿の弓であった」 「鋭い牙を持つ者達」 (mche rnon = mche rnon po can) とは羅刹のことである。「弓」というのは、曲がった ('khyog po) 形をしている弓のように、回りくどい ('khyog po) 表現を含んだハヌマンタの詐り (g-yo sgyu) の言葉を表す隠喩である。羅刹達はハヌマンタの言葉をすっかり信用していたので、彼らにとってその言葉は喜ばしい存在となっていた (*Mun sel* 267.1f.)。なお、シェルシュルワはこの詩脚を「鋭い牙は猿にとって弓と同じように喜ばしい存在であった」と理解する (*Bab stegs* 146.17ff.)。

gtsang sbra lhur len drang srong bzhin 「浄化の行に努める仙人のように」 最後の二つの詩脚の比喩は難解である。諸註釈が示す解釈によると、仙人が水浴場で浄化の行 (gtsang sbra, *sauca) を実行してけがれから離れるように、ハヌマンタも策略を用いて羅刹達を騙し危機的状況から離れたという意味である (*Bab stegs* 147.1ff.; *Dgongs rgyan* 157.11ff.; *Mun sel* 267.2ff.)。しかし、その場合、bzhin「～のように」を受ける言葉が本文中には見出されないので、諸註釈が示すような補足をしなければ文が成立しないことになる。シェルシュルワはこの難解な詩節に対する自身の見解は確定的なものではないことを述べ、ツォンカパの「もし合理性を見出すならば〔その場合にのみ〕受け入れて頂きたい。この上なく微妙な問題については、私のような者の認識が錯誤し得ないことはないのだから。もし合理性を見出さないならば、どうか修正して頂きたい」¹⁷という言葉引用している (*Bab stegs* 147.8ff.)。

[16] ハヌマンタ、羅刹の国を焼き討ちにする

ལི་ཤིའི་ཚུགས་མངའ་ལས་ཐོན།
 ལྷ་སྤྲུམ་རང་བཞིན་ཕོ་བྲང་དེ།
 སང་མ་རྒྱ་གཞི་ལྷུན་པོ་བཞིན།

¹⁷ *Kun gzhi dka' 'grel* 43b4: gal te rigs pa lta na blang || phra zhing phra la bdag 'dra'i blo || 'khrul mi srid pa ma yin phyir || ci ste min na gzhan du gyis ||

དེ་ནས་སྒྲིང་པོར་གྱུར་པ་ཡི། །
 རིན་ཆེན་སྤར་ལེན་ཁང་བརྟེན་སྒྲི། །
 དཔའ་བོ་མགྲིན་བཅུད་གཞུག་ཡས་ཁང་། །

165a: འཕྱི་ ཟ; འཕྱི་ Thimphu. ཐོན་ ཟ; འཕྱོན་ Thimphu.

165b: དེ་ ཟ; སྒྲི་ Thimphu.

165d: རྒྱ་ ཟ; རྒྱ་ Thimphu.

165e: ལེན་ ཟ; ལེང་ Thimphu.

丁字の樹という海（水の蔵）の子宮から採れた
 松脂を本体とするその宮殿はまるで
 ルビーで出来たメール山のようにであった。
 その中枢に位置する
 琥珀の宝石で出来た楼閣が
 勇者ダシャグリーヴァの邸宅である。(165)

li shi'i chu gter mngal las thon 「丁字の樹という海（水の蔵）の子宮から採れた」 子宮から出てくるのは月経 (zla mtshan) の血液である。ちょうど子宮から赤い血液が出てくるように、丁字の樹 (li shi, *lavaṅga) から赤い松脂が採れる ('*Bab stegs* 148.14f.)。「丁字の樹」という比喩対象が「海」という隠喩で表され、さらに「海」が「子宮」という隠喩で表されている。二重隠喩の構造になっている (Track 27, 4:20)。

མདའ་ལྷ་བ་ཡི་འཇུག་འགས་ཏེ། །
 བརྒྱ་བྱིན་ཡིད་ཀྱི་ལྷགས་ལྟེའོ། །
 མཚལ་དང་ཨིན་དྲ་ལྷོ་ལ་དང་། །
 མཚན་གསེར་གྱིས་ཁ་བསྐྱར་བའི། །
 ལ་ཅའི་གྲོང་དང་གྲོང་ཁྲེར་ལྗེ། །
 འཛིན་མའི་འཇའ་ཚོན་གོས་བཟང་བསྟེན། །

166c: མཚལ་ ཟ; ཚལ་ Thimphu.

166d: གྱིས་ Thimphu, Bkra; ཀྱི་ ཟ.

166e: ཅའི་ ཟ; ཚའི་ Gser. ལྗེང་ ཟ; འཕྱེང་ Thimphu.

166f: མའི་ ཟ; མས་ Gser, Bkra.

そこはカーマ神（五つの矢を持つ者）の入口であり
 シャクラ神の心をとらえる鉤であった。
 朱とサファイアと
 エメラルドと金で色をつけた
 瀝青の家屋と街の並びは
 大地が身にまとった虹の衣のようであった。(166)

mda' lnga ba yi 'jug ngogs 「そこはカーマ神（五つの矢を持つ者）の入口」 ラーヴァナの宮殿はあまりにも魅力的であったので、カーマ神ですらも自身の宮殿に対する愛着を捨て、その羅刹の宮殿を訪れに来る ('*Bab stegs* 148.19ff.)。詩的空想の技法が用いられている (Track 28, 5:07)。mda' lnga ba はサンスクリットの pañcaśara に由来する表現。カーマ神もしくは他化自在天 (gzhan 'phrul dbang byed, *paranirmitavaśavartin) を意味する詩的語彙である。

brgya byin yid kyi lcags kyu 「シャクラ神の心をとらえる鉤」 ラーヴァナの宮殿は、三十三天を支配する神々の王者シャクラ（帝釈天）の心をも魅了した（'Bab stegs 149.2f.）。

གང་གི་རྩ་མ་རི་བོ་ཡི། །
གཏོས་དང་མཉམ་པའི་རས་ཀྱིས་གཡོགས། །
དེ་ཡིས་འབྲུ་མར་རྒྱ་མཚོ་འབྲུངས། །
དེ་ལས་དུས་མཐའི་མེ་ལྷན་འབར། །

167b: གཏོས་ ཟ; ལྷོས་ Thimphu.

167c: ཡིས་ Mkha', Thimphu, Bkra; ཡི་ Zhal, Gser. འབྲུངས་ ཟ; འབྲུང་ Thimphu.

167d: འབར་ Mkha', Thimphu; ལྷན་ ཟ.

彼（ハヌマンタ）の尾に山の
大きさに等しい布をかぶせて
それに胡麻油という海を飲ませると
そこから劫末の火のように炎が上がった。(167)

de yis 'bru mar rgya mtsho 'thungs 「それに胡麻油という海を飲ませると」 de yi という異読もあるが、de yis という読みが正しいのであろう。シェルシュルワは'thungs を使役動詞「飲ませた」（'thungs = 'thungs su bcug）として理解する。de yis は使役動詞で表される行為の動作者を表す（'Bab stegs 149.15）。

རྒྱ་མཚོ་རྒྱ་ཅིང་མཚོ་བ་ཡིས། །
རྩ་ཡབ་གླིང་དེ་འབྲུགས་པར་བྱས། །
ཉིན་བྱེད་བདུན་དག་ཤར་བ་ཡི། །
ནགས་ཚལ་ཚེན་པོ་བཞིན་དུ་འབར། །
ཏག་ཅེས་སྒྲིགས་པ་རྩེ་མོ་ཅན། །
ཚངས་པའི་འཇིག་རྟེན་ཟ་བར་རྩོམ། །

168b: བྱས་ ཟ; བྱེད་ Thimphu.

168e: ཏག་ ཟ; དག་ Thimphu. སྒྲིགས་ ཟ; སྒྲིག་ Thimphu.

168f: ཚངས་ ཟ; ཚགས་ Zhal. རྩོམ་ ཟ; བརྩོན་ Bkra.

猿（駆け跳ねる者）は駆け巡り飛び跳ねたので
かのチャーマラ島は混乱に陥り
七つの太陽が同時に昇った時の
巨大な森のように激しく燃えた。
轟々と音を立てる炎（尖端を有するもの）は
梵天世界までも食い尽す勢いであった。(168)

rgyug mchong 「猿（駆け跳ねる者）」 カンブムが説明するように、rgyug mchong は spre'u 「猿」を意味する詩的語彙である（Dgongs rgyan 162.3）。

rnga yab gling de 'khrugs par byas 「かのチャーマラは混乱に陥り」 ハヌマンタは尾に火をつけたまま宮殿の敷地内で激しく飛び跳ね、駆け回ったので、火は宮殿全体に広がり、島全体が大きな混乱状態に陥った（'Bab stegs 150.13ff.）。

tshangs pa'i 'jig rten za bar rtsom 「梵天世界までも食い尽す勢いであった」 宮殿全体に広がった火が実際に梵天世界にまで達するわけではない。誇張表現である。ここにはガウダ様式に特有の「愛らしさ」という美質 (mdzes pa'i yon tan) が認められる (Track 28, 13:25)。

རྩ་ཡབ་སྐྱིད་ནི་གྲུ་གསུམ་སྟེ།
མངོན་སྟོན་མེ་ཐབ་དེ་ནང་དུ།
སྲིན་པོའི་ཚོགས་ཀྱི་ཡམ་ཤིང་ལས།
དྲག་པོའི་བུ་ཡིས་སྲིན་སྟེག་བྱས།

169a: རྩ་ཡབ་སྐྱིད་ Thimphu; མི་ Bkra.

三角形のチャーマラ島という
その調伏護摩の火の炉の中
羅刹の群れという護摩木を使って
ルドラの子は護摩を焚いた。(169)

mngon spyod me thab 「調伏護摩の火の炉」 調伏護摩 (abhicāra) では三角形の炉が用いられる ('Bab stegs 151.1; cf. 森 2011: 112, 124ff.). 同じ三角形の形をしているチャーマラ島が「調伏護摩の火の炉」という隠喩で表されている。

drag po'i bu 「ルドラの子」 ルドラはシヴァの別名である。シヴァの子とはハヌマンタのことである。ハヌマンタは三つの眼を有する者 (mig gsum pa) であるので、三角形の「三」との間に数の一致がある ('Bab stegs 151.2f.).

སྲིན་མེད་རིག་ལྟགས་མཁན་དེ་ཡིས།
དྲག་པོ་འཕུལ་འཁོར་སྲོར་བས་བཅོམ།
སྲིད་གྲུ་རྣམས་ལ་ནམ་དུ་ཡང་།
སྲིན་པོའི་འཇིགས་པ་མེད་པར་བྱས།

170b: འཕུལ་འཁོར་ Thimphu. བཅོམ་པ་ Mkha'.

かつて現れたことのないその持明者は
呪いのヤントラを使って敵を滅ぼし
人々がいつでも
羅刹に怯えずにいられるようにした。(170)

sngon med rig sngags mkhan de 「かつて現れたことのないその持明者」 ハヌマンタのことを指す隠喩であるが、比喩基準のみが言及され、それによって暗示される比喩対象「ハヌマンタ」は言及されない。トンドゥブギャによれば非明示的隠喩である (Track 28, 17:47)。

'phrul 'khor sbyor bas 「呪いのヤントラを使って」 ハヌマンタの尾についた火のことを指している ('Bab stegs 151.6)。ここでも非明示的隠喩の技法が用いられている (Track 28, 18:00)。

རྩ་མའི་སྐྱིད་པོ་འབར་བྱེད་ནི།
རྟེན་པར་རྩོམ་ཚོགས་ཀྱི་བའི་སྟེང་།
དྲག་ཚན་མང་བར་འཇུག་རྩོམ་པ།
དྲག་པོ་སྲིན་པོའི་དབུགས་ཀྱིས་བཅོམ།

171a: ལོ་གྲོ་མེ་ལྷོ་མེ་ Gser, Thimphu.

171d: ལོ་གྲོ་མེ་ལྷོ་མེ་ Thimphu. བཅའ་ལྷོ་མེ་ལྷོ་མེ་ Thimphu.

尾の髓に火（燃やすもの）が
達しようとした時、火を鎮めるために
サガラ（有毒者）の住居に彼が入ろうとすると
毒の牙を持つ者達が恐怖のあまり息を吐いて鎮火した。(171)

'bar byed 「火（燃やすもの）」 サンスクリットの *jvalana* に由来する表現。me 「火」を意味する詩的語彙である。

dug can phang ba 「サガラ（有毒者）の住居」 「海」を意味する。dug can 「有毒者」はサンスクリットの *sagara* に由来する表現である。シェルシュルワはこれを *klu* 「龍／ナーガ」の意味で理解している。dug can phang ba 「サガラ（有毒者）の住居」はサンスクリットの *sāgara* 「海」に相当する表現である（'Bab steps 151.15f.）。

dug so skrag pa'i dbugs kyis bcil 「毒の牙を持つ者達が恐怖のあまり息を吐いて鎮火した」 尾の髓まで達した火を消すためにハヌマンタが海に入ると、龍達は自分達の国が焼き尽くされてしまうのではないかと恐れ、息を吹きかけて鎮火した（'Bab steps 151.16ff.）。

[17] ラーマナ、ラーヴァナを征伐する

ཀུན་གསོད་དག་དེས་མཚོངས་གཅིག་གིས། །
རྩེ་མའི་རྩེ་ལོངས་གཏམ་བསྟན་དེ། །
ཡན་ལག་བཞི་ཕྱན་དཔུང་གི་རུལ། །
ཐུ་མཐོངས་འགོག་པ་ཉེ་བར་བཤམས། །

172a: དེས་ གྲོ་ ལོ་ Thimphu. མཚོངས་ གྲོ་ མཚོངས་ Thimphu, Bkra.

172b: རྩེ་ གྲོ་ ལོ་ Thimphu. ལོངས་ གྲོ་ ལོངས་ Bkra.

172c: ཕྱན་ གྲོ་ ལོ་ Thimphu. གི་ གྲོ་ གིས་ Thimphu.

172d: མཐོངས་ གྲོ་ ལོངས་ Gser; མཐོངས་ Thimphu.

かの羅刹（皆を殺す者）の敵は一飛びに
ラーマの前に戻って来て経緯を語った。
彼は四部隊を具える軍隊という砂塵で
まるで空を遮るかのように配備した。(172)

kun gsod dgra 「羅刹（皆を殺す者）の敵」 kun gsod はサンスクリットの *āsara* に由来する表現。srin po 「羅刹」を意味する詩的語彙である。「羅刹の敵」とはハヌマンタのことである（'Bab steps 153.3）。

gtam 「経緯」 シーターがハヌマンタに語った内容を指す。すなわち、ラーマナが武力を行使してシーターを解放するように求めていること、また、シーターが自ら逃亡する意思はないことである（'Bab steps 153.4ff.）。

yan lag bzhi ldan dpung 「四部隊を具える軍隊」 象兵、馬兵、馬車兵、歩兵の四つを具備した軍隊のことである（'Bab steps 153.7f.）。

rdul chu mthongs 'gog pa 「砂塵でまるで空を遮るかのように」 ラーマナが配備した軍勢の数の多さを表している。誇張表現である。ガウダ様式に特有の「愛らしさ」という美質（mdzes pa'i yon tan）が認められる（Track 28, 24:00）。

འཇམ་བུ་གླིང་དང་དེ་ཡི་བར། །
 ལུ་སྲིན་འབྲུང་གནས་དར་བ་དང་། །
 ཚེ་བའི་ལུ་སྲིན་ལོ་གས་ཀྱིས། །
 ཀང་འབྲུང་བམ་པས་སློབ་བར་ཆས། །

173a: འཇམ་བུ་ ཟ; འཇམ་བུ་ Thimphu.

173c: ལུ་སྲིན་ ཟ; ལུ་སྲིན་ Thimphu. ལུ་སྲིན་ Mkha', Thimphu; ལུ་ Zhal, Gser.

173d: བམ་པས་ ཟ; བམ་པ་ Thimphu. སློབ་བར་ Thimphu; སློབ་བས་ ཟ.

ジャンプ洲とその島の間には
 海（マカラの巣窟）が広がっていたが
 猿の群れは広大な水の上を
 木の橋で渡って行こうとした。(173)

chu srin 'byung gnas 「海（マカラの巣窟）」 サンスクリットの makarākara に由来する表現。rgya mtsho 「海」を意味する詩的語彙である。ジャンプ洲とランカー島（チャーマラ島）の間は海で挟まれており、実際にそこには凶暴な海獣マカラが生息するとされる（'Bab stegs 153.10ff.）。

དང་སྲོང་གོག་མཁར་ཞེས་བྱ་བ། །
 ལུ་སྲིན་ལོ་གས་ཀྱི་བསམ་གཏན་བ། །
 དེ་ཡིས་ཉ་མིད་ཅེས་བྱ་བ། །
 ལུ་སྲིན་ཉ་མིད་སློང་གསུམ་ཀྱི། །
 སློང་ཆེན་ལུ་སྲིན་ཆད་འཇོན་པའི། །
 བམ་པ་ཆེན་པོ་ཉ་བར་བཅུགས། །

174c: ཡིས་ ཟ; ཡི་ Thimphu. ཉ་མིད་ ཟ; ཉ་མིད་ Thimphu.

174d: ཉ་མིད་ ཟ; ཉ་མིད་ Thimphu.

174e: ཆད་ ཟ; ཆད་ Thimphu.

ヴァールミーキ仙人という
 海岸に住む行者がいた。
 彼はティミというものがいると語ったので
 三千大千世界の大きさの身体を持つ
 海獣ティミと同じ大きさの
 巨大な橋を彼らは造り上げた。(174)

rgya mtsho'i 'gram gyi bsam gtan pa de yis... 「海岸に住む行者がいた。彼は…」 能格助詞 yis を受ける他動詞が文中に示されていない。諸註釈に従って、zer 「～と語る／語った」という動詞を補って理解する。猿の軍勢は木の橋を渡って行こうとしたが、どのような橋を作れば良いのか分からなかったため、海岸にいたヴァールミーキ仙人に、海の大きさや、その中に生息する生き物について質問したところ、仙人はティミという巨大な生き物が生息していることを彼らに告げた（'Bab stegs 153.14ff.; Mun sel 279.19ff.）。

nya mid 「ティミ」 サンスクリットの timi に相当する語。チベット語の nya mid は「魚を飲み込む者」を意味する。海の中にはティミという海獣を食べるティミンギラ (timingila) が住んでおり、さらにティミンギラを食べるティミティミンギラ (timitimingila) が住んでいる（'Bab stegs 153.16ff.; cf. de Jong 1983: 172）。

zam pa chen po 「巨大な橋」 猿の軍勢は木の橋を造るのをやめ、集合して海獣と同じ大きさになり、互いの手足をつないで巨大な橋になった（'Bab steps 153.20）。

འབར་བའི་ལྷག་མ་སྒྲོགས་ནི།
དབུང་ཚོགས་ལྷ་མ་བདབ་སྟེ་གནས།

175b: ལྷ་ ཟ; ལྷག་ Thimphu.

燃えずに残ったラーヴァナも
軍陣を張って待ち構えていた。(175)

'bar ba'i lhag ma sgra sgrogs 「燃えずに残ったラーヴァナ」 ハヌマンタの火に焼かれずに生き残った羅刹ラーヴァナのことである（'Bab steps 153.21f.）。

མཁའ་དོགས་པ་གསེར་གྱི་བྱང་འགྲོའི་ལྷ་ཡིས་འཕུད་ཅིང་ཀེ་ཀེ་ལྷ་མིག་དག་རིག་རིག་གྲོག་གི་ལྷེ་གཡོ་བརྒྱ་
ཡི་ངོས་ལ་རྣམ་པར་འཕུང་།།
ཉག་པོ་ཚོགས་ནི་མཐེབ་ལོང་སྒྲོར་བའི་འཕུལ་འཁོར་གཤོག་པའི་སྒྲོ་ལྷན་བདག་ཅག་གནས་དུ་རྒྱག་ལ་ལྷོས་
པ་མེད་ཅེས་འགྲན་པ་བཞིན་དུ་མཚོང་བར་རྩོམ།།
གཞུ་རྒྱུད་མཚོགས་པའི་རྒྱུང་མ་ལ་རོལ་དེགས་པའི་ང་རོས་སྤྱིན་གྱི་སྒྲ་ལ་དམན་པ་ཉིད་སྟེར་འོན་པའི་ཚོགས་ལ་
སྒྲ་དབུང་ས་སྟོན་ཉེད་ལུ་མཚོན་འཕུར།།
མེ་ལྷེ་སྟོང་གི་དུ་བ་འཁྲིགས་པའི་རལ་གྱི་འབར་དང་རལ་གྱི་གཞོན་ལུ་རྒྱ་གྱི་དང་ནི་ཀ་ཏ་ཡ་སོགས་ལོང་ལོང་
གཡོ་ཞིང་ཐམ་ཐམ་རྩལ་པས་ཕྱོགས་ཀུན་འགོངས།།

176a: དོགས་ ཟ; གདོང་ Thimphu.

176b: སྒྲོར་ ཟ; འགྲོར་ Thimphu. སྒྲོ་ལྷན་བདག་ཅག་ Gser, Thimphu; སྒྲོ་ལྷན་ ཟ. གནས་དུ་རྒྱག་ ཟ; ལྷ་དུ་རྒྱ་
Thimphu.

176c: རྒྱུང་མ་ ཟ; རྒྱུ་མ་ Gser. ང་རོས་ ཟ; ང་རོ་ Thimphu. ལུ་ ཟ; དུ་ Thimphu. འཕུར་ ཟ; འཕུང་ Thimphu.

176d: ཀ་ཏ་ཡ་ Bkra; ཀ་ན་ཡ་ ཟ. འགོངས་ ཟ; འགོང་ Thimphu.

エメラルドの束（虎皮の矢筒）と黄金の蛇（豹皮の矢筒）の腹に巻き付かれ、カルケータナの眼で睨みをきかせながら、きらめく稲妻の閃光は腿の所にぶら下がり
矢の束は、弓を合わせた仕掛けの力のおかげでまるで「翼を持つ鳥のように我らは天空を駆けめぐるのに誰の力も要らない」といって張り合うように跳ね上がる支度をし
弓の弦は美人の妻と戯れ、自尊心に溢れる怒号で雲の雷鳴に敗北をもたらすと、聾者達に音の調べを聞かせる軍旗が掲げられ
千の火花の網を張り巡らす剣が燃え上がり、小型の剣や小刀や投げ槍などが沸々と揺らめきぐさりと突き刺さるさまが全体で繰り広げられた。(176)

margad dogs pa gser gyi brang 'gro'i lto yis 'khyud 「エメラルドの束（虎皮の矢筒）と黄金の蛇（豹皮の矢筒）の腹に巻き付かれ」 「エメラルドの束（dogs pa = dog pa）」は、シェルシュルワによれば「虎の皮で作った矢筒」（stag ral）を意味する。エメラルドを溶かして作った液体で緑色に塗られた矢筒である（'Bab steps 155.3）。次に、gser gyi brang 'gro「黄金の蛇」は、シェルシュルワによれば「豹の皮で作った矢筒」（gzig shubs）を意味する。黄色の矢筒である（'Bab steps 155.3）。あるいはまた、margad gdong ba... という異読に従うならば「エメラルドの顔（gdong ba）に黄金の蛇の腹が巻き付く」と解釈できるかもしれない。

ke ke ru yi mig 「カルケータナの眼」 カルケータナ (karketana) は白色の宝石である ('*Bab stegs* 155.4f.)。また、カルケータナは黄緑色をしている (kha dog ljang ser can) という説もある ('*Bab stegs* 155.20f.; *Gser gyi sbram bu* 505.15f.)。

'on pa'i tshogs la sgra dbyangs ston byed 「聾者達に音の調べを聞かせる」 聾者にまで聞こえるのではないかと思われる程に大きな音が鳴ったということを描写した誇張表現である。ガウダ様式に特有の「愛らしさ」という美質 (mdzes pa'i yon tan) が認められる (Track 29, 13:10)

me lce stong gi dra ba 'khrigs pa'i... 「千の火花の網を張り巡らす…」 最初の三つの詩脚は 31 音節からなるが、第四詩脚のみ 35 音節からなる不規則形となっている。

ka ṇa ya 「投げ槍」 サンスクリット kaṇaya (kaṇapa ともいう) の音写である。'phang mdung 「投げ槍」のことを指している ('*Bab stegs* 155.17)。

phyogs kun 'gengs 「全体で繰り広げられた」 phyogs kun 'gong という異読に従うならば、「小型の剣や小刀や投げ槍などが沸々と揺らめきぐさりと突き刺さったので、全方向〔にいる者達〕が恐れをなした」とも理解できる (*Dgongs rgyan* 168.1ff.)。

རིག་དང་སྐྱུ་རྩལ་མཐར་སོན་པར། །
 དགྲ་ཐབས་མཁས་པ་དཔལ་བའི་ཚོགས། །
 འབྲོས་པ་ལྟ་བུར་སློན་ཅིང་འདེབས། །
 ས་ལ་འབྱར་ཞིང་ཉལ་བར་རྩོམ། །
 འདར་བ་ལྟར་སློན་གཡེར་བག་བྱེད། །
 བཟུང་ཞིང་བཟུང་ཞིང་བསྐྱེན་པ་དང་། །
 ཉུ་ཉུ་ཏྲ་ཏྲ་ཚོམ་ཚོམ་ཞེས། །
 ལག་རྒྱན་འཇག་ལྡན་སོསྒྲ་འབྱིན། །

177a: པར་ ཟ; པ་ Thimphu.

177b: ཐབས་ ཟ; འཐབ་ Mkha', Bkra.

177c: བུར་ ཟ; བུ་ Bkra. འདེབས་ Zhal, Thimphu, Bkra; འདེགས་ Gser, Mkha'.

177d: འབྱར་ ཟ; འབྱར་ Thimphu. ཉལ་བར་ ཟ; ཞ་འཕར་ Thimphu.

177f: བཟུང་ཞིང་བཟུང་ཞིང་ ཟ; གཟུང་ཞིང་གཟུང་ཞིང་ Thimphu.

177g: ཏྲ་ཏྲ་ ཟ; ཏྲ་ཏྲ་ Thimphu.

学問と技芸を完全に極め
 戦術に長けた勇者の軍団は
 逃げるように見せかけて攻撃を加え
 地面にくっついて寝た振りをしたり
 怯えた振りをして大胆に行動し
 次々と敵を掴まえては迫って行き
 キェキェ、ハンハン、チョムチョムと
 血潮を垂らしながら歯のぶつかる音を立てた。(177)

g-yer bag byed 「大胆に行動し」 『チベット歴代文学作品選《金塊》』の編者が与える註記によれば、g-yer bag は [1] (向こう見ずな) 大胆さ (rgod bag)、[2] 心の高ぶり (sems 'phang mtho ba)、[3] 滑稽さ (bzhad gad che ba)、[4] 愉快さ (snang ba che ba)、[5] 荒地 (dben pa'i gnas yul) などの意味を有するが、ここでは第一の意味で使われている (*Gser gyi sbram bu* 505.17ff.)。

ཡ་ཡང་ཚོགས་ནི་དདུལ་དཀར་གྱི། །

དྲི་མེད་མེ་ལོང་བཞིན་དུ་འབར། །
 ལྷལ་གྱི་ཐིགས་པ་རྒྱས་པ་ཡིས། །
 གསེར་ལྷན་མ་ལ་བསང་གཏོར་བྱེད། །

178c: ཡིས་ ཟ; ཡི་ Bkra.

178d: བསང་ ཟ; བསངས་ Thimphu.

何体もの甲冑が白銀で出来た
 けがれのない鏡のように輝きを発し
 飛沫を上げる汗水の雫が
 大地（金を蔵するもの）に聖水の供養をした。(178)

gsar ldan ma 「大地（金を蔵するもの）」 サンスクリットの *vasumatī* に由来する表現。 **sa gzhi** 「大地」を意味する詩的語彙である。

bsang gtor 「聖水の供養」 プロークシャナ (*prokṣaṇa*, 瀧浄水) を撒く儀礼のことである (cf. 森 1990: 1019)。「汗水の雫」を擬人化した詩的空想の技法が用いられている (Track 29, 21:00)。

རབ་དུ་ཚོ་རྣམས་འགགས་ཏེ་འགྲེལ། །
 ལྷན་མ་འབྲོས་པའི་གདོང་དང་ནི། །
 དཔའ་བོ་གཡུལ་དུ་ཞུགས་པ་ཡི། །
 གདོང་བ་འབྲབ་པའི་ཕེག་ཏོབ་ཀྱིས། །
 རྣམ་མཁའི་ངོས་ཀྱི་རྣམ་པ་བཞིན། །

179a: ཚོ་ ཟ; ཚོགས་ Thimphu. འགགས་ཏེ་ ཟ; འགགས་ཏེ་ Thimphu.

179d: འབྲབ་ ཟ; འབྲབ་ Thimphu.

179e: ཏོབ་ ཟ; ཏོབ་ Thimphu.

たくましい身体をした者達が息絶えて倒れ
 逃亡する臆病者の顔と
 戦闘に向かう勇者の顔が
 打ち鳴らすシンバルによって
 天空の全面が破裂するかのようであった。(179)

'gags te 「息絶えて」 文字通りには「滅びて」という意味であるが、シェルシュルワの註釈に従って「息絶えて」 (*dbugs 'gags te*) という意味で理解する (*'Bab stegs 157.17*)。

སོ་ལྷན་སྤྲོ་ཞགས་བསྐྱོད་པ་ཡིས། །
 ལ་ལ་ལྷ་ཡི་མདུན་སར་འཕེན། །
 འགའ་ཞིག་སྤང་བའི་སེམས་དམུལ་མོ། །
 རང་ཉིད་སྲེག་པའི་ཕྱིར་དུ་སྐྱོར། །

180d: སྲེག་ ཟ; བསྐྱོད་ Thimphu. ཕྱིར་ ཟ; ཚེད་ Thimphu.

象（牙を持つ者）が長い鼻を振り回すと
 ある者達は神々の集会の中へと振り飛ばされ
 ある者達は憎しみの心という地獄の火で
 自らを焼き払うために燃やされた。(180)

la la lha yi mdun sar 'phen 「ある者達は神々の集会の中へと打ち飛ばされ」 暴れ回る象によって撃退された兵士達のある者は、天上世界へと飛ばされて落命した（'Bab stegs 157.21）。

'ga' zhig sdang ba'i sems dmyal me... 「ある者達は憎しみの心という地獄の火で…」 ある兵士達は戦火に焼かれて命を失った。彼らは自身の憎しみの心のせいで戦場に赴き、そこで死を迎えたのであるが、それはまるで地獄の火で自らを燃やすかのようにであった（'Bab stegs 158.1f.）。

གང་ཚོ་རང་གི་མ་ཡི་གོས། །
གོམས་པ་དམར་མེར་ཅན་དབང་གིས། །
མཚོགས་འགྲོའི་མགོ་བྲལ་སྒྲོགས་ནི། །
འཚེ་བར་འགྱུར་བ་དེ་དེ་བསྟུང། །

181b: དབང་གིས་ Σ; དག་གི་ Thimphu.

181c: འགྲོའི་ Σ; འགོས་ Zhal.

181d: འགྱུར་ Mkha', Thimphu; གྱུར་ Zhal, Gser, Bkra.

自分の父（シヴァ）からの助言を
心得ていた猿（橙色をした者）の王者は
馬（素早く駆ける者）の頭を切ればラーヴァナが
死に至るといふその話をその通りに語った。(181)

gang tshe 接続詞 gang tshe と相関する de tshe が省略されている。シェルシュルワの註釈に従って、de tshe を次の詩節の冒頭に補い、「猿の王者が語ったその時、弓取りの自在者ラーマナは…」と理解する（'Bab stegs 159.2）。

mgyogs 'gro'i mgo 「馬（素早く駆ける者）の頭」 mgyogs 'gro はサンスクリットの turāṅga に由来する表現。rta 「馬」を意味する詩的語彙である。ラーヴァナが持つ十の頭の中央にあるのが馬の頭である（'Bab stegs 158.20f.）。

གཞུ་འཛིན་དབང་པོ་རྒྱ་མ་ཚས། །
གཞུ་རྒྱལ་མཐེབ་ལོང་སྒྲིར་བ་བྱས། །
མཚུན་གྱི་ལྷ་ཡི་མཚོན་ཚོན་ནི། །
མཚོགས་གི་མགོན་འཕུད་རྩུ་འཕུལ་འཛིན། །

182a: རྒྱ་མ་ཚས་ Mkha', Bkra; རྒྱ་མ་ཚའི་ Zhal, Gser; ར་མ་ཡི་ Thimphu.

その時、弓取りの自在者ラーマナは
弓の王者に弓懸を合わせた。
ヤマ（祖霊の神）の鋭い武器は
最上の首に巻き付くという神業を起こした。(182)

mtshun gyi lha 「ヤマ（祖霊の神）」 サンスクリットの pitṛdeva に由来する表現。gshin rje 「ヤマ（yama）」を意味する詩的語彙である。

རྩ་ཡབ་གླིང་རྗེ་མཐོ་རིས་གྱི། །
ཐེམ་སྐས་ཞབས་གྱིས་བརྟེན་པ་ཐོབ། །
བ་ཤིང་ཡི་དུས་སྒྲིར་ནི། །

བསྐྱེད་མེད་རིག་པར་ངེས་པར་བྱས། །

183b: གྲིས་ ཟ; གྲི་ Thimphu.

183d: བྱས་ ཟ; བྱབ་ Thimphu.

チャーマラ島の王者は天界に通じる
階段に両足を乗せるに至り
ヴァシシュタ仙人の上昇宮の呪いは決して
外れないことを思い知らされる運命となった。(183)

mtho ris kyi them skas 「天界に通じる階段に」 チャーマラ島の王者ラーヴァナはラーマの矢によって命を失い、天界に転生することとなった。ラーマの矢は放たれば必ず相手に命中し、その矢が命中した者は必ず死に、その死者は必ず天界に生まれ変わると言われている（'Bab stegs 159.8f.）。

ལག་གིས་དམར་བའི་རྒྱ་མཚོ་ནི། །
བ་ལང་རྗེས་བཞིན་འགོངས་བྱས་ཏེ། །
རང་གི་ཡུལ་དང་བཀྲ་གིས་དང་། །
མཚེས་བྲང་ལྷན་ཅིག་ཐོབ་པར་བྱས། །

184a: གིས་ ཟ; གི་ Thimphu.

184b: འགོངས་ ཟ; འགོང་ Thimphu.

彼は血で赤く染まった海を
牛の足跡を越えるようにして越えて行き
自身の住処と幸せな暮らしと
妻を一度に手に入れた。(184)

ba lang rjes bzhin 「牛の足跡を越えるようにして」 戦いに勝利したラーマナとシーターは、まるで牛の足跡の上を飛び越えるように楽々と海を渡り、一瞬の内に元の住居に帰って行った（'Bab stegs 160.1ff.）。

...lhan cig thob par gyur 「…を一度に手に入れた」 同時性の描写（lhan cig brjod pa, *sahokti）という技法が用いられている（Dgongs rgyan 173.12f.; Track 30, 4:00）。

ས་བདག་རྒྱ་མཚོ་འཕེལ་བྱེད་དེ། །
ལང་ཀའི་མགོན་པོ་སྐྱ་གཅན་གྱིས། །
བསྐྱབས་ཏེ་གསང་བདག་ནགས་ཚལ་གྱི། །
སྐྱོས་གར་མཁན་པོའི་དོ་རྗེས་བཅོམ། །

185b: ལང་ཀའི་ ཟ; ལང་གའི་ Bkra.

185d: རྗེས་ ཟ; རྗེ་ Bkra.

大地の支配者（ラーマナ）というその月（海を広げる者）は
ランカー島の守護者（ラーヴァナ）というラーフによって
遮られていたが森の踊り手（ハヌマンタ）という
グヒヤパティの金剛でそれを破壊した。(185)

rgya mtsho 'phel byed 「月（海を広げる者）」 **zla ba** 「月」を意味する詩的語彙である。ここで「月」は大地の支配者ラーマナを表す隠喩である（'Bab steps 160.11f.）。

gsang bdag nags tshal gyi zlos gar mkhan po 「森の踊り手（ハヌマンタ）というグヒヤパティ」グヒヤパティ（Guhyapati, 秘密主）は武勇の自在者（mthu stobs kyi dbang phyug）であるヴァジュラパーニ（Vajrapāni, 金剛手）の別名。ここで「グヒヤパティ」は森の踊り手ハヌマンタを表す隠喩である（'Bab steps 160.13ff.）。第一・第二詩脚では比喩対象を表す語が先に置かれ、比喩基準を表す語が後に置かれていたが、ここでは比喩基準である **gsang bdag** 「グヒヤパティ」という語が先に置かれ、比喩対象である **nags tshal gyi zlos gar mkhan po** 「森の踊り手」という語が後に置かれる（Dgongs rgyan 174.11ff.）。混乱を避けるため和訳では順序を逆にした。

ཡོངས་འདུ་ཀར་འབྲུང་འོ་མའི་ན་རྒྱུང་མཁའ་ཁུ་བའི་གོས་ལྷོན་ཞིང་། །
 མཁའ་འགྲུའི་ཕྱེང་བ་སྤྱ་སྤྱུག་རྣམ་བཟླ་བའི་སོགས་དགའ་བའི་གཞུ་ཕམ་བྱེད། །
 དེ་དག་གླུ་དབྱེངས་ཅི་ཡང་སྤྱ་སྤྱུན་པད་སྤྱེས་མགྲིན་སྤྱ་ཤང་ཤང་སྤྱུན་བསྐྱེས་པ་སྤྱོགས། །
 བསམ་གཏན་གཏན་འདིའི་འབྲུང་བའི་ཀུན་རྟོག་གཡོ་མེད་ཏིང་འཛིན་གོམས་པར་བྱེད། །

186a: འདུ་ཀར་འབྲུང་འོ་མའི་ན་རྒྱུང་མཁའ་ཁུ་བའི་གོས་ལྷོན་ཞིང་། །

186b: མཁའ་འགྲུའི་ཕྱེང་བ་སྤྱ་སྤྱུག་རྣམ་བཟླ་བའི་སོགས་དགའ་བའི་གཞུ་ཕམ་བྱེད། །

186c: དེ་དག་གླུ་དབྱེངས་ཅི་ཡང་སྤྱ་སྤྱུན་པད་སྤྱེས་མགྲིན་སྤྱ་ཤང་ཤང་སྤྱུན་བསྐྱེས་པ་སྤྱོགས། །

186d: བསམ་གཏན་གཏན་འདིའི་འབྲུང་བའི་ཀུན་རྟོག་གཡོ་མེད་ཏིང་འཛིན་གོམས་པར་བྱེད། །

乳を蓄える若い女であるパーリジャータの樹々はエメラルドの液に染まった衣を身に
 まとい

きれいに彩られた羽を持つ鳥達（空を行く者）の列が虹（シャチーを喜ばせる者の弓）
 を打ち負かし

彼らの歌の調べや、弦楽器の美しい音色や、蜜蜂（蓮から生まれた者）が喉を鳴らす
 音や、共命鳥のきれいな鳴き声が合わさって鳴り響き

この禅定行者の住処にいる人々は雑念によって乱されることなく禅定を修習している。

(186)

yongs 'du rkang 'thung 'o ma'i na chung 「乳を蓄える若い女であるパーリジャータの樹々」ラーマナとシーターが暮らす森の中には、天上世界にあるパーリジャータ樹（pārijāta）のように見事な樹々がある。豊富な養分（bcud）を蓄えるその樹々が「乳を蓄える若い女」という隠喩（養分＝乳、樹々＝若い女）によって表現されている（'Bab steps 161.14ff.）。

mkha' 'gro 「鳥達（空を行く者）」 サンスクリットの khaga に由来する表現。bya 「鳥」を意味する詩的語彙である。

bde sogs dga' ba'i gzhu 「虹（シャチーを喜ばせる者の弓）」 **bde sogs dga' ba** 「シャチーを喜ばせる者」はおそらくサンスクリットの śacīnandana に由来する表現であろう。シャチーの夫といえはヴィシュヌであるが、ここではインドラを指していると思われる。「インドラの弓」とは虹のことである。

de dag glu dbyangs... 「彼らの歌の調べや…」 第一・第二・第四詩脚はいずれも 15 音節からなるが、第三詩脚のみ 19 音節からなる。ティンブーで出版された手書き写本では shang shang skad snyan の 4 音節が欠落し、第三詩脚も 15 音節となるので、これに従って読むべきかもしれない。

pad skyes 「蜜蜂（蓮から生まれた者）」 おそらくサンスクリットの padmaja に由来する表現であろう。bung ma 「蜜蜂」を意味する詩的語彙である。

shang shang 「共命鳥」 一身両頭の鳥である。『翻訳名義大集』に (Skt.) jīvamjīvakah, (Tib.) shang

shang te'u / shang shang nye'u (no. 4876) という項目がある。

ལྷ་བ་དཀར་པོའི་དོ་ལེབ་སྒྲིང་། །
 རི་འཛོམས་ཀྱི་དགའི་རོལ་བ་འཛིན། །
 དེ་ཡི་རྣམ་སྐྱེག་དམན་པ་ཞེས། །
 ལྷ་བ་པའི་ས་དེ་ལོང་བཞད་བགྱིད། །

187a: ལྷ་ Σ; ལྷ་ Thimphu.

真白な毛布のような石板の上で
 悦楽に耽るインドラ（山の破壊者）が
 手にする悦楽も大したことはない
 かの成就者の聖地は心の底から笑い飛ばす。(187)

ri 'joms 「インドラ（山の破壊者）」 サンスクリットの *gotrabhid* もしくは *adribhid* に由来する表現。インドラもしくはシャクラを意味する詩的語彙である。

rnam sgeg 「悦楽」 サンスクリットの *vilāsa* に相当する語である。三十三天において天人・天女達を従えるインドラが獲得する様々な欲望対象 ('*dod yon*) によってもたらされる快樂のことを指している ('*Bab stegs* 162.5ff.)。

རབ་དགའི་དགའ་སྟོན་དཔལ་འབྱོར་འདི། །
 ལག་ལྗན་རྒྱུང་མ་གཡོ་མེད་དུ། །
 རྟོན་ཐག་གདགས་སའི་དབུག་པ་སྟེ། །
 ཐིག་ལེ་ཅན་གྱི་ཡིད་འཛིན་གྲོང་། །
 འདི་ལས་གཞན་ན་ཐར་བ་ཡི། །
 བདེ་བ་གྱུ་ཞེས་རྒྱུ་ཡིན་ཞེས། །
 ཚོས་དཀར་རྒྱ་ཚེན་མཁྱེན་པ་རྣམས། །
 བཟླས་བཅོམ་ཕྱིང་བས་སོར་སོ་བྲེལ། །

188c: རྟོན་ Σ; གདོས་ Thimphu. སའི་ Σ; པའི་ Thimphu. སྟེ་ Σ; རྟེ་ Thimphu.

188g: རྒྱུ་ Σ; རྒྱལ་ Thimphu.

188h: ཕྱིང་ Σ; འབྱོར་ Thimphu.

喜びに満ちた饗宴の盛大さを具備するこの地は
 象（手を持つ者）の妻達を身動きできないように
 つなぎ止める縄が付けられた杖であった。
 「象（斑点模様を持つ者）の心を魅了する
 この里を除いてどこか他の所に解脱という
 妙なる安楽があるといったら嘘である。」
 こう言って広大な白法を知る賢者達は
 讃辞の読誦という数珠で指先を忙しく動かした。(188)

lag ldan chung ma g-yo med du... 「象（手を持つ者）の妻達を身動きできないように…」 喜びに満ち溢れる森で暮らす雌の象達は、他の場所に全く魅力を感じなくなり、同じ森の中にとどまり続けた。それゆえ、この森はあたかも象達をつなぎとめる縄が付いた杖のような場所であった ('*Bab stegs* 163.4f.)。

thig le can gyi yid 'dzin... 「象（斑点模様を持つ者）の心を魅了する…」 誇張表現である。ガウダ様式に特有の「愛らしさ」という美質（mdzes pa'i yon tan）が認められる（Track 20, 20:10）。

བཟུགས་འོས་བཟུགས་པར་མི་བྱེད་པར། །
བདག་ཅག་ཁ་ཡི་ཁང་བཟང་ན། །
བདེ་བར་གསོས་པ་དོན་མེད་ཅེས། །
རོ་འཛིན་ཚོགས་འདི་ཅིག་ཆར་སྟོག། །

189a: བྱེད་པར་ ཟ; བྱེད་ན་ Thimphu.

189b: ན་ ཟ; ནང་ Thimphu.

189d: ཆར་ Zhal, Mkha'; ཅར་ Gser, Thimphu, Bkra. སྟོག་ ཟ; སྟོགས་ Gser.

「称賛すべきものを称賛しないならば
せっかく私達を口という屋敷の中で
気持良くお世話してくれても無駄である。」
このようにこの舌達は異口同音に話すのであった。(189)

bde bar gsos pa 「気持良くお世話してくれても」 美味しい食べ物を口（＝屋敷）の中に運ぶことを表している（'Bab stegs 163.13f.）。ここでは人々の舌が、屋敷に招かれた客人として擬人化されており、詩的空想の技法が用いられている（Track 30, 22:15）。

བྱ་རམ་ཤིང་ནི་ཁ་བ་དང་། །
བདུད་རྩི་རོ་བོ་མེད་བཞིན་པ། །
རབ་བསིལ་མ་དང་འགྲོགས་པ་ཡི། །
རབ་དཀར་འདི་ཡིས་ལྷ་བ་འཛོམས། །

190d: ཡིས་ ཟ; ཡི་ Thimphu.

砂糖黍さえも苦いものを感じさせ
甘露の味さえも不味いものに思わせるような
愉樂をもたらす女との交わりの
清らかさは月の白さを打ち負かした。(190)

'grogs pa yi rab dkar 「交わりの清らかさ」 ラーマナとシーターの交わりの行為は罪悪をもたらさない行為、すなわち白業（las rab tu dkar ba）であった。その行為の清らかさ——あるいは白さ（rab dkar）は、月の白さをも凌駕するものであった（Dgongs rgyan 179.2ff.）。

[18] ラーマナ軍の兵士達を復活させる

དཔའ་བོའི་རྒྱ་ལས་ཐར་བ་ཡི། །
རི་བོང་གཞོན་ཕུའི་གདོང་པ་ནི། །
རྒྱ་བ་ཏུ་ཕྱོགས་ཤིང་རྒྱ་གཞུང་ན། །
མང་པོའི་མདོག་ཅན་འགའ་ཞིག་ནི། །
སྤྲོས་པ་རྒྱུ་རྒྱུས་ཡིད་འཛོམས་གང་། །
ལྷུ་པ་ཀར་ཆའི་རྩུང་ཏུ་སོང་། །

191b: རོང་ཟུག་ཡི་ཐིམ་ཕུ།

191e: འཛོལ་ཟུག་འཛོལ་ཐིམ་ཕུ།

勇者達の網の目から逃れた
 兎の若者の面を持つ者が
 後ろを向きながら疾走するようにして
 羅刹（多色者）の残党が
 ラーヴァナの弟である禪定行者
 ウパカルナの前に辿り着いた。(191)

ri bong gzhon nu'i gdong pa ni rgyab tu phyogs shing rgyug ldan pa 「兎の若者の面を持つ者が後ろを向きながら疾走するようにして」 兎の模様を有する月が西の方角に沈む様子を表している。月という若者が追手を気にして後ろを振り返りながら一目散に西の方角に駆けて行くように、羅刹の残党もまたラーマナ軍の追手を気にして後ろを振り返りながら疾走する（'Bab stegs 165.7f.）。

mang po'i mdog can 「羅刹（多色者）」 サンスクリットの *karbura* に由来する表現。srin po 「羅刹」を意味する詩的語彙である。

འོ་དོད་འབོད་པ་བརྒྱ་བྱས་ཀྱང་། །
 ཏིང་འཛོལ་གཡོ་བར་མ་རྒྱས་ཏེ། །
 ལྷུག་བཞུལ་ལྷུས་ཀྱིས་བརྒྱུས་པ་ཡིས། །
 ཏུབ་ཏུབ་པོར་གྱུར་དེ་དག་གིས། །
 ལོ་ཚུ་ཚ་བས་རྒྱ་བ་ཡི། །
 བྱ་ག་རྣམ་པར་བསྐྱེགས་པར་གྱུར། །

192b: མ་ཟུག་མི་ཐིམ་ཕུ།

192d: ཏུབ་ཏུབ་ཟུག་ཏུབ་ཐིམ་ཕུ།

192f: བསྐྱེགས་ཟུག་ཐིམ་ཕུ།

悲痛の叫び声で何度呼びかけても
 三昧の状態から揺り動かすことはできなかったが
 苦痛のあまり息を詰まらせて
 慌てふためきながら彼らが
 熱した溶液を注ぐと耳の
 穴を焼き焦がすことができた。(192)

rna ba yi bu ga rnam par bsregs par gyur 「耳の穴を焼き焦がすことができた」 羅刹の残党は熱した溶液をウパカルナの耳の穴に注ぎ込むことによって、彼の禪定を停止させ、覚醒状態にすることに成功した（'Bab stegs 165.17）。

བསམ་གཏུན་ཚང་གིས་ལྷུས་པ་ལས། །
 མངས་པ་དེ་ལ་གི་བ་དང་། །
 རྗེས་མཐུན་ལོ་རྒྱུས་གཏུན་སྐྱེས་པ། །
 མཁྱེན་པར་མཛོད་ཅིག་ལྷུས་ཀྱི་མགོན། །
 ཀྱི་མ་དྲག་པོའི་མཚོད་སྐྱེན་བརྒྱུད། །
 ཉི་མ་ལས་ནི་དཀའ་བསྐྱོད་མཐོང། །

དམོད་པ་མེ་ཁྲེན་སྟོབས་ལྡན་ཏེ། །
 མ་ཡིས་གདོང་ལྡན་པམ་བྱས་བཞིན། །
 སྤྱུའི་ཚོགས་ཀྱིས་སྲིན་པོ་བསང། །
 ར་ཡབ་དུར་ཁྲོད་ཚེན་པོར་གྱུར། །

193g: པ་ ཟ; པའི་ Thimphu.

193j: ཚེན་པོར་ ཟ; ཚེནོར་ Thimphu.

禅定という酒の酔いから
 覚めた彼に向かって彼らは絶滅同然と
 なってしまった事の経緯を話した。
 「生類の守護者よ、どうかお聞き下さい。
 ああ、ルドラのための幾百もの供犠という
 太陽よりもウマーの呪いという
 蜚は遥かに強力でありました。
 狐が獅子（五面の者）を倒すように
 猿の大群が羅刹達を殺しました。
 チャーマラ島は巨大な墓場となりました。」(193)

drag po'i mchod sbyin brgya'i nyi ma 「ルドラのための幾百もの供犠という太陽」 ルドラとは大自在天シヴァのこと。物語の冒頭でラーヴァナが実行した供犠のことを指している（'Bab stegs 166.12f.）。ツァン地方に伝わる伝本には mchod sbyin 「供犠」の代わりに mchog sbyin 「贈り物の贈与」とする読みがあるという。これに従うならば、シヴァがラーヴァナに対して行なった「不死の境地」という贈り物の贈与行為よりも、ウマーの呪いの方が強力であったと理解することができる（'Bab stegs 166.19ff.）。

gdong lnga 「獅子（五面の者）」 サンスクリットの pañcānana に由来する表現。seng ge 「獅子」を意味する詩的語彙である。ここで「獅子」は羅刹を表し、「狐」は猿の大群を表している（'Bab stegs 166.16f.）。

ཞི་བར་འདོད་པའི་ཚེ་མོ་ཅན། །
 རླུང་གིས་གཙུགས་ན་འབར་འགྱུར་ཏེ། །
 མོ་དང་འགྲོགས་ན་ཚན་དན་ཡང་། །
 སྲིག་པར་བྱེད་པ་བསྐྱེད་པར་ངེས། །
 མིག་མེར་ཞེས་བྱའི་ནད་བྱུང་ན། །
 ལྷ་བ་རང་ཉིད་གསེར་དུ་སྟོན། །

194b: གཙུགས་ ཟ; རླུབ་ Thimphu. འགྱུར་ ཟ; གྱུར་ Zhal, Bkra. ཏེ་ ཟ; ཞིང་ Thimphu.

194d: སྲིག་ ཟ; བསྐྱེས་ Thimphu.

消えることを望んでいた炎（尖端を有するもの）も
 風に掻き乱されれば燃え上がる。
 火と交われれば梅檀の樹も
 燃焼作用をもたらすのは当然のこと。
 黄疸という病気にかかれば
 月も自らを金色に見せるようになる。(194)

me dang 'grog na tsan dan yang 「火と交われば梅檀の樹も」 梅檀の樹は清涼感 (bsil ba) をもたらすという性質を持つが、そこに火が起これば、物を燃焼する働きを持つようになる ('Bab stegs 167.19f.)。

mig ser zhes bya'i nad byung na... 「黄疸という病気にかかれば…」 月は本来的には白色であるが、黄疸患者の前では金色の姿を現す ('Bab stegs 168.2ff.)。

ཞིབ་པ་དེ་འཕྲུགས་ནས་ནི།
 ལྷ་བྱག་གཉིས་ལས་དུས་མཐའ་ཡི།
 མཚོགས་འགོ་དམར་པོའི་བཞེན་པ་ཅན།
 རྩལ་ཚོགས་ཀྱིར་བའི་དཔུང་གི་ཚོགས།
 སྤྱོད་པས་སྤྱེའུ་རྩལ་པོ་དང་།
 རྩལ་པོ་ལས་གཞན་ཀྱང་རྩལ་བྱས།

195a: ཅས་ ཟ; ཅ་ Thimphu.

195b: བྱག་ ཟ; བྱ་ Thimphu. ལས་ ཟ; ཅས་ Thimphu. མཐའ་ཡི་ ཟ; མཐའི་ Thimphu.

195d: ཀྱིར་ ཟ; འཕྲུར་ Gser.

195e: སྤྱེའུ་ ཟ; སྤྱེ་ Gser.

かの意識を鎮める者はかき乱され
 鼻の両穴から劫末の時に現れる
 疾風（赤い馬に乗って素速く進む者）という
 砂塵を運び去る軍隊を
 送り出すと猿の王（ハヌマンタ）と
 王（ラーマナ）を除く者達を骸骨にしてしまった。(195)

zhi ba pa 「意識を鎮める者」 禪定を實踐する行者 (bsam gtan pa) ウパカルナのことを指す ('Bab stegs 168.8f.)。ウパカルナは色界・無色界の静 (zhi ba, *śānta) なる属性と欲界の鹿 (rags pa, *audārika) なる属性を行相とする禪定 (zhi rags rnam pa can gyi ting nge 'dzin) を實踐する行者である。この種の禪定を實踐すると一時的に意識を鎮めることができるが、意識をかき乱す要因が発生すれば直ちに精神集中は途切れてしまう ('Bab stegs 168.5ff.)。

mgyogs 'gro dmar po'i bzhon pa can 「疾風（赤い馬に乗って素速く進む者）」 mgyogs 'gro 「素速く進む者」はサンスクリットの turāṅga に由来する表現。rta 「馬」を意味する詩的語彙である。したがって、mgyogs 'gro dmar po'i bzhon pa can という表現を rta dmar can 「赤い馬に乗る者」と言い換えることができる。rta dmar can はサンスクリットの rohitāśva に由来し、一般的には火神 (agni) を意味するが、ここでは rlung 「風」を意味する詩的語彙として用いられている（第28詩節を参照）。要するに暴風 ('thor rlung drag po) のことである ('Bab stegs 168.10f.)。

གང་ཡང་དབུལ་བོའི་ལུ་རྩུར་གྱིས།
 དདུལ་རྩུའི་ཐིགས་པ་བཅེངས་པ་བཞིན།
 དམ་པ་རྣམས་ཀྱི་ཡིད་ལ་ནི།
 ལྷོ་བ་རིང་དུ་མི་གནས་སོ།

196a: བོའི་ ཟ; བའི་ Gser.

196c: ལ་ Thimphu; ལས་ ཟ.

ちょうど貧者の握りこぶしで

水銀の雫をつかんだ時と同じように
 聖者達の意識の中に
 怒りが長く留まることはない。(196)

gang yang dbul bo'i khu tshur gyis... 「ちょうど貧者の握りこぶしで…」 愚かな貧者が手にした水銀を大切にしようとするあまり強く握りしめると、水銀は瞬時にしてこぼれ落ちてしまい、手の中に長く留まることはない（'Bab stegs 169.5ff.）。

བསམ་གཏན་ཟས་ལ་སྲིད་པ་དེ། །
 གཡོང་བར་གནས་པའི་གནས་མེད་དེ། །
 མ་ཡི་ལ་དུ་ལ་སྲིད་པའི། །
 ཕྱིས་པ་ཤེས་ལྡན་དལ་བར་མིན། །

197d: དལ་བར་ Thimphu; དལ་བ་ Σ.

禅定という食糧を欲しがっている彼には
 意識が散乱したままでいる暇などない。
 母の砂糖菓子を欲しがっている
 利口な子は漫然と時を過ごさない。(197)

bsam gtan zas 「禅定という食糧」 深い禅定の中で得られる軽安（shin sbyang, *praśrabdhi）すなわち心身の心地良さのことである（'Bab stegs 169.9）。

la du la sred pa'i 「砂糖菓子を欲しがっている」 la du (Skt. laḍḍu) はインドの甘い砂糖菓子である（第36詩節を参照）。sred pa は未だ砂糖菓子をもっていない子がそれを欲しがっている状態（sred pa = 「欲しがっている」）を表している。以下に示すように、もし第四詩脚を ngal ba min 「疲れることがない」と読むならば、sred pa は砂糖菓子をもらって食べている子がそれを貪り食う状態（sred pa = 「貪っている」）を表すと理解せねばならないであろう。

dal bar min 「漫然と時を過ごさない」 四つの刊本は全て ngal ba min 「疲れることがない」という読みを与えるが、ティンプーで出版された手書き写本が与える dal bar min という読みに従い、なおかつこれを「漫然と時を過ごさない」（rang dgar mi sdod）という意味で理解する。シェルシュルワは ngal ba min という読みに基づき、rtag tu de za ba la ngal ba min 「常にそれを食べ続けることにおいて疲れることがない」と註釈する（'Bab stegs 169.12）。ただし、その場合、詩節の後半部は、砂糖菓子をもらって食べている子が飽きることなく食べ続ける様子を描写していることになるので、禅定を中断させられたウパカルナが急いで再び禅定に戻ろうとする様子を描いた前半部との整合性が成立しないことになる。また、ジャバが提示する別の解釈によれば、ngal ba min は ngal ba bsten pa min 「努力を講じることがない」を意味する。確かに ngal ba はサンスクリットの śrama に相当し、「努力」を意味することもある。ジャバによれば、母からもらった砂糖菓子を貪る子は他の食べ物を享受する（zas gzhan longs su spyod pa）ために努力することはない（Mun sel 313.9f., 313.21f.）。

ན་རི་བྱ་དང་མི་འདྲའི་དཔུང་ཚོགས་རུས་པའི་ལྷན་ཅན་གངས་རི་ཕམ་བྱེད་རང་རང་ལུས། །
 མཐའ་དག་སོ་ཡི་སྲིང་བ་ཉིད་བགྱིས་གཡུལ་ངོའི་མད་བྱང་རང་ཕྱོགས་དགེ་ལ་དགོད་པ་བཞིན། །

198b: སྲིང་ Σ; འསྲིང་ Thimphu.

人の子とは異なる兵士達は骨だけの身体になり、白雪に覆われた山を圧倒してめいめいの身体は

いづれも歯の並びばかりをあらわにし、戦場の驚くべき様子や自分達の陣営の勝利を目にしてまるで笑っているかのようであった。(198)

na ra'i bu dang mi 'dra'i dpung tshogs 「人の子とは異なる兵士達」 サンスクリットの nara 「人」という単語が用いられている。ここに描写されるのは猿の兵士達であるので、「人の子とは異なる」と表現される (*Mun sel* 314.15)。

gangs ri pham byed 「白雪に覆われた山を圧倒して」 兵士達の骨の白さは雪山の白い輝きをも圧倒するほどであった (*'Bab stegs* 170.2f.)。

so yi phreng ba nyid bgyis 「歯の並びばかりをあらわにし」 直訳は「歯の並びのみにした」。シェルシュルワの註釈に従い、bgyis 「～にした」を gsal zhing mngon par bgyis 「明らかにし、あらわにした」と理解する。また、シェルシュルワは so yi phreng ba nyid kyis 「歯の並びによって（笑っているかのようであった）」という読みが正しいのではないかという推測を述べている (*'Bab stegs* 170.5ff.)。

དཔལ་ཆེན་ཏུ་མན་ཐའི་ཡབ་ཀྱིས་དུར་ཁྲོད་ཀྱང་རུས་འོད་རིས་སྐལ་བཟང་བྱེད་པའི་སྐྱེ། །
 ཇོ་རུའི་བྱ་མའི་འོ་མའི་བརྩུང་འཛིན་ལྷ་ཡི་རི་བོ་ཇོ་མ་བུ་བློའི་འབྲུལ་མེད་གྲོགས། །
 བྱ་བ་བྱས་གང་སྲིད་པའི་སྦྱོར་བྲལ་ཡན་ལག་འབྱུང་ཞེས་དུར་སྐྱིག་ཚོན་གྱིས་ཕྱོགས་དག་ལ། །
 འོད་དམར་འགྲེམས་མཛེད་མཛེས་ཀྱི་དབང་ཀུན་ལ་འོ་མ་མོན་གྱུར་འཁོར་ཚོགས་དང་སྦྱོ་ལག་མོར་རུམ་པས་
 སྦྱིང་ཁ་མཛེས། །
 དེ་དག་ནམ་ཡང་དགོ་ལས་མི་གཡོ་སྦྱིལ་ཀྱང་འཛིན་བྱེད་ཚངས་པའི་བསྐྱེ་གནས་གྲུབ་པའི་གྲོང་། །

199a: དཔལ་ གྲ; དཔལ་ Thimphu. མན་ཐའི་ གྲ; མ་དའི་ Thimphu.

199b: ཇོ་ གྲ; འཛིན་ Thimphu. བློའི་ གྲ; བློའི་ Zhal; ཇི་ཤའི་ Thimphu; read བློའི་. འབྲུལ་ གྲ; འབྲུལ་ Thimphu.

199c: ཚོན་གྱིས་ཕྱོགས་དག་ལ་ གྲ; om. Thimphu.

199d: འོད་དམར་འགྲེམས་མཛེད་ གྲ; འོད་དམར་འགྲེམས་མཛེད་པ། ། Thimphu. དང་སྦྱོ་ གྲ; སྦྱོ་ལག་ Thimphu. རུམ་པས་ གྲ; རུམ་པས་ Thimphu. ཁ་ གྲ; ག། Thimphu.

偉大な勇者ハヌマンタの父（シヴァ）が語った。「墓場で光の模様を織りなす骸骨達に再び幸運をもたらす薬がガンジス河（ジャフヌの娘）の乳の滋養を含んだヒマーラヤ（神の山）にある。その山は閻浮樹といつも一緒にいる友人である。その人が行なった行為は何であれ輪廻への結びつきを結果しないアンガジャという名の者がそこにおいてサフラン色を用いて諸方に赤い光を撒き散らしている。心を自在に統御する一切の力を極めた彼の眷属の者達は、信心の喜びから指を閉ざして胸の前に美しさを添える。彼らは決して善行を怠ることなく結跏趺坐を組んでいる。そこはブラフマン神の住居であり成就者達の都である。」(199)

skal bzang byed pa'i sman 「再び幸運をもたらす薬」 骸骨と化した兵士達を生き返らせる薬である。シェルシュルワは「人間の若さという幸運を有するものにする薬」(mi'i lang tsho'i skal ba bzang bo dang ldan par byed pa'i sman) と註釈するが、正確には「人間」ではなく「猿」と言うべきであろう (*'Bab stegs* 171.3f.)。

yan lag 'byung 「アンガジャ」 アンガジャ (Aṅgaja, 因揭陀) は十六羅漢の一人である。戒定慧を完成することによって、輪廻へと結びつけるもの ([kun tu] sbyor ba, saṃyojana, 結) である九種の煩惱 (九結) を断じ、解脱を獲得した者である (*'Bab stegs* 171.10ff.)。

ngur smig tshon gyis 「サフラン色を用いて」 千三百人のアンガジャの眷属が身に付けているサフラン色の袈裟のことである（'Bab stegs 171.15f.）。

lag sor zum pas snying kha mdzes 「指を閉ざして胸の前に美しさを添える」 阿羅漢アンガジャの周囲には彼と同じく阿羅漢の境地に達した千三百人の眷属がいる。彼らは各自の胸の前で両手を合わせ、アンガジャに向かって合掌している（'Bab stegs 171.20ff.）。

ཉི་མམ་བཟུང་བྱས་ལྷ་བའི་ཕོ་ཕོ་ཕྱི་ཕོ་གཞགས་ནི་ནག་པོ་བཟུངས་འཛོམས་ཀྱི་མཚོའི་བཟུང། །
 བྱེ་བའི་སྤྱིང་བོ་བཟུང་ཕྱིའི་བུམ་པ་ལྷ་གུ་རེ་རེའི་ཁུ་བས་ཁངས་བྱེད་འཛི་མེད་ཟས། །
 ཨོ་མ་འདི་ཡིས་མགྲིན་ཐོན་མགྲིན་པ་དུང་དུ་སྐྱུར་བྱེད་དེ་དག་ཇ་ཡབ་ཕེ་མོས་མཚོད། །

200a: ཉི་མམ་ ཟ; ཉི་མའི་ Bkra. ལྷ་ ཟ; བྱས་ Thimphu.

200b: ཟས་ ཟ; བྱས་ Thimphu.

200c: སྐྱུར་ ཟ; བསྐྱུར་ Thimphu. ཇ་ ཟ; ཐོ་ Thimphu.

(シヴァ：)

「太陽によって崇拜され、月光の束に似ている薬草の集まりは毒素を撃退する。それは大海に含まれる夥しい滋養の精髓を吸い取った甘露水の壺のようであり、その一つ一つの芽から採れる液だけでも満足感を与えてくれるような神々（不死の者）の食物である。ああ、これがニーラカンタ（シヴァ）の喉を法螺貝の色に戻すのだ。それを扇の尖端で供養したまえ。」(200)

nyi mas brjed byas 「太陽によって崇拜され」 ヒマーラヤにある薬草は太陽の光を良く浴びて成長している（'Bab stegs 172.14f.）。

nag po brtsegs 「毒素」 サンスクリットの kálakūṭa に相当する語。「毒素」を意味する。

rgya mtsho'i bcud bye ba'i snying bo bdud rtsi'i 「大海に含まれる夥しい滋養の精髓を吸い取った甘露水の」 乳水攪拌の神話を念頭に置いた表現である。神々が海を攪拌することによって生じた甘露水（アムリタ）のことを指している（'Bab stegs 172.17ff.）。

mgrin sngon 「ニーラカンタ（シヴァ）」 乳水攪拌の神話の中で、毒を飲み込んだシヴァの喉は焼け、青黒く変色したことから、シヴァを別名ニーラカンタ (Nīlakaṇṭha) すなわち「青黒い喉を持つ者」という（'Bab stegs 173.1ff.）。

rnga yab rtse mos mchod 「扇の尖端で供養したまえ」 扇の尖端で受け取ってから、骸骨と化した兵士達の身体にかけなさい、という意味である（'Bab stegs 173.5f.）。

ནགས་ཚལ་བདག་པོའི་མཚོངས་གར་གྱིས། །
 དཔལ་ལྷན་གངས་རི་ཏི་ཤེ་བསྟེན། །
 ལྷན་གྱི་རིག་བྱེད་མ་གཤམས་པ། །
 དེ་ཡིས་འདོད་པའི་འབྲས་མ་རྟེན། །

201b: ཏི་ཤེ་ ཟ; བཏི་ས་ Thimphu.

201c: པ་ ཟ; པས་ Thimphu.

201d: རྟེན་ ཟ; རྟེན་ Gser.

森の主（ハヌマンタ）の跳躍の舞は
 栄光の雪山カイラーサに親近したが

薬草の学問に習熟していなかったので
彼は所期の結果を得ることができなかった。(201)

'dod pa'i 'bras ma rnyed 「所期の結果を得ることができなかった」 ハヌマンタは薬学の知識を持たないため、ヒマラーヤの山中で薬草でないものばかりを取って来てしまった。'bras は re 'bras 「所期の結果」を意味する（'Bab steps 173.19f.）。

མྱེད་མེད་སྲུ་ཡི་སྣོན་པས་འཆང་བས། །
གངས་རིའི་མགོན་པོ་ཡུངས་འབྲུ་བཞིན། །
ལག་པའི་མཐིལ་དུ་བཀོད་ནས་ནི། །
འབྲུལ་ནད་པའི་ཚོགས་དབུས་ཕྱིན། །

202a: ཡི་ ཟ; ཡིས་ Bkra. བས་ ཟ; བ་ Thimphu.

202b: ཡུངས་ Gser, Mkha'; ཡུང་ Zhal, Bkra; ཟུང་ Thimphu.

ナーラーヤナの力を具える者（ハヌマンタ）は
雪山の守護者（カイラーサ）をまるで芥子粒のように
手のひらの上に置いてから
肉を奪われた負傷者達の只中へと赴いた。(202)

sred med bu yi stobs 'chang bas... 「ナーラーヤナの力を具える者（ハヌマンタ）は…」 直前の詩節では、ハヌマンタが薬草とは関係のないものばかりをヒマラーヤ山中で取って戻った様子が描写されていた。この詩節ではハヌマンタが再び薬草を求めて一飛びでヒマラーヤに行った後の様子が語られている（'Bab steps 174.1ff.）。

ལོ་བརྒྱུད་བསྐྱམས་པའི་འཁྲི་ཤིང་ནི། །
སྐལ་ལྷན་ཤིང་རྟའི་རྒྱན་འབབ་པས། །
སྐད་ཅིག་ཉིད་ལ་ལང་ཚོ་ཡི། །
མེ་རྟོག་པོན་པོས་རྣམ་པར་མཛེས། །

203a: བསྐྱམས་ ཟ; སྐམས་ Zhal, Thimphu.

203b: འབབ་ ཟ; འབབས་ Thimphu.

百年間干からびていた葛の樹は
バギーラタの水流を浴びると
瞬時にして若さという
花束によって美しさを取り戻した。(203)

lo brgyar bskams pa'i 'khri shing ni... 「百年間干からびていた葛の樹は…」 この詩節では骸骨と化した兵士達の復活する様子が縮約表現（bsdus brjod, *samāsokti）によって語られている（Track 33, 2:55）。

skal ldan shing rta'i rgyun 「バギーラタの水流」 ガンジス河のことである（'Bab steps 174.19）。神話によれば、バギーラタ王（Bhagīratha）はガンジス河を天界から人間界へと将来し、その聖水によって、地底世界に落ちたサガラ王の六万の息子達の罪障を清めた。ハヌマンタがもたらした薬の液は、ガンジス河の聖水と同じように、骸骨と化した兵士達を復活させる効能を持っている。

དགའ་མའི་ཁ་ཡི་བུར་ཆང་གིས། །
 མྱོས་པས་མྱོ་བསངས་བ་ཀྱུ་ལ། །
 སོ་མྱེང་གི་སར་གསལ་བ་ཡི། །
 གད་མོས་འཇིན་མའི་ཁོར་ཡུག་འགོངས། །

204b: བསངས་ ཟ; བསང་ Zhal, བངས་ Thimphu.

美女の口移しのシードゥ酒に
 酔うと青黒いバクラ樹は
 歯並びという雄しべをむき出しにした
 笑いで大地の一面を一杯に満たした。(204)

dga' ma'i kha yi bur chang gis... 「美女の口移しのシードゥ酒に…」 バクラ樹は艶かしい女性の口から吹き付けられたシードゥ酒を浴びると花を咲かせると言われている (Track 33, 0:00)。第16詩節を参照。

sngo bsangs ba ku la 「青黒いバクラ樹」 トンドゥブギヤは sngo bsangs を「空」(nam mkha') という意味の名詞とみなし、「バクラ樹」が「空」を表す隠喩になっていると解釈する (Track 33, 0:43)。カンブムはこの解釈に疑問を呈している (*Dgongs rgyan* 191.2ff.)。

གང་གིས་རྟེན་ཀྱིས་བརྒྱ་ཡི། །
 ལྷན་པ་བྱངས་ནས་འབྱིན་པའི་སྐྱེ། །
 དམ་ཚེས་རིན་ཆེན་དང་མཚུངས་པར། །
 ཀྱན་དགའི་གཏེར་དེས་མཐའ་དག་ཚོམ། །

205b: བྱངས་ ཟ; བྱང་ Thimphu, Bkra.

205c: པར་ ཟ; པའི་ Thimphu.

それに触れれば数多の障害をもたらす
 不調が根こそぎ取り除かれるという薬は
 宝のような正法と同じように
 喜びの蔵となって皆を満足させた。(205)

gang gis reg na 「それに触れれば」 カイラーサ山から取ってきた薬草は身体に触れるだけで効力を発揮し、病や死といった障害をもたらす不調を根絶やしにする (*'Bab stegs* 175.16f.)。

གང་གི་རུས་པའི་དུམ་བུ་ཡང་། །
 མདའ་ལྗའི་བུ་མོ་སྐྱེངས་པའི་ལུས། །
 བྱེད་པ་འདི་ཡིས་རྟོག་འདོད་ལ། །
 རོ་ཚ་སྐྱེར་བས་གངས་རི་ཁེངས། །

206b: ལུས་ ཟ; ལས་ Zhal; ལུལ་ Bkra.

206c: རྟོག་ ཟ; གཏོགས་ Thimphu.

その薬は彼らの骨のかけらさえも
 カーマ（五本の弓を持つ者）の娘に恥をかかせる身体に
 作り変えた。このことが学問を探究する者に
 恥をかかせるので雪山は誇らしげであった。(206)

mda' lnga'i bu mo skyengs pa'i lus 「カーマ（五本の弓を持つ者）の娘に恥をかかせる身体」 骸骨と化した兵士達の骨のかけらさえも、カイラーサの薬草に触れると復活して美しい身体を取り戻し、カーマ神の美しい娘達を圧倒した。ましてや、全体を完備する骨が薬草に触れば、より一層美しい身体として復活するのは言うまでもない。カーマ神の娘達は兵士達の身体の美しさに圧倒され、自らの容姿を恥とさえ思うようになった（'Bab stegs 176.1ff.）。

rtog 'dod 「学問を探究する者」 病と薬の研究を完全に極めようとしている医学者達（nad dang sman gyi rtog dpyod la shin tu mkhas par 'dod pa'i 'tsho byed kyi tshogs）のことである（'Bab stegs 176.3f.）。彼らは自分達が習得した学問の知識では解明できない不可思議な現象を目の当たりにすると自らの無知を悟り、羞恥心を覚えたのである。gtogs 'dod という異読に従うならば、死者をさらって行く悪霊達も、兵士達が復活したことによって面目を潰されてしまったという意味で理解できる（'Bab stegs 176.5ff.）。カンブムの註釈によると、gtogs 'dod には大自在天（lha dbang phyug chen po）すなわちシヴァ神の意味もある（Dgongs rgyan 192.5f.）。

རྩོད་རྩོས་རྟེན་པས་འཆི་བ་སེལ་བའི་མཐུ་ལྷན་མིང་གི་སྤྲོ་ཆེན་རིང་བོར་གྲགས་ལྷན་རྒྱལ་བའི་ལུ་གུའི་ཚུ་གཏེར་
 མཚོད་ཡོན་ཟེགས་མ་ཅན། །
 གང་གི་ལྷོ་བར་རྐང་པ་རབ་བསྐྱེལ་མི་དེ་དག་ཀྱང་ཞི་བའི་རོས་ཆོས་ས་སྤང་བུ་ཡི་འདྲེན་ཕྱེད་ཚུ་ཤེལ་ཡི་ཁྲིའི་
 རུལ། །
 རྣམ་བཤའི་འོད་ཟེར་འོད་ལྷན་དུ་འཁྲུལ་སྤོན་གྱི་ལྷ་ཡི་སྤྱང་ཆེན་དེགས་པ་ཚུ་དང་གཅི་བ་གང་དགར་ཟག་ལྷན་
 སྤྱད་པ་ཡི། །
 རྩོར་ཅོག་མཚོག་འདིས་བདུད་དང་ལུ་སྟེགས་ཀ་ལན་ཏ་ཀའི་གཤོག་པ་ངལ་ཕྱེད་ཇོམ་བུ་རྣ་དའི་རྐང་འཁྲུང་
 གིས་བརྟེན་མ་པམ་མཚོའི། །
 ར་བར་གནས་བཅས་དཔལ་མོ་བྱབ་འཇུག་ཆགས་པའི་ལག་སོར་ལས་གཞན་ཚོད་པར་རུས་མིན་འཁོར་
 བསྐྱར་རྒྱལ་པོའི་ཞབས་མཐོལ་ས་ལ་མིན། །
 ཅ་ཏ་ཀ་ཡི་གཤུང་བ་སེལ་ཕྱེད་བསེལ་བའི་ཚུ་ནི་མཁའ་ཉིད་ལས་ཞེས་ས་སྤོད་ཀྱིས་སྤྲོ་བས་ལྷན་དམར་
 སེར་རྗེ་ལའོ། །

207a: རིང་བོར་ ཟ; རི་བོར་ Gser, om. Thimphu.

207b: སྤང་ ཟ; སྤངས་ Thimphu.

207c: གཅི་ ཟ; ལྷོ་ Thimphu.

207d: འོད་ས་ ཟ; འོདའི་ Thimphu. ལུ་ ཟ; ལུག་ Thimphu. ཀ་ལན་ཏ་ཀའི་ ཟ; ཀ་ལན་རྟ་ཀའི་ Thimphu. རྣ་དའི་ ཟ; རྣ་དའི་ Thimphu.

207e: དཔལ་མོ་ ཟ; དཔལ་མོའི་རུ་མ་ Thimphu. ཚོད་ ཟ; ཚེད་ Thimphu. འཁོར་བསྐྱར་རྒྱལ་པོའི་ ཟ; འཁོར་བསྐྱར་ Thimphu.

(ラーマナ：)

「マナサロワール湖はそれを見聞した者やそこに触れた者に死を払拭させる力を持っている。その名が持つ強い音の響きは遥か遠くまで知れ渡る。それは菩薩（勝者の芽）という海（水の蔵）に捧げるための闍伽水の雫を湛えている。

そのおなかの上で足を交差させる人達も、寂静の味によって満ち足りた思いにさせる。

それはアイラーヴァナ象の両目の間に、水晶と朱の顔料をまぶしたような色鮮やかな光を放つ太陽（光を有する者）があるのかという錯覚を起こさせる。だが、そこでは、阿修羅（かつての神）という威張り散らした象が水であれ尿であれ何でも好き放題に垂れ流しにしている。そこは輪廻世界の

最高峰の齧のような所である。この湖は魔物や外道というカラランダカ鳥の翼をくたびれさせる。閻浮樹が生育する場所であるそのマナサロワール湖の

柵として〔カイラーサ山は〕居場所を定めるべきである。女神ラクシュミーに対しては、欲情するヴィシュヌの手の指を除いて他の何かが傷跡を付けることはできず、転輪聖王の足の裏面が地面に触れることはなく、チャータカ鳥の渴きを癒すひんやりとした水は上空にしかないのだから。」このように王（ラーマナ）は語った。力強い猿（橙色をした者）の支配者（ハヌマンタ）に。
(207)

mthong thos reg pas 'chi ba sel ba'i mthu ldan 「それを見聞した者やそこに触れた者に死を払拭させる力を持っている」 マナサロワール湖の水は不適切な時に起こる死 (dus min 'chi ba, *akālamaraṇa) を防ぐ力を持っている ('Bab stegs 178.9)。

rgyal ba'i myu gu'i chu gter 「菩薩（勝者の芽）という海（水の蔵）」 rgyal ba'i myu gu 「勝者の芽」はサンスクリットの jinānkura に由来する表現。byang chub sems dpa' 「菩薩」を意味する詩的語彙である。ここでは菩薩が「海」という隠喩で表現されている。

gang gi lto bar rkang pa rab bsnol mi de dag 「そのおなかの上で足を交差させる人達」 マナサロワール湖の水の上に浮かび、結跏趺坐を組んで瞑想に耽る行者のことである ('Bab stegs 178.13f.)。

sa srung bu 「アイラーヴァナ象」 アイラーヴァナ (Airāvāṇa) とはインドラ神が乗る象の名前である。蓮華の根を食べるために、あるいは水浴をするために湖の中に入ったアイラーヴァナの両眼の間には、きらきらと光る水滴が付着している ('Bab stegs 178.10)。

'od ldan 「太陽（光を有する者）」 サンスクリットの bhāsvat に由来する表現。nyi ma 「太陽」を意味する詩的語彙である。

sngon gyi lha 「阿修羅（かつての神）」 サンスクリットの pūrvadeva に由来する表現。lha ma yin 「阿修羅」を意味する詩的語彙である。

bdud dang mu stegs ka lan ta ka'i gshog pa ngal byed 「魔物や外道というカラダカ鳥の翼をくたびれさせる」 マナサロワール湖は非常に広大なので、たとえ神通力を有する魔物や外道の行者がその大きさを測ろうとしても測りきれない ('Bab stegs 178.5ff.)。

dpal mo khyab 'jug chags pa'i lag sor las gzhan rtsod par nus min 「女神ラクシュミーに対しては、欲情するヴィシュヌの手の指を除いて他の何かが傷跡を付けることはできず」 ヴィシュヌはラクシュミーと戯れ、その胸部に手の指で傷跡を付ける。しかし、そのような行為はヴィシュヌのみに許されるのであって、他の者には決して許されない ('Bab stegs 177.17ff.)。

tsa ta ka yi gdung ba sel byed bsil ba'i chu ni mkha' nyid las 「チャータカ鳥の渴きを癒すひんやりとした水は上空にしかない」 チャータカ鳥 (cātaka) は空中で雨水を飲み、地面に落ちた水は決して飲まないと言われている ('Bab stegs 178.1ff.)。

གཞན་དོན་སྤང་ཅི་ལོན་འོས་ཀྱི།
འདུག་ལྗོན་འཕུར་ལྗོང་གིས་ངལ་ཏེ།
ལག་པ་ལག་ལྡན་ལྷོས་པ་ཡི།
སྣ་ལགས་ལྟ་བུས་གངས་རི་འཕངས།

208a: ལྷོད་ ཏ; ལྷོད་ Thimphu.

彼はただひたすら他者の利益という蜜のために
往来という飛行によって疲弊したので
まるで怒り狂った象（手を持つ者）の
鼻のような手で雪山を放り投げた。(208)

gzhan don sbrang rtsi kho na'i slad... 「ただひたすら他者の利益という蜜のために…」 隠れた主語はハヌマンタである。ここではハヌマンタが蜜蜂に喩えられ、他者（骸骨になった兵士達）の利益が「蜜」という隠喩で、ハヌマンタの往来が蜜蜂の「飛行」という隠喩でそれぞれ表現されている（'Bab steps 179.12ff.）。

མོན་སྲན་རྟེན་འཕར་འདྲ་བ། །
 ལུས་ངན་ཕྱོགས་ཀྱི་རྩལ་བརྟེན་སྲིད་པ། །
 མགོ་བོ་ཡོན་པོ་དུད་ནས་ནི། །
 ལྷོ་བ་མ་མཁན་པོའི་མདུན་སར་བཞིན། །

209a: རྟེན་ ཟ; རྟེན་ Mkha'; རྟེན་ Thimphu.

209c: མོ་ ཟ; མོ་ Mkha'; པ་ Bkra. རས་ ཟ; པ་ Thimphu.

まるで飛び跳ねたマーシャ豆の粒のように
 クベーラの方角に戻された山（砂塵の堆積）の王は
 頭を斜めに傾けて
 ちょうど弟子が師匠の前にいる時のようになった。(209)

mon sran rde'u 「マーシャ豆」 マーシャ (māṣa) 豆を地面に投げつける (sa la brdab) と上方向に飛び跳ねる (gyen du 'phar)。それと同じように、ハヌマンタによって放り投げられたカイラーサ山も地面に落下するや否や、その反動で上方向に飛び跳ね（隆起して）高く聳える山となった（'Bab steps 179.17ff.）。

lus ngan phyogs 「クベーラの方角」 北の方角のことである。クベーラ (Lus ngan; *Kubera) は毘沙門天 (Rnam thos sras, *Vaiśravaṇa) の別名。北の方角はクベーラ神によって守護されるので「クベーラの方角」 (lus ngan phyogs, *kauberī) と呼ばれる。

rdul brtsegs dbang 「山（砂塵の堆積）の王」 rdul brtsegs 「砂塵の堆積」は ri 「山」を意味する詩的語彙である。「山の王」とはカイラーサ山のことである。

[19] 終結部

ནས་དཔྱེད་ནས་པར་ཡངས་པའི་ཕྱོན་གྱིས་ནམ་མཁའི་ཚད་འཇལ་རྒྱ་ཆེན་ཀུན་མཁྱེན་མཁྱེན་པའི་དཔེ་ཡིས་
 རྗེས་སུ་དཔག་བྱ་ཤེས་བྱའི་དཀྱིལ་འཁོར་ལག་པའི་མཐིལ་གང་མངོན་སུམ་ཉིད་དུ་གསལ་བྱེད་པ། །
 ལྷ་མེད་འདི་ཉིད་སྤྲོ་མ་ཡང་ནི་སྤྲོ་མ་མིན་བྱེད་བྱས་འཇུག་དངངས་པས་སོར་སོའི་ཚོགས་ཀྱིས་འཁོར་ལོ་སྤྲོར་
 རིང་ཀུན་ལས་རྒྱལ་བའི་བོ་ཚོན་ཅན་ནི་དབྱུག་གུ་བྱལ་བའི་ལོང་བ་ཉིད། །
 ཕྱོགས་ཀུན་བསྐྱད་པའི་མགོན་པོའི་གོ་སར་མཁས་པའི་ཚོགས་འགོད་སྤྱོད་དབྱེད་འགྲུར་བྱས་ཀྱིས་བུ་ལ་
 རྒྱགས་ཏམ་བུ་ར་ཡི་རྒྱུང་མའི་མགོན་པ་ལྷ་ཏའི་ང་རོའི་ངང་རྒྱལ་ལ་འཇུག་ཡི་གེ་གསལ་བའི་གོ་སྤྲོད་སྤྲོད་
 རྒྱགས། །
 ངག་རིག་ཚོགས་འདི་ཐལ་མོ་སྤྲོར་བའི་ཡིད་ཀྱི་ལམ་དུ་དྲན་དབང་འདི་ཡི་སྤྲོན་ངག་ཤིང་རྟ་རྟ་ཏུ་འདྲེན་བྱེད་
 རྒྱལ་ལུགས་འདི་མཐོང་ལུགས་གཞན་དག་ནི་རྒྱལ་ལོད་ཀྱིས་བཀག་རྒྱ་ཤིང་ཉིད། །

210a: རས་མཁའི་ ཟ; མཁའ་ཡི་ Thimphu. ཀུན་མཁྱེན་མཁྱེན་པའི་ ཟ; ཀུན་མཁྱེན་པའི་ Thimphu. སུམ་ ཟ; གསལ་
 Thimphu.

210b: སྤྲོ་མ་མིན་ ཟ; སྤྲོ་མ་ཡིན་ Thimphu. དངངས་པས་ ཟ; དངས་པའི་ Thimphu. དབྱུག་གུ་ ཟ; དབྱུ་གུ་ Mkha',
 Thimphu, Bkra.

- 210c: མཁས་པའི་སྤྱི་ལོ་མཁས་པས་ Zhal. མཁོན་སྤྱི་ལོ་མཁོན་ Thimphu. ལྷ་དབྱངས་འགྱུར་ལྷགས་ཕྱི་བ་ལ་སྤྱི་ལོ་མཁོན་པ་ Thimphu. ངང་ལྷུ་ལ་འཇུག་སྤྱི་ལོ་མཁོན་པ་ Thimphu. ལྷོགས་སྤྱི་ལོ་མཁོན་ Thimphu.
 210d: རྒྱ་མཚོ་མཁོན་ Thimphu, Bkra; རྒྱ་མཚོ་མཁོན་ Zhal, Gser, Mkha'. དྲན་དབང་འདི་ཡི་སྤྱི་ལོ་མཁོན་པ་ Mkha'.

私の知性というものは、巨大な物差しで天空の大きさを測るような仕方で一切の広大な事物を知る智慧を例にして推し量るべきものである。所知全体をまるで手のひらの上にあるものを明らかにするように眼前のものとして明らかにする
 まさにこの無類の智慧は、師と言われる人達の師としての立場も失墜させ、ヴィシュヌを恐怖に陥れることによってその指先から円盤（チャクラ）を落下させ、一切に勝利する死神ヤマ（棍棒を持つ者）を杖を失った盲人も同然にしてしまう。
 それは方角を全て見失って迷子になった客人の地位に学者達を置き、数多の歌の旋律を奏でるサラスヴァティー（タンブーラの妻）の喉も烏の怒鳴り声を鳴らすに等しいものにし、きれいな言葉を発する機会を奪い取る。
 ここに両手を合わせている詩論家達の心という道に、この私という賢者（記憶の王者）の美文詩という馬車が絶えず引かれて来るさまを目にすれば、他の諸々の伝統は洪水によって遮られた芭蕉も同然となる。(210)

rnam dpyod 「私の知性」 シェルシュルワによれば、二諦（勝義諦と世俗諦）に包摂される一切の認識対象のあり方を分析する私の智慧（*bden pa gnyis kyis bsdus pa'i shes bya'i gnas la rnam par dpyod pa'i kho bo'i mkhyen rab*）である。この詩節では作者が自身の知性の高さを自慢（*zhal pho*）し、それは仏陀の一切智に比せられるべきものであると述べている（'Bab *stegs* 182.2ff.）。作者がこのような自慢の言葉を語っている理由は、シェルシュルワによれば、「ゲルク派にすぐれた詩人はいない」という当時の悪評を払拭するためか、もしくは同時代の作家達の慢心を打ち砕くためである（'Bab *stegs* 183.7ff.）。

be con can 「死神ヤマ（棍棒を持つ者）」 サンスクリットの *gadādhara* に由来する表現。死者の国を支配するヤマ（Yama, 閻魔）を指す（'Bab *stegs* 182.14）。ジャバの解釈によれば、「棍棒を持つ者」は「杖を持つ者」すなわちダンディン（*Daṇḍin*）を暗示する。すなわち、作者チューワンタクパの詩の才能はインドの偉大な詩人ダンディンのそれをも凌駕するということがここで意図されている（*Mun sel* 335.22f.）。

tam bu ra yi chung ma 「サラスヴァティー（タンブーラの妻）」 タンブーラはガンダルヴァ（*Gandharva*, 乾闥婆）の別名である。サラスヴァティーはタンブーラの妻であるとされる（'Bab *stegs* 182.19）。

dran dbang 「賢者（記憶の王者）」 *mkhas pa* 「賢者」を意味する詩的語彙である。

chu 'od kyis bkag chu shing 「洪水によって遮られた芭蕉」 シェルシュルワは *chu 'od kyis bkog* 「洪水によって抜き取られた」という読みが正しいのではないかという推測を述べている（'Bab *stegs* 183.6f.）。

མཁས་པའི་ལོ་མཁོན་པས་མཁོན་པ་ལྷོ་།
 དྲན་དབང་འདི་ཡི་སྤྱི་ལོ་མཁོན་པ་།
 ལྷོགས་སྤྱི་ལོ་མཁོན་པ་།
 འགྱུར་ལྷགས་ཕྱི་བ་ལ་སྤྱི་ལོ་མཁོན་པ་།

211d: བཞེན་སྤྱི་ལོ་མཁོན་པ་ Thimphu.

広い視野を持つ私の眼によって
 けがれのない鏡は一切の事物という

顔を一齐に映し出すものとなった。その鏡が
 ここなる人々の光として用いられることを願う。(211)

mig yangs kho bo'i mig gis ni 「広い視野を持つ私の眼によって」 mig という語が繰り返して使用される。シェルシュルワは前者の mig を blo gros kyi mig 「知恵という眼」、後者の mig を rnam dpyod kyi mig 「考察という眼」として理解する（'Bab stegs 183.16f.）。しかし、「知恵という広い眼を持つ私の考察という眼によって」という解釈が意味をなすかは疑問である。mig yangs は文字通りには「広い眼」もしくは「切れ長の眼」を意味するが、おそらくカンブムの註釈が示すように、mthong rgya yangs pa 「広い視野」を意味するのであろう（Dgongs rgyan 200.3）。

dri med me long 「けがれの無い鏡」 過失というけがれの無い善説（legs bshad）すなわち本書『ラーマナ王物語』のことを指す。この鏡は本来的に事物を映し出す性質を持つが、作者チューワクタパの眼で観察されることによって、知られるべき一切の事物を映し出す鏡となった（'Bab stegs 183.16ff.）。

dngos kun gyi gdong ba cig car snang ba can 「一切の事物という顔を一齐に映し出すものとなった」 シェルシュルワとカンブムは動詞 bskrun 「生み出された」を補って理解する（'Bab stegs 183.18; Dgongs rgyan 200.6）。これを参考にして「…を映し出すもの（…の顕れを有するもの）となった」と解釈した。

གོགས་དག་ཕུགས་ཀྱི་ར་བར་ནི། །
 གསེར་གྱི་འཁྲི་ཤིང་འདི་སྐྱེས་ཏེ། །
 མིག་དག་དོན་ཡོད་བྱེད་པ་དག །
 དལ་བར་འདུག་པ་མི་རིགས་སོ། །

212a: དག་ཕུགས་ ཏ; དབང་ཕུག་ Thimphu.

212b: སྐྱེས་ ཏ; སྐྱེད་ Thimphu.

212d: པ་ ཏ; པར་ Thimphu.

おお友よ、内奥の柵の中に
 この黄金の葛の樹が生じた。
 両目を有意義なものにしようとする者達は
 のんびりと過ごしている場合ではない。(212)

phugs kyi ra bar... 「内奥の柵の中に…」 作者の智慧（mkhyen dpyod）の中心部（mthil = phugs）から詩想が生まれ、『ラーマナ王物語』が著作された様子を描写している（'Bab stegs 184.5ff.）。

gser gyi 'khri shing 「黄金の葛の樹」 本書『ラーマナ王物語』を暗示している。ただし、「黄金の葛の樹」という比喩基準のみが示され、それによって暗示される比喩対象は明示されない。非明示的隠喩（sbas pa'i gzugs can）の技法が用いられている（Track 35, 3:25）。

མད་བྱང་ཤིང་རྟེན་སྐྱེས་བཏང་ནས། །
 གནག་གི་ལམ་ཏུ་འདུག་བྱེད་པ། །
 དེ་དག་བདག་གིས་ནམ་ཏུ་ཡང་། །
 ལང་བཟང་བདེ་བར་ཇི་ལྟར་བགྱ། །

213c: གིས་ ཏ; གི་ Thimphu.

213d: ལང་ ཏ; ལང་ Thimphu.

稀有なる馬車の轍を捨てて
 家畜の道へと進んで行く者達がいる。
 そんな彼らを私は一体どうして
 宮殿の悦楽へと導くことができようか。(213)

shing rta'i srol 「馬車の轍」 チベット仏教文献においてこの用語はアサンガによって創始された唯識説と、ナーガールジュナによって創始された中観説という大乘仏教の二つの説を指すが、ここではインド・チベットの詩人達が継承してきたインド南部ヴィダルバ地方の流儀とインド東部ガウダ地方の流儀という二つの詩の流儀を指している（'Bab steps 184.18f.）。この詩節では縮約表現の技法が用いられている（Track 35, 7:00）。

gnag gi lam 「家畜の道」 愚者（blun rmongs）を「家畜」と表現している。「家畜の道」とは知性に欠ける劣った詩人達が語る野鄙な言葉（grong tshig）のことである（'Bab steps 184.20）。

དོ་ཡི་སྒྲ་ཅན་ཚུ་ཤེལ་གྱི།
 དྲི་མེད་ཐེམ་སྐས་ལ་ཁྲིད་ནས།
 རྣམ་པར་རྒྱལ་བའི་ཁང་ཆེན་དུ།
 བརྒྱ་བྱིན་གྱིས་ཀྱང་གཞུག་ལུས་མིན།

214d: གྱིས་ ཟ; གྱི Thimphu.

豚（石のような固い鼻を持つ者）を
 純粹無垢の水晶の階段の所まで導いて
 ヴァイジャヤンタ大宮殿に
 入れることはシャクラでも不可能である。(214)

rdo yi sna can 「石のような固い鼻を持つ者」 野生の豚のことである。豚は不浄（mi gtsang ba）を好むとされる。シェルシュルワによれば rna can 「耳を持つ者」という異読もあり、それに従えばロバ（bong bu）の意味で解釈することができる（'Bab steps 185.7f.）。

rnam par rgyal ba'i khang chen 「ヴァイジャヤンタ大宮殿」 シャクラ（インドラ）が住む宮殿。三十三天の世界にある（'Bab steps 185.6）。

དེ་ལྟར་རངས་བྱེད་བཞུགས་དང་ནགས་གནས་རྗེའི།
 སྤྱོད་ཚུལ་ཞི་དང་བདེ་ལྡན་སྤྱོད་བ་ཅན།
 ཉམས་ང་བ་དང་དཔའ་དང་ཤིས་པ་ཡི།
 རོ་མཚར་སྤོང་གི་རི་མོ་བྱ་བ་ཡི།
 ལྷན་དང་གས་སྤྱོད་དབྱངས་སྤྱད་བུས་ཉེ་བར་བྲེས།

215b: སྤྱོད་ ཟ; སྤྱོ Thimphu.

215c: ཤིས་པ་ཡི ཟ; རབ་ཤིས་པའི Thimphu.

215d: དང་གས་ ཟ; དག Thimphu.

かくして歓喜と旅と森に住む主の
 隠遁生活と幸せな生活と王族の振る舞いと
 受難と武勇と吉祥からなる
 驚嘆すべき千の色鮮やかな絵という
 美しい詩の調べを織り糸で作り上げた。(215)

nags gnas rje'i「森に住む主の」 ラーマナの弟ラグマナのことを指している（'Bab stegs 185.17）。

bde ldan「幸せな生活」 ラーマナがシーターと森で過ごした時の幸せな生活のことである（'Bab stegs 185.18）。

srad bu「織り糸」 詩を構成する言葉（tshig）を「織り糸」という隠喩で表現している。「織り糸」という比喩基準のみが示され、それによって暗示される比喩対象は明示されない。非明示的隠喩（sbas pa'i gzugs can）の技法が用いられている（Track 35, 12:40）。

མང་ཐོས་དྲི་མེད་སྒྲིབ་སྦྲུང་ལྷགས་བརྒྱ་ཅན། །
 སྦྲོབས་པའི་དྲིགས་པ་ལོ་ནས་འདི་བྱས་སོ། །
 ས་བདག་སྤྲས་པོ་ལྟ་རྩེད་ལ་ཆགས་པ། །
 ཀྱང་འཇུང་རྩ་ནས་འབྱིན་ཅིང་པ་བོང་འདེགས། །
 བྱད་དང་ཉེ་བར་བསྐྱེད་བྱེད་གཅོད་འབྲེག་སོགས། །
 རྩལ་གྱིས་པ་ལོ་གཞོན་པ་མ་མཐོང་ངམ། །

216d: རྩ ཟ; རྩད་ Thimphu. ཅིང་ ཟ; ལོང་ Thimphu.

216e: བྱད་ ཟ; བྱ Thimphu. བསྐྱེད་ ཟ; སྦྲོབ་ Mkha', Thimphu, Bkra. འབྲེག་ ཟ; འདེག་ Thimphu.

過誤に染まらずに多くを学び幾百もの作詩法を習得したので
 私は過剰な自信に基づく慢心だけで本書を著作した。
 遊びに夢中になった王子が
 樹を根から抜き取ったり岩を持ち上げたり
 力比への相手と対戦して切り刻む行為などの
 技で相手を負かすのを見たことないだろうか。(216)

rkang 'thung rtsa nas 'byin cing...「樹を根から抜き取ったり…」 六十四芸（sgyu rtsal drug cu rtsa bzhi）に含まれる様々な技芸が挙げられている（'Bab stegs 186.16ff.）。

gcod 'breg sogs「切り刻む行為など」 ジャバの註釈によれば、力比への相手の手足を切り刻む行為（pha rol ba'i yan lag gcod pa dang 'breg par byed pa）のことである（Mun sel 348.12ff.）。詳細は不明である。

ངག་གི་སྒྲིབ་པ་འདི་ཡིས་མ་བསྐྱེད་པའི། །
 ཅ་ཅོད་དྲི་མེད་ར་རི་འཛིན་ན་ཡང་། །
 ལྷན་གྱུབ་སྦྲོབས་པའི་འོད་རིགས་འབར་བ་ཡིས། །
 ཉེས་པའི་སྐྱེད་པས་ཀླུ་ཡང་བརྩི་མི་འགྱུར། །

217b: དྲི་མེད་ར་རི་ ཟ; དྲི་མེད་རང་གིས་ Thimphu.

217c: རིགས་ ཟ; རིས་ Thimphu.

この言葉という月が制圧できない
 騒音のけがれという黒斑を持つとしても
 生まれながらの弁才という光の網が輝きを放つならば
 過失という暗闇に侵食されることは決してない。(217)

ca co'i dri ma'i ra ri「騒音のけがれという黒斑」 本作品は世俗的な内容に関するものであるため「騒音」（ca co, *kolāhala）と表現されている。ここでは「騒音」が「けがれ」（dri ma）に喩え

られ、さらに「けがれ」が「黒斑」(ra ri) に喩えられている。二重隠喩 (gzugs can gyi gzugs can / gzugs can 'phar ma) の構造になっている (Track 35, 22:00)。

nyes pa'i mun pas nam yang brdzi mi 'gyur 「過失という暗闇に侵食されることは決してない」
 仏教的な観点から言えば、王族、戦争、強奪、女性、恋愛といった世俗的な内容を扱う物語に没頭するのはあまり推奨されることではないが、高度な技法を用いて綴られた美文詩には、そうした非難をも超越する力がある、という意味である ('Bab stegs 187.8ff.)。

ྐུལ་པོ་^[1] རྣམ་ཆའི་གཏམ་གྱི་རྒྱུད་ལས་བཅུམས་པའི་སྣམ་ངག་^[2] གི་བསྟན་བཅོས་དྲི་ཟའི་བུ་མོའི་རྒྱུད་མངས་གྱི་^[3]
 སློང་བྱངས་ཞེས་བྱ་བ་འདི་ནི། ཤེས་བྱའི་དཀྱིལ་འཁོར་མ་ལུས་པ་དྲི་མ་མེད་པའི་རིགས་^[4] པའི་མིག་གིས་ལྟ་བུ་ལ་
^[5] མཁས་པའི་མདུན་སར་ཕྱོགས་ལས་རྣམ་པར་རྒྱལ་བའི་དཔལ་ཐོབ་ཅིང་ཐ་སྟོན་གྱི་གཙུག་ལག་མ་ལུས་པའི་ཕ་རོལ་
 ཏུ་སོན་པའི་^[6] མཁས་པའི་སྤྱོད་ལོ་མཐའ་དག་གིས་^[7] ཞབས་གྱི་པད་མོ་ལ་ཕྱག་བྱས་པ། ཡུལ་བྱང་ཕྱོགས་^[8] གྱི་རྒྱུད་
 ཏུ་བྱང་བའི་སྣམ་ངག་^[9] མཁས་ཞང་ལུང་^[10] ཚོས་དབང་གྲགས་པའི་དཔལ་གྱིས་སངས་རྒྱུས་བཅོམ་ལྷན་འདས་མངོན་
 པར་རྫོགས་པར་སངས་རྒྱས་ནས་ལོ་ཉིས་སྟོང་སྟུམ་^[11] བརྒྱ་བཅུ་དྲུག་ཏུ་སོན་པ་ས་པོ་རྟའི་ལོ་འབྲོག་རི་བོ་ཆེ་དགའ་
 ལྷན་རྣམ་^[12] པར་རྒྱལ་བའི་གྲིང་ཏུ་རྣམ་པར་བཞེབས་པའོ། །

[1]: རྒྱལ་པོ་ ཟ; ཞེས་རྒྱལ་པོ་ཆེན་པོ་ Thimphu.

[2]: ངག་ Zhal, Thimphu; དངགས་ Gser, Mkha', Bkra.

[3]: མངས་གྱི་ ཟ; མང་གི་ Zhal.

[4]: རིགས་ ཟ; རིག་ Thimphu.

[5]: ལྟ་བུ་ལ་ ཟ; བལྟ་བ་ Thimphu.

[6]: སོན་པའི་ ཟ; སོན་པས་ Thimphu.

[7]: གིས་ Zhal, Thimphu; གི་ Gser, Mkha', Bkra.

[8]: ཡུལ་བྱང་ཕྱོགས་ ཟ; བྱང་ཕྱོགས་ Thimphu.

[9]: ངག་ ཟ; དངགས་ Gser, Mkha', Bkra.

[10]: ལུང་ Zhal; ལུང་པ་ Gser, Mkha', Bkra; ལུགས་པ་ Thimphu.

[11]: སྟུམ་ ཟ; གསྟུམ་ Thimphu.

[12]: རྣམ་ ཟ; རྣམས་ Thimphu.

『ラーマナ王伝説に基づく詩書・ガンダルヴァの天女が奏でるヴィーナーの音色』と題する本書は、所知の全体を余す所なくけがれのない論理という眼で見ることに通暁する賢者の集会の中、諸方に打ち勝つ栄光を手にし言葉の学に関する理論書を残さず極めた学者達の皆から足下の蓮華に向かって頂礼を受ける者、北方の地の家系に生まれた詩人シャンシュン・チューワン・タクパー・パルにより、仏世尊が正等覚に達してから2316年後、戊午年 (sa pho rta'i lo, 西暦1438年) に寂静処なる大本山ガンデン・ナムパル・ギエルウェー・リンにて著作されたものである。

略号と文献

前稿（根本・扎布2021）で既に示した文献を省略し、新出文献のみを挙げる。

(1) 一次資料

(1-1) インド撰述文献

MA *Madhyamakāvataṛa* (Candrakīrti): see Yonezawa 2020.

MA_P *Madhyamakāvātārikā* (Candrakīrti): Tibetan Peking ed. *mdo 'grel.* 'A. Otani No. 5261.

R *Ratnaśrīṭīkā* (Ratnaśrījñāna): Anantalal Thakur and Upendra Jha eds. *Kavayalakṣaṇa of Daṇḍin (Also Known as Lāvyādarśa) with Commentary Called Ratnaśrī of Ratnaśrījñāna*. Darbhanga: Mithila Institute of Post-Graduate Studies and Research in Sanskrit Learning. 1957.

(1-2) チベット撰述文献

Dper brjod *Snyan ngag me long gzhung gi bstan pa'i dper brjod legs par bshad pa'i sgra dbyangs rgya mtsho'i 'jug ngogs* (Bod mkhas pa mi pham dge legs rnam rgyal). In *Snyan ngag gi bstan bcos chen po me long la 'jug pa'i bshad sbyar daṇḍi'i dgongs rgyan* (pp. 422–493). Xining: Mtsho sngon mi rigs dpe skrun khang. 2004.

(2) 二次資料

(2-1) 欧文資料

Gerow, Edwin
1971 *A Glossary of Indian Figures of Speech*. Paris: Mouton.

Yonezawa, Yoshiyasu
2020 “A Textual Study of the **Lakṣaṇaṭīkā*.” PhD diss., Leiden University.

(2-2) 和文資料

根本裕史・扎布
2021 「『ラーマナ王物語』研究：解題および前半部の訳註」『比較論理学研究』18: 7–68.

(ねもと ひろし、広島大学 [インド哲学]・ジャブ、青海師範大学)

A Study of the *Rā ma ṅa'i gтам rgyud*: An Analysis of Rhetoric and an Annotated Translation of the Second Part

NEMOTO Hiroshi, RGYA YE BKRA BHO

This article contains an annotated Japanese translation of the *Rā ma ṅa'i gтам rgyud* of Zhang zhung chos dbang grags pa, together with an introductory analysis of its rhetoric. The first half of the *Rā ma ṅa'i gтам rgyud* is translated in our previous paper. Therefore the remaining portion appears here.

Like many other Tibetan texts written in poetic verse, the *Rā ma ṅa'i gтам rgyud* is composed in accordance with the theory of Daṇḍin's *Kāvyaḍarśa*. Poetic ornaments (*rgyan*, *alaṅkāra*) such as simile (*dpe*, *upamā*), metaphors (*gzugs can*, *rūpaka*), poetic fancy (*rab rtog*, *utprekṣā*), concise speech (*bsdus brjod*, *samāśokti*), repetition of syllables (*zung ldan*, *yamaka*) and so forth, all of which are prescribed in the *Kāvyaḍarśa*, appear throughout the work. But what attracts our attention is that Chos dbang grags pa frequently uses a rhetorical device that is not prescribed by Daṇḍin. Don grub rgyal, a twentieth century scholar and writer, calls it “an implicit metaphor” (*sbas pa'i gzugs can*). This is a metaphor where what compares (*dpe*) is explicitly stated but the subject of comparison (*dpe can*) is not, as in *lag sor nyi 'od tshogs kyis ni pad ma'i tshal 'di mngon par phye* (“The fingers of their hands, bundles of sunlight, made this lotus garden [= the box Sītā was trapped in] bloom.”).

This technique, which gives the readers a sense of intermingling reality and illusion, has the effect of intensely expressing the emotions of each character. The fact that implicit metaphors are used so often indicates that the *Rā ma ṅa'i gтам rgyud* is written for the readers who already know the plot of the story.

The reason that the *Rā ma ṅa'i gтам rgyud* is written by the Dge lugs Buddhist monk scholar Chos dbang grags pa is not clear. It is unlikely that the author composed this work for enlightening or educational purposes. Rather he must have created this work for the purpose of self-discipline or for the completion of his ideal world of art. At the root of the *Rā ma ṅa'i gтам rgyud* must have been the spirit of *l'art pour l'art*.